

輝けきみの明日

—特別支援学校版—

令和6年度入学生にむけて

目 次

1 特別支援学校の概要

2 県立特別支援学校高等部入学者選抜の流れ

3 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について

4 神奈川県内の特別支援学校の紹介

○ 県立平塚盲学校	13	○ 県立湘南支援学校	47
○ 県立平塚ろう学校	14	○ 県立秦野支援学校	48
○ 県立鶴見支援学校	15	○ 県立鎌倉支援学校	49
○ 県立鶴見支援学校岸根分教室	16	○ 県立鎌倉支援学校金井分教室	50
○ 県立横浜南支援学校	17	○ 県立藤沢支援学校	51
○ 県立保土ケ谷支援学校	18	○ 県立藤沢支援学校鎌倉分教室	52
○ 県立保土ケ谷支援学校舞岡分教室	19	○ 県立小田原支援学校	53
○ 県立保土ケ谷支援学校横浜平沼分教室	20	○ 県立小田原支援学校大井分教室	54
○ 県立金沢支援学校	21	○ 県立小田原支援学校湯河原校舎	55
○ 県立金沢支援学校横浜氷取沢分教室	22	○ 県立茅ヶ崎支援学校	56
○ 県立みどり支援学校	23	○ 県立伊勢原支援学校	57
○ 県立みどり支援学校新栄分教室	24	○ 県立伊勢原支援学校伊志田分教室	58
○ 県立あおば支援学校	25	○ 県立えびな支援学校	59
○ 県立瀬谷支援学校	26	○ 県立座間支援学校	60
○ 県立瀬谷支援学校大和東分教室	27	○ 県立座間支援学校有馬分教室	61
○ 県立瀬谷支援学校大和南分教室	28	○ 県立座間支援学校相模向陽館分教室	62
○ 県立三ツ境支援学校	29	○ 横浜市立盲特別支援学校	63
○ 県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室	30	○ 横浜市立ろう特別支援学校	64
○ 県立横浜ひなたやま支援学校	31	○ 横浜市立港南台ひの特別支援学校	65
○ 県立中原支援学校	32	○ 横浜市立本郷特別支援学校	66
○ 県立中原支援学校住吉分教室	33	○ 横浜市立日野中央高等特別支援学校	67
○ 県立高津支援学校	34	○ 横浜市立二つ橋高等特別支援学校	68
○ 県立高津支援学校生田東分教室	35	○ 横浜市立上菅田特別支援学校	69
○ 県立高津支援学校川崎北分教室	36	○ 横浜市立中村特別支援学校	70
○ 県立麻生支援学校	37	○ 横浜市立若葉台特別支援学校	71
○ 県立麻生支援学校元石川分教室	38	○ 横浜市立北綱島特別支援学校	72
○ 県立津久井支援学校	39	○ 横浜市立東俣野特別支援学校	73
○ 県立相模原支援学校	40	○ 横浜市立左近山特別支援学校	74
○ 県立相模原支援学校橋本分教室	41	○ 川崎市立聾学校	75
○ 県立相模原中央支援学校	42	○ 川崎市立中央支援学校	76
○ 県立岩戸支援学校	43	○ 川崎市立中央支援学校分教室	77
○ 県立武山支援学校	44	○ 川崎市立田島支援学校	78
○ 県立武山支援学校津久井浜分教室	45	○ 横須賀市立ろう学校	79
○ 県立平塚支援学校	46	○ 藤沢市立白浜養護学校	80

問合せ先

本書に対するお気づきの点やご意見については、下記までお知らせください。また、各学校について、もっと詳しく知りたい場合には、それぞれの学校にお問合せください。（巻末資料参照）

なお、これ以外の大学附属・私立の特別支援学校については、それぞれの学校にお問合せください。

神奈川県教育委員会教育局支援部特別支援教育課
住所 横浜市中区日本大通 1 （〒231-8588）
電話 （045）210-8288（直通）

1 特別支援学校の概要

特別支援学校は、どのような学校ですか。

平成 19 年 4 月に施行された学校教育法の一部改正により、児童・生徒等の障害の重複化に対応した教育を適切に行うため、障害種別を超えた対応ができるように、それまでの「盲学校」「聾学校」「養護学校」は、「特別支援学校」と名称を変えました。（神奈川県立の特別支援学校は、令和 5 年 4 月に、23 校が「養護学校」から「支援学校」へと名称を変更しました。個々の学校の名称は変更しなくてもよいことになっており、一部の市立特別支援学校は名称を変更していません。）

特別支援学校では、障害のある子どもたちの様々な教育的ニーズに応じたきめ細かい教育を行っており、子どもたちの自立と社会参加を目指し、個に応じた指導を行っています。

それぞれの学校には、高等部が設置されており、視覚障害教育部門・聴覚障害教育部門には専攻科が設置されているところもあります。また、障害の状態により、学校に通って教育を受けることが困難な場合もあるため、訪問教育（注）を行っている学校もあります。

視覚障害教育部門

視覚障害教育部門では、視覚障害のある生徒に対する教育を行います。文字を「拡大する」ことや「手で触る」ことが必要な場合もあるため、特別に用意した各種の教材教具を活用して学習を行っています。また、教科等の学習のほかに、日常生活や歩行のための指導、点字や情報機器の活用技能を高める指導等も行っており、一人ひとりの可能性を引き出せるよう配慮しています。専攻科では、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師などの資格取得を目指した職業教育を行っています。

聴覚障害教育部門

聴覚障害教育部門では、聴覚障害のある生徒に対する教育を行います。教科等の学習のほかに、補聴器等を使って、残された聞こえの力を最大限にいかすための学習、話し言葉を身に付けるための学習、相手の口の形を見て言葉を読み取る学習など、一人ひとりの特性に応じて学習を進めています。高等部には、普通科や多様な職業科が設置されており、本人の適性や希望に応じて知識技術を習得しています。職業科では、総合デザイン科、情報ビジネス科などを専門的に学び、高等部本科を修了してから更に二年間の専攻科が設置されている学校もあります。

知的障害教育部門

知的障害教育部門では、知的障害のある生徒に対する教育を行います。一人ひとりの特性に応じた指導形態や方法を取り入れた学習を行っています。また、日常生活に必要な習慣や知識を身に付ける指導や、人とのかかわり方を身に付ける指導にも取り組んでいます。高等部では教科等の学習のほかに、家庭生活や職業生活に必要な技能や態度を養うための学習や、職場実習などの経験をとおして自立と社会参加を目指す指導が行われています。

肢体不自由教育部門

肢体不自由教育部門では、肢体不自由のある生徒に対する教育を行います。教科を中心とした学習をしたり、自立活動を中心とした学習をしたりするなど、一人ひとりの特性に応じて学習が進められるようにしています。施設・設備面で様々な配慮を行い、指導にあたっては教材・教具を工夫したり、情報機器を活用したりしています。また、自立的な活動を促進するために感覚機能・運動機能などを向上させる指導に力を入れるとともに、健康面や安全面に配慮した指導を行っています。

病弱教育部門

病弱教育部門では、病気の生徒やからだが弱く治療や生活規制が必要なため長期にわたって病院に入院している生徒に対する教育を行います。一人ひとりの病状や体力等に十分配慮した上で、ベッドサイドや病院内の指導教室、隣接の学校の教室等で教科を中心に学習を進めています。医療機関と密接に連携を図り、一人ひとりの病状や入院期間・情緒面にも配慮しながら指導を行っています。なお、病弱教育部門の高等部は訪問教育（注）のみです。

（注）訪問教育：特別支援学校では、障害の状態等により、学校に通って教育を受けることが困難な生徒に対し、教員が家庭等に出向いて指導を行う訪問教育を行っています。

＊公立特別支援学校は、授業料はかかりません。

＊特別支援学校の在籍者は、就学奨励費の支給対象となります。

2 県立特別支援学校高等部入学者選抜の流れ

月	知的障害教育部門	肢体不自由教育部門 (訪問教育)	視覚障害教育部門 聴覚障害教育部門
	学校のホームページによる情報提供		
6月	学校見学・説明会		
7月	希望の確認 知的障害教育部門への入学を希望する方は、その旨を中学校へお申し出ください		
8月	希望の変更 希望を変更する場合は、随時中学校へ相談ください		
9月	一次募集（前期選抜）志願相談 「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」の実施	教育相談の実施 志願予定の学校で教育相談を受けてください	
10月	志願予定の学校で志願相談を受けてください		
11月	一次募集（前期選抜）願書配付 志願予定の学校で願書を受け取ってください	願書配付	教育相談
	一次募集（前期選抜）募集期間 志願する学校へ願書を提出してください	募集期間	
	一次募集（前期選抜）志願調整期間 募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます	志願調整期間	
12月	一次募集（前期選抜）・合格発表	選抜・合格発表	
	一次募集（後期選抜）・二次募集 志願相談 (一次募集（後期選抜）・二次募集願書配付)		願書配付
1月	一次募集（後期選抜）募集期間 一次募集（後期選抜）志願調整期間		募集期間
	一次募集（後期選抜）・合格発表		選抜・合格発表
2月			
3月	二次募集 募集期間・志願調整期間		
	二次募集・合格発表		

3 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について

1 基本的な考え方

- (1) 多様な学びの場のしくみを推進していきます。
- (2) 特別支援学校高等部（知的障害教育部門）への入学を希望する者で、志願資格に該当する者は全員受け入れます。
- (3) ただし、志願が一部の学校に集中しないよう、在籍している学校と相談しながら、志願先の決定を支援していきます。

2 入学者選抜について

(1) 一次募集（前期選抜）

選抜実施校	県立特別支援学校のうち、高等部（知的障害教育部門）で実施します。
募集人数	○ 令和5年11月中旬に公表します。 ○ 在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○ 県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次のすべての項目に該当する者です。 ア 本人及び保護者（親権者又は後見人をいう。以下同じ。）が県内に居住する者です。 イ 中学校、義務教育学校、特別支援学校中学部を卒業若しくは中等教育学校の前期課程を修了した者、令和6年3月31日までに卒業又は修了する見込みの者、又はこれと同等以上の学力があると認められた者です。 ウ 知的発達の遅滞の程度が(ア)又は(イ)のいずれかに該当する者 (ア) 知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度の者です。（他に障害を併せ有する場合には、その障害の程度が軽度である者に限る。） (イ) 知的発達の遅滞の程度が(ア)に掲げる程度に達しない者のうち、社会生活への適応が著しく困難な者です。（他に障害を併せ有する場合には、その障害の程度が軽度である者に限る。） エ 志願しようとする特別支援学校の指定地域、指定する施設又は調整地域に居住している者（各特別支援学校の指定地域、指定する施設及び調整地域は別表のとおりとする。）です。 オ 特別支援学校で実施する一次募集（前期選抜）に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。 カ 横浜市立日野中央高等特別支援学校、横浜市立二つ橋高等特別支援学校、横浜市立若葉台特別支援学校、又は川崎市立中央支援学校分教室の令和6年度入学者選抜の志願をしない者です。
志願相談	○ 各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」を実施します。 ○ 志願を予定している学校で志願相談を受けてください。 ○ 在籍校をとおして申し込んでください。
志願方法	○ 志願できる学校は1校です。 ○ 志願先の学校に入学願書を提出します。（入学願書は指定した期間内に各特別支援学校で配付します。在籍校から案内があります。写真の貼付が必要です。） ○ 志願調整期間中には、募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます。

選抜日程	○ 志願相談受付期間：令和5年9月4日（月）～10月16日（月） ○ 志願相談期間：令和5年9月7日（木）～10月20日（金） ○ 願書配付期間：令和5年11月8日（水）～11月10日（金） ○ 募集期間：令和5年11月20日（月）～11月22日（水） ○ 志願調整期間：令和5年11月24日（金）・11月27日（月） ○ 選抜日：令和5年12月7日（木） ○ 選抜予備日：令和5年12月8日（金）～12月15日（金） のうち、各学校が指定する日 ○ 合格発表日（合格通知発送日）：令和5年12月14日（木） ～12月18日（月）
選抜内容及び 選抜方法	○ 選抜日に、(1)学力検査、(2)体力・運動能力の検査、(3)面接（本人及び保護者）、(4)その他校長が指定する内容を実施します。 ○ 万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。（入学先が決まらなかった者は、一次募集（後期選抜）を志願してください。）
抽選を実施する場合の特例規定	○ 基本的な考え方に基づき、より支援が必要な者ができるだけ指定地域の近くの学校で学ぶことを目的とするため特例規定を定めています。 ○ 次に該当する受検者は、特例扱いとし、原則として抽選の対象とはなりません。 【特例規定】 別表の「指定地域」に居住する者若しくは「指定する施設」に入所している者又は入所が決まっている者のうち、療育手帳A1、A2及びB1の取得者。ただし、療育手帳B1の取得者は、療育手帳A1、A2及びB1の取得者の総数が募集人数に満たない場合に限り、特例規定に該当することとします。 ○ 県立特別支援学校分教室の受検者には、特例規定は該当しません。 ○ ただし、小田原支援学校湯河原校舎については、本校と同じ扱いとします。

（2）一次募集（後期選抜）

選抜実施校	○ 一次募集（前期選抜）終了後に公表します。
募集人数	○ 一次募集（前期選抜）終了後に公表します。 ○ 在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○ 県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次の項目に該当する者です。 ○ 一次募集（前期選抜）の志願資格のアからウの全てに該当する者です。 ○ 県立の特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の令和6年度一次募集（前期選抜）を志願した者又は県内の市立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の令和6年度入学者選抜を志願した者のうち、合格になっていない者です。（志願したものの自ら受検しなかった者、合格を辞退した者を除きます。） ○ 特別支援学校で実施する一次募集（後期選抜）に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。
志願相談	○ 各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」を実施します。 ○ 志願を予定している学校で志願相談を受けてください。

志願方法	○ 志願できる学校は1校です。 ○ 志願先の学校に入学願書を提出します。(入学願書は、志願相談終了後に、その場で配付します。写真の貼付が必要です。) ○ 志願調整期間中には、募集人数より志願者が少ない学校に志願変更ができます。
選抜日程	○ 志願相談受付期間：令和5年12月21日(木)・12月22日(金) ○ 志願相談期間：令和5年12月22日(金)～令和6年1月10日(水) ○ 募集期間：令和6年1月11日(木)・1月12日(金) ○ 志願調整期間：令和6年1月15日(月)・16日(火) ○ 選抜日：令和6年1月18日(木) ○ 選抜予備日：令和6年1月19日(金)～1月26日(金) のうち、各学校が指定する日 ○ 合格発表日(合格通知発送日)：令和6年1月25日(木) ～1月29日(月)
選抜内容及び 選抜方法	○ 選抜日に、(1)学力検査、(2)体力・運動能力の検査、(3)面接(本人及び保護者)、(4)その他校長が指定する内容を実施します。 ○ 万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。
抽選を実施する場合の特例規定	○ 特例規定はありません。

(3) 二次募集

選抜実施校	○ 一次募集(後期選抜)終了後に公表します。
募集人数	○ 一次募集(後期選抜)終了後に公表します。 ○ 在籍する中学校又は特別支援学校から情報提供があります。 ○ 県教育委員会のホームページで公表します。
志願資格	次の項目に該当する者です。 ○ 一次募集(前期選抜)の志願資格のアからウの全てに該当する者です。 ○ 国公立の特別支援学校及び高等学校(高等専門学校を含む)の合格になっていない者です。(合格を辞退した者を除きます。) ○ 特別支援学校で実施する二次募集に係る「特別支援学校への志願資格を確認するための相談」を済ませた者です。
志願相談	○ 各特別支援学校で、「特別支援学校への志願資格を確認するための相談(志願相談)」を実施します。(なお、志願相談では一次募集(前期選抜)の志願資格のアからウについて確認をします。二次募集のその他の志願資格については募集期間に入学願書で確認します。) ○ 志願する者は指定する学校で志願相談を受けてください。
志願方法	○ 志願できる学校は1校です。 ○ 志願先の学校に入学願書を提出します。(入学願書は、志願相談終了後に、その場で配付します。写真の貼付が必要です。)
選抜日程	○ 志願相談受付期間：令和5年12月21日(木)・12月22日(金) ○ 志願相談期間：令和5年12月22日(金)～令和6年1月10日(水) ○ 募集期間：令和6年3月4日(月)・3月5日(火) ○ 志願調整期間：令和6年3月6日(水) ○ 選抜日：令和6年3月7日(木) ○ 選抜予備日：令和6年3月8日(金)～3月15日(金) のうち、各学校が指定する日 ○ 合格発表日(合格通知発送日)：令和6年3月14日(木) ～3月18日(月)

選抜内容及び選抜方法	☐ 別途指定する内容を、選抜日に実施します。 ☐ 万一、志願者数が募集人数を上回った場合には、選抜日に抽選を実施します。
抽選を実施する場合の特例規定	☐ 特例規定はありません。

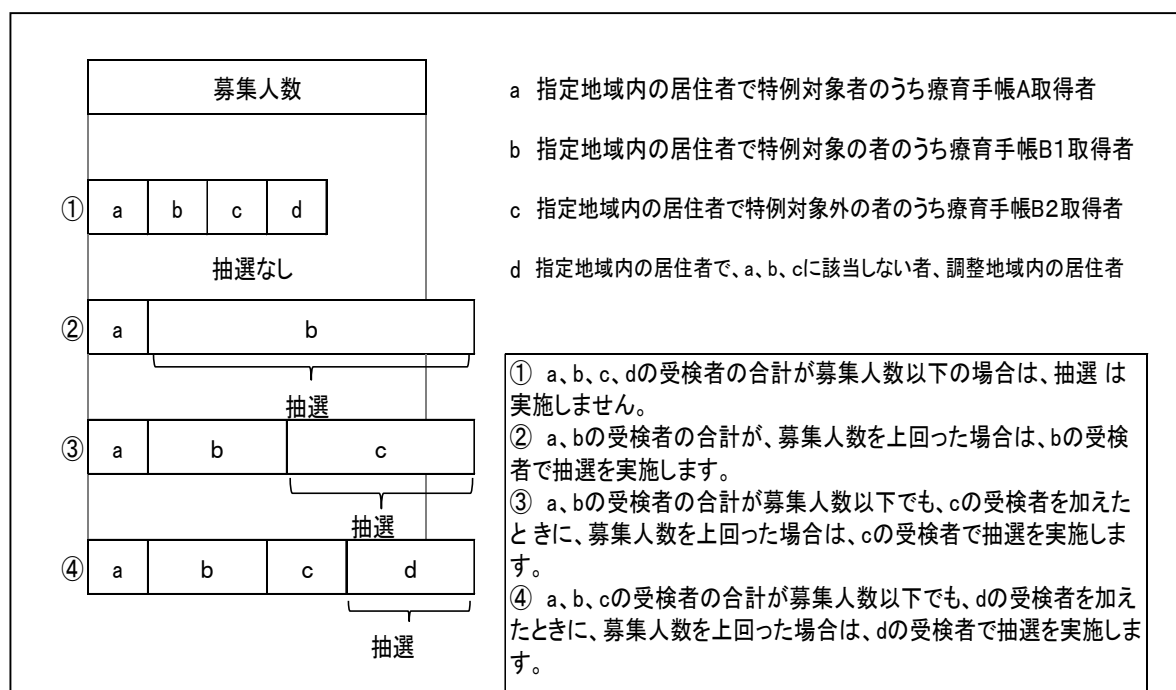
3 志願者数が募集人数を上回った場合の対応について

抽選の基本的な考え方

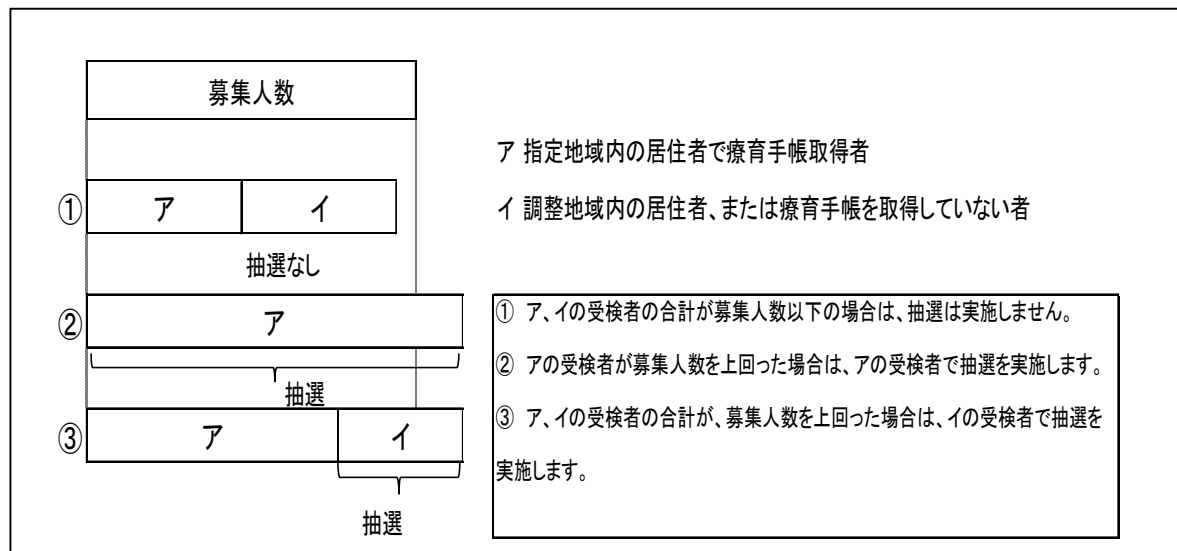
- (1) 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜制度では、入学を希望する者で志願資格に該当する者は全員受け入れます。ただし、志願が一部に集中しないよう、在籍している学校と相談しながら、志願先の決定を支援していきます。この基本的な考え方から、各特別支援学校で募集人数を定めています。
- (2) 志願者数が募集人数を上回った場合に抽選を実施します。入学先が決まらなかった者は志願先を変更することになります。

(1) 一次募集（前期選抜）

【県立特別支援学校本校及び県立小田原支援学校湯河原校舎の場合】

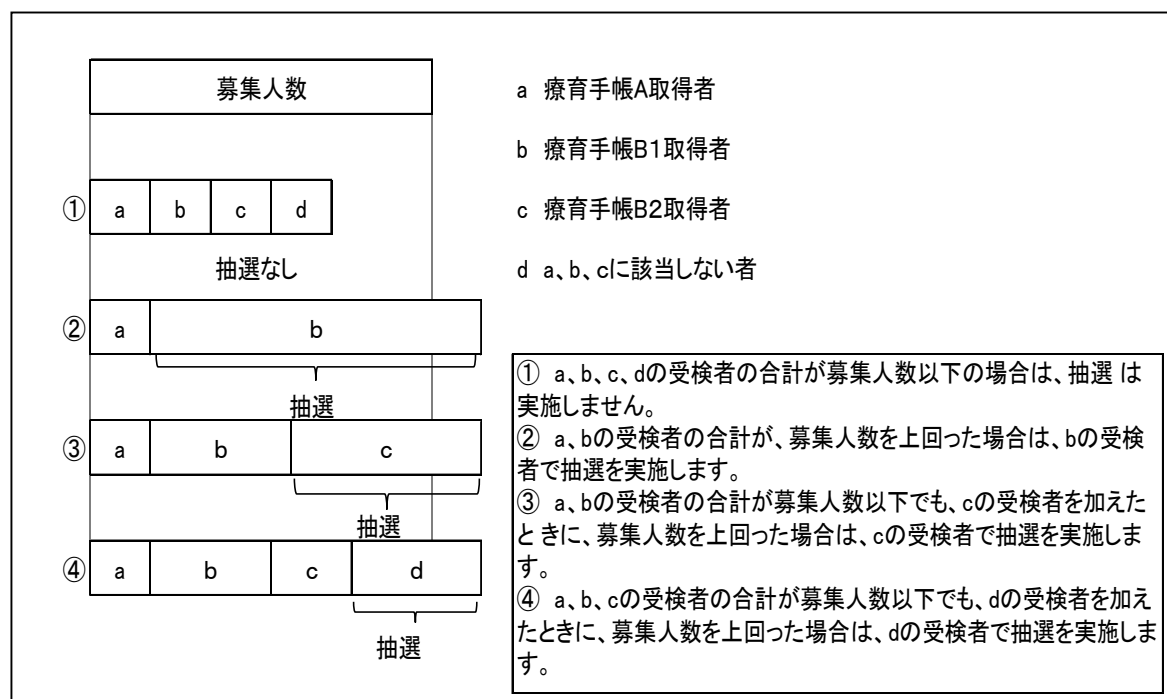


【県立特別支援学校分教室の場合】



(2) 一次募集（後期選抜）及び二次募集

【県立特別支援学校本校及び県立小田原支援学校湯河原校舎の場合】



【県立特別支援学校分教室の場合】

- 居住地域、所持手帳の等級に関係なく、志願者全員で抽選を実施します。

4 県立特別支援学校分教室について

- (1) 県立高等学校内で教育活動を展開しています。特別支援学校本校とは施設設備等の教育環境が異なることから、次の2項目を条件とします。

- ① 「集団活動中心の学習が可能であること（健康面・生活面で常時の配慮を必要としないこと）」
- ② 「自力通学が可能であること」

- 「集団活動中心の学習が可能であること（健康面・生活面で常時の配慮を必要としないこと）」、「自力通学が可能であること」の2項目を条件として「特別支援学校への志願資格を確認するための相談（志願相談）」時に志願資格を確認させていただきます。
- なお、給食がないので、昼食を用意していただきます。

5 その他

- (1) 選抜予備日以外の選抜日程は、土曜日、日曜日、祝日等の閉庁日を除きます。
- (2) 中学校又は特別支援学校中学部の既卒者の受検について
既に、中学校又は特別支援学校中学部を卒業した方で、県立特別支援学校の受検を希望する者は、特別支援教育課が相談窓口となります。状況により、希望に添えない場合があります。

別表

令和6年度 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の指定地域等

学 校 名	教 室 名 等	指定地域及び指定する施設	調 整 地 域
神奈川県立鶴見支援学校	本 校	横浜市鶴見区、横浜市神奈川区、横浜市港北区、川崎市川崎区、川崎市幸区、川崎市中原区	「指定地域」以外の地域（注2）
	岸根分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立保土ヶ谷支援学校	本 校	横浜市西区、横浜市中区、横浜市南区、横浜市港南区、横浜市保土ヶ谷区、横浜市戸塚区、すみれ園	
	舞岡分教室	横浜市	
	横浜平沼分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立金沢支援学校	本 校	横浜市磯子区、横浜市金沢区、横須賀市（注1）、横浜訓盲院	
	横浜氷取沢分教室	横浜市	
神奈川県立みどり支援学校	本 校	横浜市神奈川区、横浜市旭区、横浜市港北区、横浜市緑区、横浜市都筑区、ぶどうの実	
	新栄分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立あおば支援学校	本 校	横浜市青葉区、横浜市都筑区、横浜市緑区、川崎市麻生区	
神奈川県立瀬谷支援学校	本 校	横浜市旭区、横浜市泉区、横浜市瀬谷区、大和市、ぽらいと・えき、くるみ学園	
	大和東分教室	横浜市、相模原市、藤沢市、大和市、綾瀬市	
	大和南分教室	横浜市、藤沢市、大和市、綾瀬市	
神奈川県立三ツ境支援学校	本 校	横浜市保土ヶ谷区、横浜市旭区、横浜市泉区、横浜市西区、横浜市瀬谷区、大和市	
	横浜緑園分教室	横浜市、大和市、藤沢市	
神奈川県立横浜ひなたやま支援学校		横浜市戸塚区、横浜市泉区、横浜市瀬谷区、相模原市南区（注3）、藤沢市、大和市	
神奈川県立中原支援学校	本 校	横浜市鶴見区、横浜市港北区、川崎市幸区、川崎市中原区、川崎市高津区、川崎市中央療育センター	
	住吉分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立高津支援学校	本 校	横浜市港北区、横浜市都筑区、川崎市中原区、川崎市高津区、川崎市宮前区、川崎市多摩区、川崎市麻生区	
	生田東分教室	横浜市、川崎市	
	川崎北分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立麻生支援学校	本 校	横浜市青葉区、横浜市都筑区、川崎市高津区、川崎市宮前区、川崎市多摩区、川崎市麻生区	
	元石川分教室	横浜市、川崎市	
神奈川県立津久井支援学校		相模原市緑区	
神奈川県立相模原支援学校	本 校	相模原市緑区、相模原市中央区、相模原市南区、厚木市、愛甲郡愛川町、相模はやぶさ学園	
	橋本分教室	相模原市、厚木市、座間市、愛甲郡愛川町	
神奈川県立相模原中央支援学校		相模原市中央区、相模原市南区の一部（注4）	

神奈川県立岩戸支援学校		横浜市金沢区、横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町、三浦しらとり園	「指定地域」以外の地域（注２）
神奈川県立武山支援学校	本 校	横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町、三浦しらとり園	
	津久井浜分教室	横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町	
神奈川県立平塚支援学校		平塚市、秦野市、中郡大磯町、中郡二宮町、精陽学園、子ども自立生活支援センター	
神奈川県立湘南支援学校		平塚市、小田原市、中郡大磯町、中郡二宮町、足柄上郡中井町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
神奈川県立鎌倉支援学校	本 校	横浜市港南区、横浜市戸塚区、横浜市栄区、横浜市磯子区、鎌倉市、藤沢市、逗子市	
	金井分教室	横浜市、鎌倉市、藤沢市、逗子市	
神奈川県立藤沢支援学校	本 校	横浜市泉区、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、高座郡寒川町	
	鎌倉分教室	鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市	
神奈川県立小田原支援学校	本 校	小田原市、南足柄市、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町、光海学園、わらべの杜	
	大井分教室	小田原市、南足柄市、中郡大磯町、中郡二宮町、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町、秦野市	
	湯河原校舎	足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
神奈川県立茅ヶ崎支援学校		茅ヶ崎市、高座郡寒川町	
神奈川県立秦野支援学校		秦野市、平塚市、小田原市、南足柄市、足柄上郡中井町、足柄上郡大井町、足柄上郡松田町、足柄上郡山北町、足柄上郡開成町、足柄下郡箱根町、足柄下郡真鶴町、足柄下郡湯河原町	
神奈川県立伊勢原支援学校	本 校	厚木市、伊勢原市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村、平塚市、海老名市、七沢学園	
	伊志田分教室	平塚市、厚木市、伊勢原市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村	
神奈川県立えびな支援学校		厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、高座郡寒川町	
神奈川県立座間支援学校	本 校	相模原市中央区、相模原市南区、海老名市、座間市、綾瀬市、愛甲郡愛川町、愛甲郡清川村、厚木市	
	有馬分教室	相模原市、茅ヶ崎市、厚木市、海老名市、座間市、綾瀬市、高座郡寒川町	
	相模向陽館分教室	相模原市、藤沢市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市	

※1 「指定地域」からの志願を原則とする。

※2 「指定する施設」に入所する者で分教室を志願する者又は「指定する施設」を除く他の施設に入所している者については、その施設の所在地で地域を確認する。

※3 入学資格のある者が募集人数より多い場合は、抽選により入学者を決定する。

(注1) 横須賀線以北に居住している者に限る。

(注2) 通学時間や災害時の対応等を考慮して判断する。

(注3) 最寄駅が小田急江ノ島線の地域に居住している者に限る。

(注4) 相模原市中央区内に所在する中学校の通学区域に居住している者に限る。

4 神奈川県内の特別支援学校の紹介



神奈川県立

ひ ら つ か も う が つ こ う
平 塚 盲 学 校

所在地：〒254-0047 平塚市追分 10-1

電 話：0463-31-0948

F A X：0463-31-5996

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsuka-sb

創 立：明治 43 年 4 月 9 日（中郡盲人学校として）

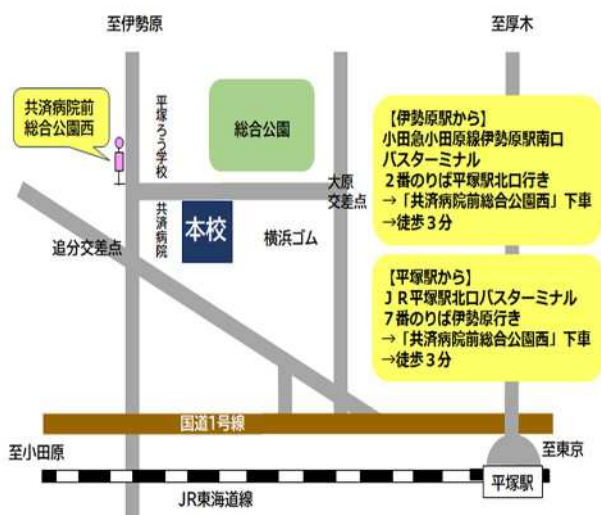
学 部：幼稚部・小学部・中学部

高等部（本科・専攻科）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
本 科	6	6	2	14
専 攻 科	7	3	3	13

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）



I 学校の概略

本校は、明治 43 年、私立中郡盲人学校として開校し、後に神奈川県に移管され、令和 5 年で 113 周年を迎える歴史と伝統のある学校です。県のほぼ中央に位置しています。

道路を隔て、広さ 30.3 ヘクタール、10 万本の木々が植えられた平塚総合公園、令和 5 年 3 月にオープンしたインクルーシブ公園、さらに湘南平や大磯高麗山等、豊富な自然環境に恵まれた学校です。

II 教育の概要

本校は、視覚に障害のある方を対象とした県立唯一の視覚障害教育部門の学校です。幼稚部から高等部までの幼児児童生徒への教育課程、また、高等学校卒業以上の人を対象に、あん摩・鍼・灸の職業教育を行う課程があります。すべての課程において、個々の教育的ニーズに応じた支援に基づく教育を実践しており、寄宿舎もあります。

1 高等部 本科普通科、本科保健医療科

高等部本科には、高等学校に準じた教育を行う課程と、視覚以外の障害を併せもつ生徒の教育を行う課程のある本科普通科、高校の普通教科の学習に加えマッサージ等の勉強も同時におこなう本科保健医療科があります。本科保健医療科は、あん摩マッサージ指圧師の国家試験の受験資格が得られます。ともに、生徒一人ひとりの視覚の状況等に応じたきめ細かな指導を行っています。

2 高等部 専攻科理療科、専攻科保健医療科

高等部専攻科は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の課程である専攻科理療科、あん摩マッサージ指圧師の課程である専攻科保健医療科があります。学習の中心は、解剖学、生理学、病理学などの専門基礎科目と東洋医学、理療理論、臨床実習などの専門科目です。1 年次、2 年次の学習は専門基礎科目が中心となります。3 年次の学習は専門科目、特に外来の患者さんの治療を行う臨床実習が中心となります。国家試験の受験資格が得られます。



神奈川県立

ひらつか
平塚ろう学校

所在地：〒254-0074 神奈川県平塚市大原2-1

電話：0463-32-0129

FAX：0463-32-1646

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsukarou-sd>

創立：大正14年4月1日

学部：幼稚部・小学部・中学部・高等部

高等部生徒数（令和5年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
本科	1	9	16	26
専攻科	0	0		0

〈学校案内図〉

●JR東海道線

平塚駅北口7番乗り場より

・神奈中バス伊勢原駅南口行
共済病院前総合公園西（約10分）

・平塚盲学校前循環

平塚盲学校前（約10分）

下車 徒歩2分

●小田急線伊勢原駅南口より

神奈中バス平塚駅行

89 / 90 / 91 / 94 系統

共済病院前総合公園西（約30分）

下車 徒歩2分



本校は、幼稚部・小学部・中学部・高等部が設置されており、一貫した教育方針の基に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準じた教育を行っています。早期から障害の状態を的確に把握して、残された聴力を最大限に活用するとともに、豊かなコミュニケーション能力を身につけ、聴覚障害に伴う様々な課題を主体的に解決し、社会生活に適応できる力の育成をめざしています。

その実現に向けて、保育や教科指導をはじめ、生活指導、自立活動指導の充実を図っています。

高等部では、本科に普通科と職業科（総合デザイン科、情報ビジネス科）、専攻科には総合生活デザイン科、情報応用ビジネス科、理容・美容科を設け、生徒の社会自立に必要な教育を行っています。

【高等部学科紹介】

○本科（3年）

☆普通科 進学をめざしたカリキュラム

- ・大学への進学を視野に入れ、選択科目を導入して、確かな学力の向上を図ります。

☆職業科 社会自立に向けた職業教育を柱としたカリキュラム

- ・ものの作りの楽しさを体験しながら、職業自立・社会自立への意識を高めます。
- ・文書処理を共通履修科目として、基礎的な情報関連技術を身につけます。
- ・普通教科と専門教科を関連づけながら基礎学力の向上をめざします。

○専攻科（2年） 各種資格・検定の取得・受検を基本としながら、実務的な技能の習得をめざしたカリキュラム

- ・就労先を見通した専門的な技能の習得をめざします。
 - ・積極的な職場体験を通じて、進路指導の充実を図ります。
 - ・円滑な人間関係を築き、自分の力を発揮できる人材の育成をめざします。
- [総合生活デザイン科] ユニバーサルデザインの視点から、实际的で応用力のある製作知識と技能の習得をめざします。
- [情報応用ビジネス科] 情報関連機器操作・応用技術の習得、データ処理・会計処理に関する知識と技術の習得をめざします。
- [理容・美容科] 理容師、美容師免許の取得をめざします。

【職業科で取得可能な資格と受検可能な各種認定試験】

- 理容師・美容師国家試験受験資格
- ビジネス文書実務検定1～4級
- 情報処理検定1～3級
- 簿記実務検定1～3級
- 珠算電卓実務検定1～3級
- 被服検定1～4級

【学科編成】

本科	普通科	職業科	
		総合デザイン科	情報ビジネス科
1年	国語 地歴 公民 数学 理科 保健	専門教科 自立活動	普通教科 総合的な探究の時間
2年	保健体育 美術 外国語 家庭 情報	専門教科 自立活動	普通教科 総合的な探究の時間
3年	選択科目 自立活動 総合的な探究の時間	専門教科 自立活動	普通教科 総合的な探究の時間

専攻科	理容・美容科	総合生活 デザイン科	情報応用 ビジネス科
1年	専門教科 普通教科 自立活動	専門教科 普通教科	自立活動
2年	専門教科 普通教科 自立活動	専門教科 普通教科	自立活動



神奈川県立

つるみしえんがっこうきしねぶんきょうしつ
鶴見支援学校岸根分教室

所在地：〒222-0034 横浜市港北区岸根町 370 番地
(県立岸根高等学校内)

電話：045-439-3050

TEL：045-401-0138

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsurumi-sh/

設置：平成 17 年 4 月 1 日

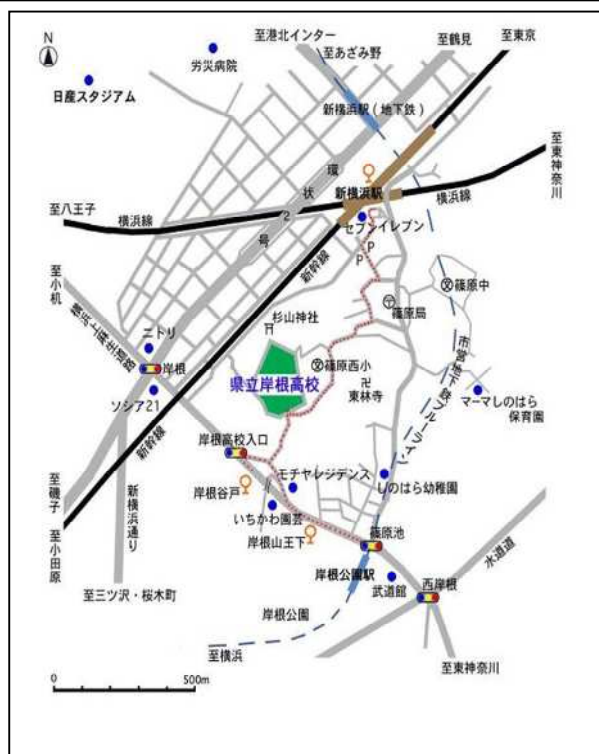
学部：高等部（知的障害教育部門）

<分教室生徒数>（生徒数は令和 5 年 5 月 1 日現在）

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	15	14	15	44



☆新横浜駅から 徒歩 15 分
☆東神奈川駅から
横浜市営バス 39 系 緑車庫・中山駅で
岸根谷戸下車 徒歩 5 分
☆横浜駅 (or あざみ野駅) から
横浜市営地下鉄（ブルーライン）
岸根公園駅下車 徒歩 10 分



高等部の教育目標

- 豊かな社会生活を過ごすための力を育む。
 - ・長所を伸ばし自己肯定感を育てる。
 - ・経験を通し自己選択、自己決定、自己実現の力を養う。
 - ・同年代との関わりから築かれる人間関係形成力を伸ばす。
- 将来の社会的自立に向けた力を養う。
 - ・社会的マナーを育成する。
 - ・経験を通して社会的スキルを習得させる。
 - ・卒業後の自分の生活についてのイメージを育てる。

分教室の学年目標

- 1 年：自己選択「よく見て選ぶ」
- 2 年：自己決定「自ら決めてチャレンジする」
- 3 年：自己実現「将来を見つめ自覚を持つ」

<岸根分教室の特色>

岸根分教室では、1，2 年生のインターンシップ（職場体験）や 2，3 年生の現場実習をはじめ、岸根高校や地域との交流を通して、多くの人とコミュニケーションを取る機会がたくさんあります。色々な事を経験して、身につけていって欲しいと考えています。

<分教室で学ぶこと>

- ① いろいろなことにチャレンジしてできることを増やす。
- ② 友だちを作り充実した高校生活を送る。
- ③ 社会に出るための力をつける。



<分教室日課表>

曜日	月			火			水			木			金		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
8:50	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR
9:10	保健体育 (体づくり)			保健体育 (体づくり)			保健体育 (体づくり)			保健体育 (体づくり)			保健体育 (体づくり)		
9:15															
9:50	国語			職業A			国語			数学			保健体育		
	数学														
10:40															
10:50															
11:00	LHR						生活単元			生活単元			生活単元		
11:25							家庭			家庭			生活単元		
11:30															
11:55															
12:00													国語		
12:40															
12:50	昼食事前指導														
13:10	昼食														
13:25															
14:05	美術			職業A			職業B			音楽			総合学習		
							HR	HR	HR						
14:25															
14:40	清掃			清掃			14:25下校			清掃			清掃		
14:55	HR	HR	HR	HR	HR	HR				HR	HR	HR	HR	HR	HR
15:15															
15:15下校															



神奈川県立

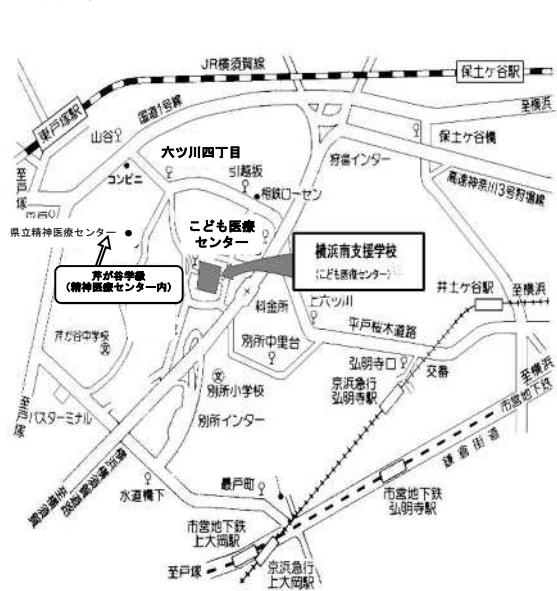
よこはまみなみしえんがっこう
横浜南支援学校

所在地：〒232-0066 横浜市南区六ツ川 2-138-4
(神奈川県立こども医療センター内)
電話：045-712-4046 F A X：045-742-9710
U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-minami-sh
創立：昭和 52 年
学部：・本校：小学部・中学部・高等部
(病弱教育部門)
・芹が谷学級：中学部(病弱教育部門)
〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-1
(神奈川県立精神医療センター内)
電話/FAX 045-822-0266

高等部生徒数(生徒数は、令和 5 年 5 月 1 日現在)

	1 年	2 年	3 年	計
病弱教育部門 (重心施設訪問)	2	2	3	7

<学校案内図>



【利用交通機関】

- 京急「弘明寺」駅よりバス。(こども医療センター経由) 東戸塚駅東口行き、戸塚駅東口行き→こども医療センター下車。
- JR「東戸塚」駅よりバス。(こども医療センター経由) 井土ヶ谷下町行き→こども医療センター下車。

本校は、県立こども医療センターに併置された病弱特別支援学校です。また、県立精神医療センターに訪問学級を設置しています。

- (1) 本校の高等部は、県立こども医療センター内の「重症心身障害児施設」(愛称：ひだまり)に入所している生徒を対象としています。県立こども医療センターの「病棟」に入院・入所している方や、在宅の方は本校に在籍することはできません。
- (2) 高等部に在籍している生徒の状況は、病弱だけにとどまらず、肢体不自由、知的障害、聴覚障害、視覚障害と多様です。授業は、重症心身障害児施設内において重心部門として行っており、学部学年の枠を超えた居室ごとの授業としています。
- (3) 重心部門の学習のめあては、「健康の維持・増進をはかる」「感覚や身体機能の活性化をはかり、自発的な活動を引き出す」「人間関係の育成や心理的な安定をはかる」「個々に応じたコミュニケーション手段の拡大・向上をめざす」「ライフステージを見据えて、個々の豊かな生活をめざす」です。
- (4) 個々の実態や個別の指導計画に合わせて、集会や校外活動等も設定しています。



神奈川県立

ほ ど が や し え ん が つ こ う

保土ヶ谷支援学校

所在地：〒240-0026

横浜市保土ヶ谷区権太坂 1－8－1

電 話：045-714-0126

F A X：045-742-9716

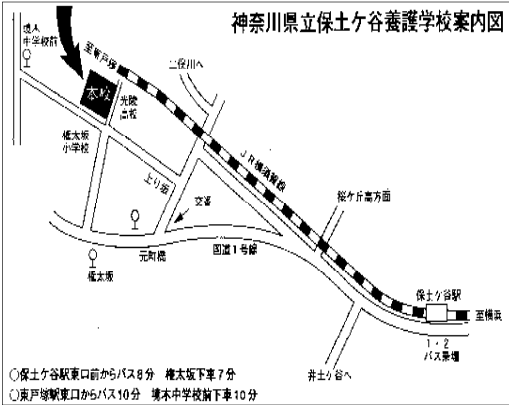
U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hodogaya-sh>

創 立：昭和 51 年 1 月 1 日

学 部：小学部、中学部、高等部

(知的障害教育部門)

神奈川県立保土ヶ谷養護学校案内図



○保土ヶ谷駅東口前バス8分 権太坂下車7分
○東戸塚駅東口からバス10分 榎木中学校前下車10分

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門（本校）	34	42	37	113

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

- 1 学校教育目標

 - 自立と社会参加に向け、児童生徒が主体的・意欲的に行動し、学び高めあう教育を推進する。
 - 共生社会の実現に向け、特別支援学校が地域で担う役割を模索し、地域と連携した取り組みを進める。
 - 多様な教育的ニーズがある児童生徒の教育活動全般について、安全に実施する。

2 学部教育目標

 - ①基本的な生活習慣や社会生活に必要な知識・技能を養い、より主体的に生活する力を育てる。
 - ②心身の健康を維持するために必要なことや社会生活に必要な体力を身につける。
 - ③自分の意思を表現する力を伸ばし、集団生活を通し協調性・社会性を養う。
 - ④自立と社会参加に向け、働くことの大切さや喜びを知り、働くために必要な力を育てる。
 - ⑤様々な活動を通して一人ひとりが自分なりの楽しみを見つけ、充実した豊かで潤いのある生活や余暇を送れるようにする。

3 令和 4 年度高等部（本校）卒業生の進路状況

(各人数)

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援 A	就労継続支援 B	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援 C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
3	0	2	0	8	1	11	4	0	3	32



神奈川県立

ほどがやしえんがっこう まいおかぶんきょうしつ
保土ヶ谷支援学校舞岡分教室

所在地：〒244-0814

横浜市戸塚区南舞岡3-36-1

(県立舞岡高等学校内)

電話：045-823-9654

FAX：045-825-5412

URL：http://www.hodogaya-sh.pen-kanagawa.ed.jp/

開設：平成16年4月1日

学部：高等部（知的障害教育部門）

舞岡分教室生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

●横浜市営地下鉄『舞岡駅』下車 徒歩15分

●JR 戸塚駅下車 東口8番乗り場 江ノ電バス「舞岡台循環」行
「舞岡高校前」バス停下車 (バス乗車は12分間程度)



舞岡分教室は、平成16年に神奈川県立舞岡高等学校内に開設されました。『生活する力』、『働く力』を教育課程の骨子に据え、学びの場を地域に求めて様々な学習を展開しています。

「職業」の授業や校内実習では近隣のスーパーや農園、事業所の協力を得ながら働く学習に取り組み、地域との関係が深められています。

また、舞岡分教室の特色のひとつとして、「田んぼ」作業があります。近隣の舞岡公園の田んぼで、ボランティアスタッフの方々の指導を受けながら年間を通して米づくり（食育）の学習を行っています。

4月の田起こしに始まり、田植え、草取り、秋の収穫・脱穀までを行い、最後は1年間の苦勞と収穫の喜びを感じながら収穫祭（現在は米を持ち帰り）を行っています。豊かな自然の中で、普段味わうことのできない体験となっています。



<田んぼ・稲刈り>

分教室のある県立舞岡高等学校とは、体育祭、校内の緑化を推進する植樹整備、竹の宴（七夕行事）、桔梗祭（文化祭）などで「共生社会実現」に向けて、舞岡高校生との交流を行っています。



<校内実習>



<舞高体育祭・大縄跳び>

令和4年度高等部（舞岡分教室）卒業生の進路状況

(各人数)

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援A	就労継続支援B	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
2	0	0	1	4	0	0	0	0	1	8



神奈川県立

ほ ど が や し え ん が っ こ う よ こ は ま ひ ら ん ま ぶ ん き ょ う し つ
保土ヶ谷支援学校横浜平沼分教室

所在地：〒220-0073

横浜市西区岡野1-5-8

(県立横浜平沼高等学校内)

電 話：045-328-2010

F A X：045-328-2011

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hodogaya-sh>

設 置：平成22年4月1日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

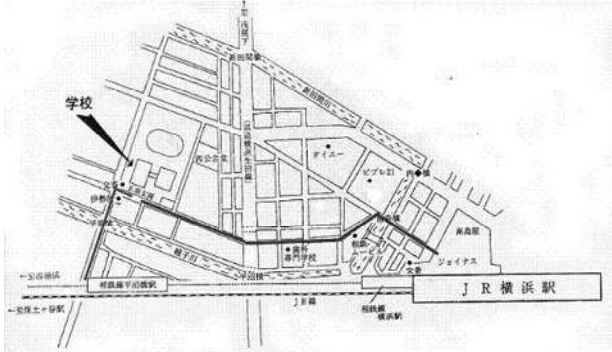
(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

●横浜駅みなみ西口から徒歩10分

●相鉄線 平沼橋駅から徒歩3分



横浜平沼分教室は平成22年に保土ヶ谷支援学校の2箇所目の分教室として神奈川県立横浜平沼高等学校内に開設されました。横浜平沼分教室は、横浜平沼高等学校及び近隣地域との関係を構築しながら、分教室の中だけでなく、より実践的な学習を展開していくことを目指しています。

『生活する力』、『働く力』を教育課程の骨子に据え、職業の授業では校内作業だけでなく、近隣の公園の清掃作業、花壇作り、高齢者介護施設での清掃作業など、学びの場を地域に求めて実践的な学習を展開しています。

【本分教室の特色】

○学校生活全般において礼儀や姿勢、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなど社会人になるために身につけたい生活習慣を3年間で身につけています。

○思春期を迎え、卒業後の生活にむけて、「心と体」という授業（身体面の変化、心理面の変化、適切なコミュニケーション）を学年ごとに段階を追って行っています。

これらを通して、自立と社会参加を目指し、働くため・社会人になるための準備をしていきます。

横浜平沼高等学校



教室



令和4年度高等部（横浜平沼分教室）卒業生の進路状況

(各人数)

企業就職	職業能力開発機関	就労移行支援	就労継続支援A	就労継続支援B	自立訓練事業所	生活介護事業所	地域活動支援C	児童福祉施設	その他在宅等	合計
3	1	1	1	6	0	0	1	0	2	15



神奈川県立

かなざわしえんがっこう
金沢支援学校

所在地：〒236-0051 横浜市金沢区富岡東 2-6-1

電話：045-770-0456（職員室）

FAX：045-775-4121

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawa-sh

創立：平成 19 年 4 月 1 日

学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	30	27	36	93
肢体不自由教育部門	6	4	5	15

（生徒数については、令和 5 年 5 月 1 日現在）

学校案内図



金沢支援学校(本校)までの行き方

● シーサイドライン鳥浜駅下車徒歩 8 分

● 京急富岡駅下車徒歩 25 分

徒歩順路>

＜金沢支援学校の教育＞

- 1 特別支援学校として、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを受け止め、自立と社会参加の基礎となる生きる力を育むための教育を進めます。
- 2 個々の障害及び健康等の状況に合わせた専門性の高い指導の実践を目指します。
- 3 特別支援学校におけるセンター的機能を発揮し、支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた支援を行うとともに、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図れるよう支援します。

＜高等部の教育課程＞

神奈川県では「共に学び共に育つ教育」を推進しており、本校においても共生社会の実現に向けて推し進めております。自立と社会参加のために必要な力の育成を目指し、自分らしい生活のあり方を学び、実現する力、健康で安全な生活を送るための力、生活を豊かにするためのコミュニケーションの力など、生きる力を育むためのキャリア教育を推進しています。

＜令和 4 年度高等部の進路状況＞（知的障害教育部門 31 名、肢体不自由教育部門 3 名）

福祉施設：33 名 その他：1 名 計 34 名



神奈川県立

かなざわし えんがっこうよこはま ひ とりざわぶんきょうしつ
金沢支援学校横浜氷取沢分教室

所在地 〒235-0043

横浜市磯子区氷取沢町 938 番地の 2

電 話 045-778-1065

F A X 045-778-1066

U R L : <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawa-sh/>

設 置 : 平成 23 年 4 月 1 日

学 部 : 高等部 (知的障害教育部門)

分教室生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

学校案内図



横浜氷取沢分教室までの行き方

- 徒歩 京急「能見台駅」「京急富岡駅」より20分
- バス 京急「能見台駅」より「横浜氷取沢高校行き」終点「横浜氷取沢高校」下車徒歩1分
京急「金沢文庫駅」・JR「洋光台駅」より「下ヶ谷」下車徒歩5分

<分教室の概要>

金沢支援学校横浜氷取沢分教室は、平成 23 年より現横浜氷取沢高等学校内に開設され、今年度男子 29 名、女子 16 名、計 45 名の生徒が学んでいます。施設は校舎 1 階に各学年のホームルーム教室と多目的室、それに職員室、保健室、グラウンドの一部が分教室として整備されています。その他、体育施設や音楽室、美術室、調理室といった特別教室なども高校と調整し、授業を行っています。登校 8 時 50 分、下校 15 時 10 分（水曜日 13 時 30 分）で 50 分授業を基本としています。

<分教室の目指す教育活動>

将来自立し、社会参加していけるよう、生きる力を身につけていくための教育活動を行います。

<分教室と本校との連携>

分教室の教育課程は、本校高等部の教育課程を基礎に編成し、主要な学校行事や学部・学年の行事等に加え、進路支援・教育相談などに関しても本校と連携しながら取り組んでいます。

<横浜氷取沢高等学校との連携>

横浜氷取沢高等学校の体育祭や文化祭などに参加して高校との交流に取り組んでいます。分教室の授業で授業内容に応じて、高校の音楽室、調理実習室、体育館などを使うなど、より実践的な授業ができるように学習環境について連携をしています。高校の生徒と同じように図書室や購買部（売店）の利用もできます。

<令和 4 年度の進路状況>

就職：10 名 福祉施設：3 名 その他：1 名 計 14 名



神奈川県立

し え ん が っ こ う
み ど り 支 援 学 校

所在地：〒226-0002 横浜市緑区東本郷五丁目 18 番 1 号

電 話：045-471-7941

F A X：045-474-4707

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/midori-sh>

創 立：昭和 53 年 4 月

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

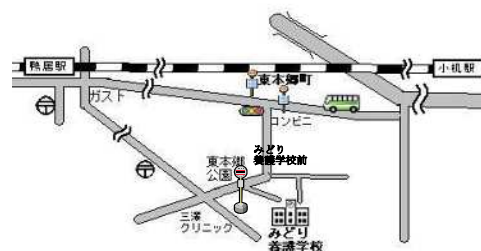
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	21	27	25	73

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- J R 横浜線 鴨居駅より徒歩 20 分
- J R 横浜線 鴨居駅・小机駅より市営バス 39 系統
東本郷町下車 徒歩 7 分
鴨居駅より市営バス鴨居・東本郷線
「みどり養護学校前」下車 徒歩 3 分



本校には、緑区をはじめ、神奈川区、都筑区、港北区などの広範囲から生徒が通ってきています。右下の日課表において、「作業学習」「選択科目」「体づくり運動」は 3 学年合同で学習をしています。その他の教科については学年やグループ単位で学習しています。「生活单元」では、主に行事の事前事後学習や、心と体について、働くことについて、消費者教育についてなど、卒業後の生活に必要な内容を学習しています。また「みどり防災デー」として全校で防災学習に取り組んでおり、高等部では、災害に適切に対応するため、安全な行動の仕方や防災時のきまりの大切さなど、防災について学んでいます。

【主な行事（予定）】

- 6 月 2 年校内実習 2 年職場体験学習
3 年校内・現場実習
- 7 月 模擬投票
- 9 月 1 年防災宿泊学習
みどり防災デー
2 年宿泊学習
- 10 月 1 年校内実習 1 年校外学習
2 年校内・現場実習
2 年職場体験学習
3 年校内・現場実習
- 11 月 学習発表会
3 年修学旅行
- 1 月 2 年校外学習
3 年遠足



《参考：1 年生の日課表》

	月	火	水	木	金
1	ホームルーム・体づくり運動				
2	課題別 学習※	作業 学習	課題別 学習※	課題別 学習※	課題別 学習※
3	総合的な 探究の時間		音 楽	美 術	生活単元
4					
5	家 庭	作業 学習	清掃 LHR	体 育	選択 科目
6					

※「課題別学習」＝国語・数学 自立活動等

同好会活動：スポーツ同好会・和太鼓同好会



神奈川県立

し え ん が つ こ う し ん え い ぶ ん き ょ う し つ
みどり支援学校新栄分教室

所在地：〒224-0035 横浜市都筑区新栄町1番1号

(県立新栄高等学校内)

電 話：(045) 591-6443

FAX：(045) 591-6472

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/midori-sh (本校)

設 置：平成16年4月

学 部：高等部 (知的障害教育部門)

生徒数

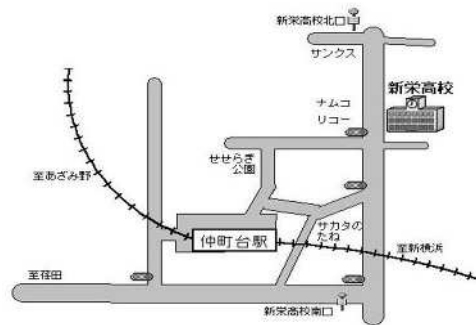
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	14	15	15	44

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- 横浜市営地下鉄 仲町台駅より徒歩10分
- 東急東横線 綱島駅より東急バス勝田折返所行き「新栄高校北口」下車 徒歩10分



平成16年度に本校高等部の分教室が新栄高校内に設置されました。神奈川県内の特別支援学校の高等部として初めて設置された分教室です。今年度で20年目となりました。

分教室では、校内の学習活動にとどまらず、広く地域社会の中で共に成長できる教育を目指しています。そのため、地域資源を積極的に活用し、定期的に地区センター、図書館、民間事業所等で授業を展開し、職業教育の充実を図っています。キャリア教育では、自己理解や他者理解をはじめ、心と体について、働くことについて、消費者教育や政治参加教育についてなど、卒業後の生活に必要な内容を学習しています。

授業は、日課表の波線つきのものが全学年合同、そうでないものは基本的に学年別で行います。各学年のつながり大切にしながら、主体的・対話的な学びに取り組んでいます。

入学式などの行事には、本校と一緒に参加します。修学旅行も本校3年生と合同で実施します。また、新栄高校と体育祭や文化祭を通じて交流しています。

《参考：1年生の日課表》

	月	火	水	木	金
1	HR・体づくり運動				
2	音楽	作業	数学	国語	理科/社会
3	国語	作業	家庭	情報	美術
4	数学	作業	家庭	情報	美術
5	職業	作業	保健体育	総合	LHR/道徳
6	清掃・HR		保健体育	清掃・HR	清掃・HR



神奈川県立

あおば支援学校

所在地：〒227-0041 横浜市青葉区上谷本町 109 番地

電話：045-978-1161

FAX：045-978-1160

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/aoba-sh/

創立：令和元（2019）年 11 月 1 日（条例設置）

学部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	1	2	0	3
知的障害教育部門	33	32	32	97

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

●東急田園都市線 藤が丘駅又は青葉台駅下車、バス（青 01）「祥泉院」下車 徒歩 10 分

●東急田園都市線 市が尾駅下車、バス（柿 23、市 43、青 27）又は小田急線 柿生駅下車、バス（柿 23）「中里学園入口」下車 徒歩 10 分



◆基本理念<コンセプト>

思いを紡ぐ 優しいあおば

◆使命<ミッション>

- ・一人ひとりの確かな学びを支える
- ・地域とともに歩み、地域に貢献する

◆教育目標

- ・自立と社会参加のために、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行い、生きる力を育てる
- ・地域とともに学校づくりを推進し、地域に貢献する教育活動を創造する

◆高等部で育みたい力

学びに向かう力 学びを生かす力

（挑む）新たなことに挑戦し、社会生活に活用する力を育む

（つなげる）積み重ねた学びをもとに地域社会の中で学び続ける力を育む

人やものと関わる力

（築く）自分や相手を大切に、より良い関係を築く力を育む

（支えあう）社会とのかかわり方と自らの役割を考え、地域の中で支えあう力を育む

自分の心と体に向き合う力

（整える）自分の心と体の状態と上手に付き合い、調整する力を育む

（切り拓く）より良い社会の実現のために、自分の心や体、個性を発信する力を育む

◆高等部の教育と進路指導について

本校では、生徒がこれまでに身に付けてきた力や、本人・保護者の気持ちを大切に

つつ、上記の「高等部で育みたい力」をつけることを目標とした学習活動を進めます。進路については、単に進路先を決めるだけでなく、そこで働き続けることや地域でより充実した生活を送ることに注目し、それを実現するための教育（移行支援教育）を行います。

そして、生徒が学校で育んだ力をもとに、地域での自立した生活と地域貢献を実現することを目指します。

	月	火	水	木	金
1	HR				
2	体づくり	作業	体づくり	作業	体づくり
3	体育	作業	生活	作業	音楽
4	国語・数学	国語・数学	LHR①	国語・数学	生活
5	生活	作業	LHR②	作業	美術
6	探Q！	作業		職業	生活（家庭）
7	HR			HR	

高等部肢体不自由教育部門1年生の日課表

	月	火	水	木	金
1	HR				
2	体育	作業	体づくり	作業	体づくり
3	体育	作業	美術	作業	音楽
4	社会・理科	作業	美術	作業	情報／国語・数学
5	情報／国語・数学	作業	国語・数学	作業	家庭
6	探Q！	作業		職業	LHR
7	HR			HR	

高等部知的障害教育部門1年生の日課表



高等部の標準服



神奈川県立

せ や し えん がっ こう
瀬 谷 支 援 学 校

所在地：〒246-0005 横浜市瀬谷区竹村町 28-1

電 話：045-302-1617

F A X：045-304-2950

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh

創 立：昭和 46(1971)年 1 月 1 日

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数 *本校

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	32	25	23	80

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

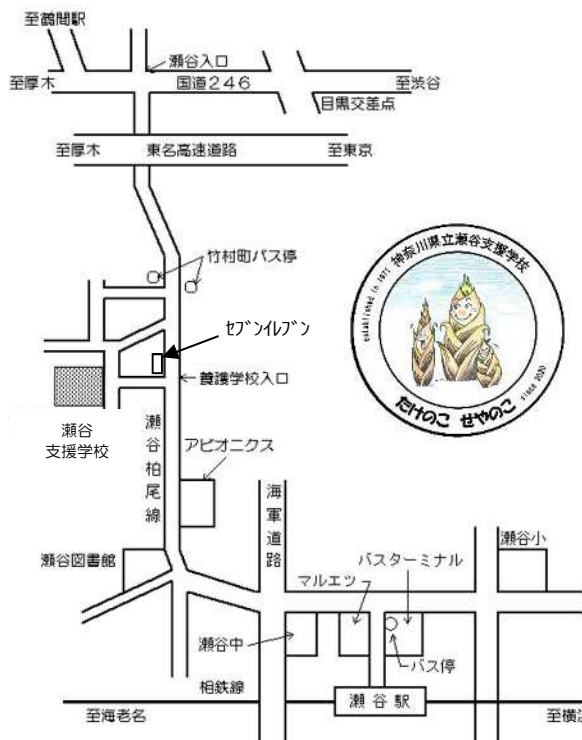
＜学校案内図＞

利用交通機関

●相鉄線瀬谷駅北口より

神奈川中央交通バス「鶴間駅行」「八幡神社行き」「マークスプリングス行」乗車「竹村町」バス停下車（所要時間約5分） 徒歩5分

＜学校案内図＞



自立と社会参加に向けて、3年間を見通した系統的・継続的な指導をおこなっています。

- ・社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につけ、地域での生活を楽しめる人
- ・ルールやマナーを意識して好ましい人間関係を築ける人
- ・働くことへの意欲や意識を高め、積極的に物事に取り組める人
- ・主体的に学び、考え、自立に向けて自己選択、自己決定できる人

を目指し、自立に向けた学習（くらす/はたらく）、生活を豊かにする学習（たのしむ）をおこなっています。授業によって、学年全体でおこなったり、学習グループでおこなったり、個別課題でおこなったりします。また、年齢にふさわしい行動や人との関わりができるように生活指導も重視しています。

【作業学習】木工・陶芸・手工芸・農園芸・紙工・リサイクル・

クリーンサービスの7つの班があり、3学年縦割りの集団で行います。

【部活動】月に一度、水曜に活動しています。サッカー・陸上バスケ・ダンス・ウォーキング・和太鼓・アートなどがあり、大和東分教室と一緒に活動しています。

【進路指導】本人の適性や保護者の意向を大事にし、一人ひとりに適した進路が選択できるように努めます。

大事にしたいこと・・・わかる授業と仲間づくり

	月			火		水		木		金	
9:00-9:30	ホームルーム										
9:35-10:00	体力づくり										
10:10-10:55	1年 国語・ 数学	2年 家 庭	3年 体育 音楽	作業 学習	総合 ／ 社会 生活	1年 美 術	2年 国語 ・ 自立 活動	3年 家 庭	1年 家 庭	2年 音楽 体育	3年 美 術
11:05-11:50											
11:50-12:00	日常生活の指導（配膳指導）										
12:00-12:20	給 食										
12:20-13:00	日常生活の指導（片づけ・歯磨き指導）										
13:00-13:45	1年 体育	2年 音楽	3年 国語・ 数学 自立 活動	作業 学習	ロング・ ホームルーム 13:45	1年 音楽	2年 美	3年 国語 ・ 自立 活動	1年 国語 ・ 自立 活動	2年 国語 ・ 自立 活動	3年 音楽
13:55-14:40	音楽	体育			ホームルーム 14:10	体育	美術				体育
14:40-15:10	ホームルーム				ホームルーム						
	15:10		15:10				15:10		15:10		



神奈川県立

せ や し えん がっ こう や ま と ひがしぶんきょうしつ
瀬谷支援学校大和東分教室

所在地: 〒242-0011 神奈川県大和市深見 1760

電 話: 046-264-2061

F A X: 046-264-2062

U R L: <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh>

設 置: 平成 17 年 4 月 1 日

(本校 昭和 46 年 1 月 1 日 創立)

学 部: 高等部(知的障害教育部門)

分教室生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	11	15	6	32

(生徒数については、令和5年5月1日現在)

利用交通機関

- 相鉄線・小田急線大和駅より徒歩 20 分
- 大和駅より神奈川中央交通バス「一の関経由鶴間駅行」乗車「深見バス停(所要時間約5分)」下車 徒歩 10 分



県立大和東高校(本校から川を渡って大和方面に10分ほど歩いた所)の1階に分教室はあります。各学年1クラスで、ほとんどの教科学習は学年ごとに行っていますが、学年縦割りや全員での授業もあります。各授業の内容は、将来の生活を充実させるために必要な知識や技能を身につける学習とあわせて、「自分のことを知る」「自分のことを自分で決める」「自分に自信をもつ」「仲間を大切にする」ことを大切にした学習や行事などを設定しています。

特色は、本校と一緒に部活動をしたり、体力づくりで側にある境川のサイクリングロードで走ったり、昼休みには中庭でバスケットボールをしたりと体を動かす環境があることです。また、「選択」という授業を設定しており、生徒が参加したい授業を選び、個人やグループで課題を設定して取り組んでいます。

【 交流 】

○本校、他の分教室との交流

部活動は、本校高等部と一緒に実施しています。音楽発表会やサッカー大会は、本校高等部と大和南分教室と一緒に実施しています。持久走大会は、大和南分教室と県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室と、合同開催しています。

○大和東高校との交流：高校の文化祭(東翼際)に参加しています。

【 進路指導 】

進路指導については、本校と協力して進めていきます。個々の生徒に応じた卒業後の生活の準備に向け、進路指導に取り組みます。



神奈川県立

せ や し え ん が っ こ う や ま と み な み ぶ ん き ょ う し つ
瀬谷支援学校大和南分教室

所在地：〒242-0014 大和市上和田 2577

電話：046-279-6577

FAX：046-279-6578

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/seya-sh>

設置：平成24年4月1日

(本校 昭和46年1月1日 創立)

学部：高等部(知的障害教育部門)

分教室生徒数

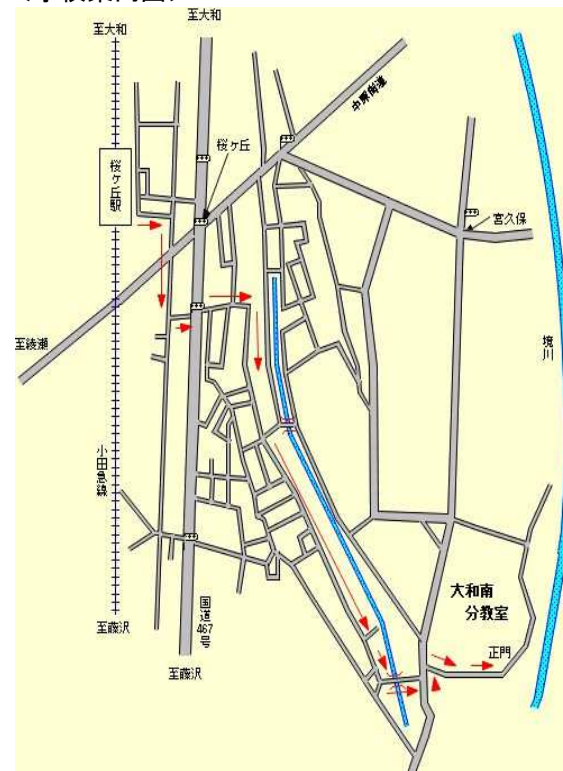
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	10	9	11	30

(生徒数については、令和5年5月1日現在)

利用交通機関(最寄り駅やバス停からの時間)

- 小田急江ノ島線「桜ヶ丘駅」下車、徒歩25分
- 神奈中バス「上和田団地バス停」下車、徒歩8分
- やまとん号「大和南高校停留所」下車、徒歩3分
- 神奈中バス「ひなた山第一バス停」下車、徒歩25分

<学校案内図>



大和南分教室は県立大和南高校内にある分教室です。各学年1クラスで、ほとんどの授業は学年ごとに行いますが、教科や活動によっては学年縦割りグループ、分教室全員授業などで学習する場合があります。

大和南分教室の特色は、仲間と協力して活動に取り組み、その成果を発表する機会が多いことです。授業「選択」では、生徒自身が参加したい授業を選び、仲間たちと活動した成果を学期末ごとに発表しています。

また、将来の生活を充実したものにするために、生徒自身が「自分に自信を持つ」「自分の考えをしっかりと伝えられる」「自分のことを自分で決める」「仲間と協力する喜びを知る」ことを目指し、日々の教育活動を行っています。

【交流】

○本校、他の分教室との交流

音楽発表会やサッカー大会を本校高等部、大和東分教室と実施します。大和東分教室、県立三ツ境支援学校横浜緑園分教室とは持久走大会を合同開催しています。

○大和南高校との交流：高校の文化祭(南翔祭)に参加しています。

【進路指導】

卒業後の進路について「自分で考え、自分で選び、自分で決める」ことができる進路指導を心がけています。また、進路面談では意向をしっかり聞き取るなど、生徒や家庭に寄り添いながら進めています。



【令和5年4月移転】

所在地：〒245-0003 横浜市泉区岡津町2667

県立横浜緑園高等学校内

電話：045-811-5231

F A X : 045-811-5232

U R L : <https://www.pen-kanagawa.ed.jp/mitsukyo-sh>

設置：平成21年4月1日（瀬谷西高校に設置）

令和5年4月1日（横浜緑園高校に移転）

学部：高等部（知的障害教育部門）

2学年と3学年は1クラスとして編成

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	14	8	3	25

(令和5年5月1日現在)

＜学校案内図＞

利用交通機関：相鉄いずみ野線緑園都市駅下車

- 相鉄いずみ野線緑園都市駅より、徒歩約15分です。
●横浜緑園分教室は、県立横浜緑園高校の南棟1階にあります。



分教室の教育目標

主体的に生きる力を身につけた子どもを育てる

- (1) 社会生活に必要な基礎知識、技能を身につける
- (2) 余暇を楽しむ力を育てる
- (3) 自己の考えや感情を伝える力を養う
- (4) 自分や相手を大切にする気持ちを育てる
- (5) 働くことについて関心や意欲、態度を養う



分教室の内容

分教室では、卒後の就労を一つの目標とし、自立と社会参加する力を育てます。「職業体験」の授業では、近隣企業や公共施設等の協力をいただき、実際に働く体験を学習活動の中で行っています。「作業」では3学年を数グループに分けた縦割り、1日を通して作業を続ける力を育てます。各教科の授業は、学年別、3学年合同等、教科によって様々な形態で行っています。水曜日の放課後は月2回程度、分教室内で部活動を行っています。文化部ではイラスト描画や制作、運動部では主に走ったり、卓球等の球技の練習をしたりしています。





神奈川県立

よこはまひなたやましえんがっこう
横浜ひなたやま支援学校

所在地：〒246-0034 横浜市瀬谷区南瀬谷2-20

電話：(045)300-5611

FAX：(045)303-2330

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-hinatayama-sh/>

創立：平成25年4月1日

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数（令和5年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	44	42	45	131

<アクセス>

- ① 立場駅・いずみ野駅より：神奈中バス「瀬谷駅」行または「下瀬谷」行に乗車し、「ひなた山第2」バス停下車徒歩3分
※上飯田車庫行に乗車した場合は、「ひなた山第一」下車徒歩9分
- ② 瀬谷駅より：神奈中バス「立場ターミナル」行に乗車し、「ひなた山第2」バス停下車徒歩3分
- ③ 大和駅より：相鉄バス「ニュータウン南瀬谷」行に乗車し、「ニュータウン南瀬谷」下車徒歩15分



<基本理念>

自己実現※1する人を学校と家庭と地域で支え育む

※1 自己の可能性を最大限に発揮して、地域社会で幸福に生きること。

○ 人間関係をつくり、深め、広げる

生徒が他者と協働することの楽しさを実感したり、仲間と協力して物事を達成する喜びを共有したりし、豊かな人間関係の形成を目指します。

「コミュニケーション」の授業では、集団の中で他者と協調することや、他者を尊重しながら自分を表現し、よりよい人間関係をつくることを学びます。

○ 学校生活から社会生活へのソフトランディング

体験的・実践的な授業を重視し、地域の人的・物的資源を活用した学習を展開することで、社会人として必要な責任感、使命感のある姿勢・態度を育てます。

○ 選ぶ力、余暇活用スキル、社会活動スキルの充実

「チャレンジ」の授業では、いくつかの内容から選んで活動する時間を設定します。余暇活用スキル、社会活動スキル、選ぶ・考える力を伸ばします。

○ 面談および教育相談の充実

面談をととして本人の意思を聞く機会を設け、「今の自分」「なりたい自分」を自分で感じ、考えられることを大事にします。また、1年生全員に教育相談する場を設定し、気持ちを伝えたり、困っていることを話したり、「相談する力」を身に付けることができるように支援します。

○ 「部活動」をととして自主性を高め、人間関係づくり、趣味の充実を図る

毎月数回、水曜日の放課後に部活動があります。（活動時間は1時間程度です。）



(例)※R5年度1年生時間割

月		火		水		木		金	
8:55 - 9:05		日常生活の指導							
9:05 - 9:15		HR							
9:15 - 9:25		日常生活の指導							
9:25 - 9:45		課題別学習							作業
9:50 - 10:15		体力づくり	課題別学習		体力づくり				
10:25 - 11:10		体育	社会生活 /美術		チャレンジ	家庭生活			
11:20 - 12:05		国語			数学				
12:05 - 12:20		日常生活の指導							
12:20 - 12:55		給食・昼休み							
12:55 - 13:05		日常生活の指導							
13:05 - 13:50		コミュニケーション/職業	美術/ 社会生活		日常生活の指導/生徒会	音楽/体育		作業	
14:00 - 14:45		音楽			日常生活の指導				
			HR		LHR				
14:45 - 15:00		日常生活の指導			14:15 下校 (部活)		日常生活の指導		
15:00 - 15:10		HR					HR		



神奈川県立

な か は ら し え ん が っ こ う
中 原 支 援 学 校

所在地：〒211-0035 川崎市中原区井田 3-13-1

電 話：044-755-1632(代)

F A X：044-752-7786

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/nakahara-sh

創 立：昭和 49. 1. 1

学 部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

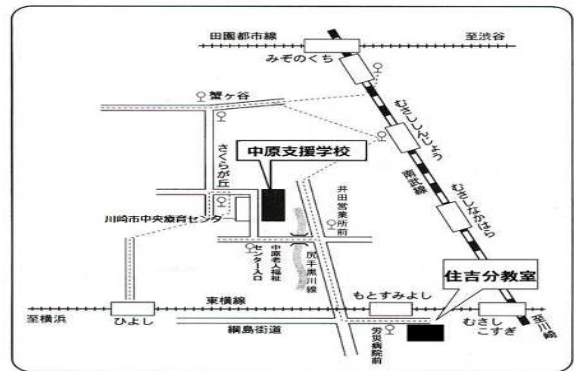
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	26	25	24	75
肢体不自由教育部門	8	4	11	23

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- 東急東横線日吉駅よりバス さくらが丘行き
さくらが丘（終点）下車 徒歩 5 分
- J R 南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝ノ口駅
よりバス 蟹ヶ谷行き 蟹ヶ谷（終点）下車
徒歩 15 分



神奈川県立中原支援学校は、川崎市中原区に位置し、肢体不自由教育部門と知的障害教育部門（平成 15 年度より高等部のみ設置）の知肢併置校です。平成 21 年度より住吉高等学校に分教室を開設しました。通学地域は、主に川崎市南部・中部方面と横浜市の東部地域の広範囲にわたっています。小、中、高、分教室合わせて、現在 203 名の児童生徒が在籍し、内 5 名の児童生徒が訪問による指導を受けています。近年、児童生徒の障害は多様化しており、一人ひとりの教育的ニーズは多岐にわたっています。

学校教育目標

じょうぶに生きよう がんばろう
…健康で、まじめに取り組む力
ゆたかに生きよう ほおえもう
…情操が豊かで、理想的に考える力
なかよく生きよう はたらこう
…協調性があり、人や社会と連携できる力

めざす学校像

- ・児童・生徒も教職員も「明日も行きたい」と思える「安全・安心」な学校
- ・不祥事を根絶する「自覚と責任」のある学校
- ・誰一人取り残さない、「ともに生きる社会」づくりに貢献する学校

高等部 A【肢体不自由教育部門】

- ・個に応じた集団教育
肢体不自由教育と重度重複障害教育への対応。
45 年以上の歴史は川崎市では本校のみ。
- ・カリキュラム
自立活動を主とする授業及び教科学習授業を設定。
- ・過去の主な進路先
福祉施設（生活介護、就労継続 B、地域活動支援センター）、職業・生活訓練施設

高等部 B【知的障害教育部門】

- ・生徒の自主性を引き出し、小集団のメリットを生かす教育課程。「作業学習」、「職業」等を設定。
- ・目指すは、充実感のある楽しい学校生活、卒業後を見通した学校生活。
- ・過去の主な進路先 一般企業 特例子会社 福祉施設（生活介護、就労継続 AB、就労移行、地域活動支援センター）、職業訓練施設等

◎校章の由来

校名の頭文字「中」を図案化し、児童生徒の自立しようとする姿勢を表しています。「丈夫に生きようたのしもう」「豊かに生きようほおえもう」「仲良く生きよう働こう」という三つの学校教育目標を、もろ手をさしのべて立ち上がる子どもたちの姿に表しています。



神奈川県立

なかはらし えん がっこう すみよし ぶんきょう しつ
中原支援学校住吉分教室

所在地：〒211-0021 川崎市中原区木月住吉町 34-1

(県立住吉高等学校内)

電話：044-430-1016

FAX：044-430-1017

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/nakahara-sh>

設置：平成 21 年 4 月 1 日

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

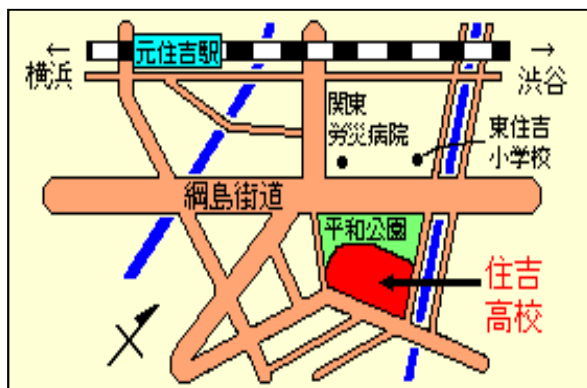
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	14	15	14	43

(生徒数については、令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- 東急東横線 元住吉駅 下車 徒歩 8 分
- JR 南武線 東急東横線 武蔵小杉駅 下車 徒歩 15 分
- JR 南武線 平間駅 下車 徒歩 15 分



学校教育目標

- 自ら考え、行動できる生徒
 - ・健康でまじめに取り組む力
 - ・情操が豊かで、理性的に考える力
 - ・協調性があり、人や社会と連携できる力

めざす学校像

- ・児童・生徒も教職員も「明日も行きたい」と思える「安心・安全」な学校
- ・不祥事を根絶する「自覚と責任」のある学校
- ・誰一人残さない、「ともに生きる社会」づくりに貢献する学校

住吉分教室の教育目標

- 1 自ら健康・体力の維持増進に努められるように促す
- 2 様々な情報をもとに自己選択・自己決定する力を育てる
- 3 自分の気持ちを伝えながら集団の中で協調して過ごせるようにする
- 4 自己肯定感を育て、何事にも意欲的に取り組めるようにする
- 5 地域社会と関わりながら自分らしく生活していく力を育てる

・就労を目標に、授業や日常の指導の中で、「社会の中の様々な枠組み（人間関係、コミュニケーション、時間、場所、状況等）の理解」、「基本的な生活習慣の定着、自分の得意、不得意を理解し、不得意な部分は得意な部分で補う、支援を受ける、ツールを活用する力を育てる」ことを目指しています

●住吉高校との交流

住吉高校文化祭への出店や体育祭の一部種目への参加をしています。

●高校・近隣の資源活用

住吉高校の協力により特別教室・施設（体育館、音楽室、コンピュータ教室、調理室、図書室等）を使用し授業を行っています。高校の施設を利用することで、幅広い活動につながっています。

また住吉高校の隣にある中原平和公園内周回路で朝のランニング（運動）を行い、職業 I（作業学習）では、中原平和公園内だけでなく、東住吉小学校へも出かけ、清掃活動を行っています。



神奈川県立

たか つ し えん がっ こう
高 津 支 援 学 校

所在地：〒213-0035 川崎市高津区向ヶ丘 16

電 話：044-865-0477（学校代表）

044-865-0414（高等部直通）

F A X：044-877-2626

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh

創 立：昭和 52 年 1 月 1 日

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

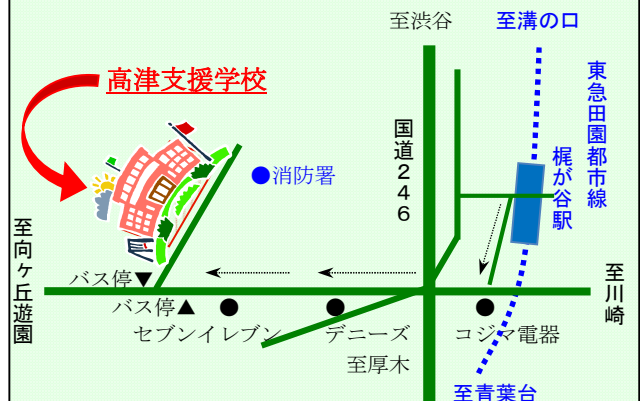
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	18	16	12	46

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- 東急田園都市線「梶が谷駅」徒歩 15 分
- 小田急小田原線「向ヶ丘遊園駅」より梶が谷駅行きバス 20 分「向丘南原」バス停下車すぐ



☆小・中学部が開校した翌昭和 53 年に高等部が開設されました。
今年度入学した 18 名は、46 期生となります。

「よりよく豊かに生きる力」を育むために

① 豊かな青年期をつくる学習

各授業 「よりよく豊かに自分らしく生きる力」を育むことをめざし、個に視点を置きながら、課題に応じた様々な学習集団で学習をすすめます。

② 卒業後の社会参加を見据えた取り組み

作業学習 作業を通して挨拶、報告、連絡、相談等のコミュニケーション手段を獲得し、集中力や持続力を育成し、働く意欲、姿勢、態度を培い、生きる力と働く力を育むことを目的に、1～3 年がクリーン班、木工班、手工芸班、紙工班の 4 班に分かれて学習します。

校内実習 1 年で 1 回、2 年・3 年で 2 回「働く学習」の中で 1～3 週間の作業体験を校内で実施します。

現場実習 一般就労を希望している生徒は 2 年の 1 学期にグループで 3～5 日間、3 学期に 1 週間、福祉事業所を希望している生徒は 3 学期に半日～1 日の体験実習があります。3 年では全員が福祉施設や事業所（企業）等で進路先を見据えた実習を行います。1、2 年では卒業後をイメージするために施設や企業等の見学学習、3 年ではグループホームの見学も行います。

余暇や暮らし 卒業後につながる余暇や自分の暮らしを豊かにする学習について、生活単元学習や総合的な探究の時間等で取り組みます。

部活動 特別支援学校体育連盟主催の大会・記録会（陸上、駅伝、ランニング、ティールボール等）を目指して練習し、運動能力・競技能力の向上を図るのが目的です。





神奈川県立

たか っ し えんがっ こうい く た ひがし ぶんきょうしつ
高津支援学校生田東分教室

所在地：〒214-0038 川崎市多摩区生田 4 丁目 32-1
(県立生田東高等学校内)

電 話：044-931-1020 (FAX 共通)

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh

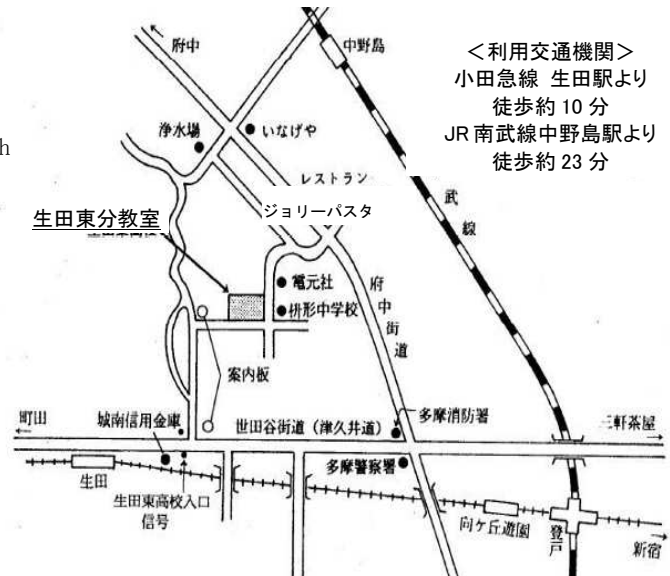
設 置：平成 22 年 4 月 1 日

学 部：高等部 (知的障害教育部門)

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	14	15	2	31

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)



高津支援学校生田東分教室は、平成 22 年 4 月 1 日に設置されました。
今年度入学した 14 名は、14 期生となります。

<分教室の指導目標>

- ・自己肯定感・自己表現力、他者と関わる力をはぐくみ、豊かな学校生活・社会生活につなげる。
- ・職業観を育成し、地域で生き生きと働く生活の実現を目指す。
- ・地域や生田東高校との交流を通して、幅広い活動を図るとともに、生徒への理解と支援の深化を目指す。



○コミュニケーション能力の育成

- ・話し合いや発表の時間を設定し、自分の考えを伝える力、他者の意見を尊重する力、様々な意見をまとめる力を育てます。
- ・音楽、美術、体育や国語などの表現活動を通して、自己表現力や他者と協同する力を養います。

○卒業後の社会参加を見据えた取り組み

- ・社会生活に必要な知識や技術を身につけることを目指した教科指導を行います。
- ・インターンシップや職業体験学習、様々な体験学習を通して興味関心を広げ、ルールやマナー、働く喜びを学びます。
- ・芸術活動やスポーツ等 (余暇) の楽しみを広げていくことを大切に考えています。



(生田東分教室キャラクター) ノラボーナ

○自己選択・自己決定力の育成

- ・個別教育計画の作成に当たっては、本人・保護者を交えて協議し、本人が自覚して目標達成に向けて活動できるように指導します。
- ・自己の個性や能力を踏まえて将来を思い描き、自分で進路を選択できる力を育てます。



神奈川県立

たか っ し えん がっ こう かわさき きた ぶんきょうしつ
高津支援学校川崎北分教室

所在地：〒216-0003 川崎市宮前区有馬 3-22-1
(県立川崎北高等学校内)

電 話：044-870-1040

FAX：044-870-1041

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takatsu-sh>

設 置：平成 23 年 4 月 1 日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	14	15	13	42

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

学校案内図



高津支援学校川崎北分教室は、平成 23 年 4 月 1 日に設置されました。
今年度入学した 14 名は、13 期生となります。

<分教室の指導目標>

- ・自分を知り自己を表現する力、他者を知り人とやり取りする力（コミュニケーション力）を育み、社会の中で一人の人間として、豊かに自分らしく生きる力を身につける。
- ・職業観を育成し、自分の生き方について主体的に考える力を養い、社会でいきいきと働く生活の実現を目指す。
- ・地域や川崎北高校との交流及び共同学習を通じ、より良く豊かに生きる力を育む。



○コミュニケーション能力の育成

- ・話し合いや発表の時間を通して、聞く・話す力、自分の考えを伝えるとともに他者の意見を尊重してまとめる力を育てていきます。
- ・芸術や体育、国語などの表現活動を通じて、自己表現力や仲間と協同する力を養います。

○卒業後の社会生活を見すえた取り組み

- ・社会生活を送る上で必要な力を身につけることを目指した教科学習を行います。また、インターンシップなどの職業体験学習をはじめ、さまざまな体験学習を通じて興味関心を広げるとともに、マナーやルールについて実践的に学びます。

○自己選択・自己決定力の育成

- ・個別教育計画の作成にあたっては、生徒本人・保護者・担任で協議し、生徒自身が自分の課題に気づき目標達成に向けて活動することができるよう促します。
- ・自己の個性・能力を踏まえて将来を思い描き、自分で進路を考えることができるように指導します。

○楽しむ力を育てる学習

- ・高校生として適切な余暇の過ごし方を皆で考えながら、自分にとっての楽しみを見つけるなど、余暇活動の広がりを目指した学習を考えています。





神奈川県立

あ さ お し え ん が つ こ う
麻 生 支 援 学 校

所在地：〒215-0013

川崎市麻生区王禅寺 303-1

電話：044-980-4855

FAX：044-986-2517

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/asao-sh

創立：平成17年11月1日

学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	31	21	20	72
肢体不自由教育部門	5	2	12	19

※肢体不自由教育部門1年に1名、2年に1名、3年に2名、訪問を含む

（生徒数については令和5年5月1日現在）

＜学校案内図＞



＜利用交通機関＞

●小田急線 柿生駅 南口下車 川崎市バス 溝口駅南口・鷺ヶ峰営業所行 東急バス たまプラーザ駅・すすき野団地行バス所要約10分「琴平下」下車徒歩2分
●田園都市線 横浜市営地下鉄線 あざみ野駅西口下車 東急バス すずき野団地・虹ヶ丘営業所行 バス所要約15分「虹ヶ丘小学校」下車徒歩5分

■本校の特色

高等部のコースにおける授業の一環として校内の清掃活動、近隣校外の清掃活動等、環境美化活動に例年取り組んでおり、いつもきれいな学校であることを心がけています。また、地域支援センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた支援も行っています。

■教育目標

- 自立と社会参加をめざす小中校一貫した教育の実践
- 児童・生徒一人ひとりに「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を育成する授業の実践・研究を推進
- ICT機器等の有効活用を含め、専門性の高い教育活動の実践・研究・発信の推進
- 地域の学校等への、センター的機能による組織的なコンサルテーションの推進



■教育目標実現の手だて

高等部では教育目標を実現し、生徒が自信を持って明るい未来に一步踏み出せるように、教育的ニーズに応じて、コース別の授業も行っています。

ワークコース：一人ひとりがより良く生きる力を育て、

ニーズに応じて自己実現に必要な力をつけることをめざす。

アートコース：表現活動を通して、主体的に行動することや、

社会参加に向けた力をつけることをめざす。



本校のイメージキャラクター

王禅寺虹子さん ジョンくん 柿生あさおさん



神奈川県立

あさおしえんがっこうもといしかわぶんきょうしつ
麻生支援学校元石川分教室

所在地：〒225-0004

横浜市青葉区元石川町 4116 番地
(県元石川高等学校内)

電話：045-905-0037

FAX：045-905-0038

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/asao-sh

設置：平成 21 年 4 月

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門 (分教室)	14	15	8	37

(生徒数については、令和 5 年 5 月 1 日現在)



<学校案内図>

利用交通機関

●あざみ野駅から：バス 5 番乗り場

「あざみ野ガーデンズ経由

たまプラーザ駅行き」乗車

「元石川高校」バス停下車 徒歩 1 分

●たまプラーザ駅から：バス 5 番乗り場

「元石川高校経由

あざみ野ガーデンズ循環」乗車

「元石川高校」バス停下車 徒歩 1 分

●新百合ヶ丘駅から：小田急バスまたは東急バス

「あざみ野駅行」乗車

「あざみ野ガーデンズ」下車徒歩約 15 分



元石川分教室では麻生支援学校の教育目標のもとに、「働く、働く喜びを知る」「社会で暮らす、生きる、貢献する」「豊かに学ぶ」の 3 つを教育の柱とし、将来の就労実現に向けた指導、支援に重点をおいた教育活動を行います。



【元石川分教室 教育目標】

- (1) 基本的な生活習慣、健全な生活態度を身につけ、心身の健康を保持増進する力を育てる。
- (2) 社会で生きる基礎となる知識と課題解決力を培い、主体的に学習する態度を育てる。
- (3) 企業就労・職業自立に必要な知識、技能、態度を習得し、活用する力を育てる。
- (4) 豊かに暮らし、自ら社会に参加、活躍、貢献できる力を育てる。



神奈川県立

つくいしえんがっこう
津久井支援学校

所在地：〒252-0175 相模原市緑区若柳 44 番地

電話：042-684-4860

F A X：042-684-4861

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/tsukui-sh

創立：平成 15 年 11 月 1 日

学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

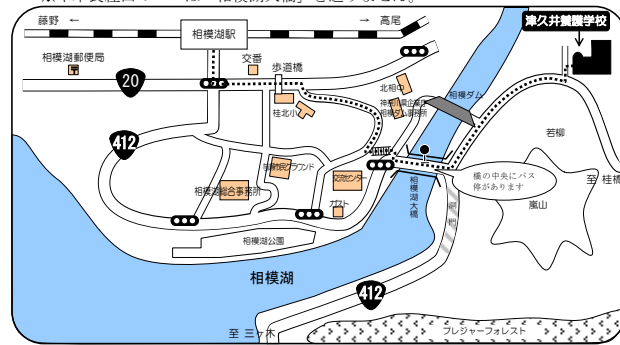
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	15	5	12	32
肢体不自由教育部門	1	0	2	3

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- JR 中央線「相模湖駅」から徒歩 22 分
 - 「相模湖駅」から神奈中バス利用の場合は「三ヶ木」行き「相模湖大橋」下車 徒歩 10 分
 - 橋本、城山、津久井方面からは「三ヶ木」乗換「相模湖駅」行き「相模湖大橋」下車 徒歩 10 分
- ※千木良経由のバスは「相模湖大橋」を通りません。



◇学校教育目標

- ・児童・生徒の生命と人格を尊重し、一人ひとりのニーズに応じた支援教育を推進する。
- ・児童・生徒が持っている力を最大限に伸ばし、積極的に自立と社会参加を支援するキャリア教育に取り組む。
- ・地域密着型の学校経営を行い、地域らしさ、独自性を取り入れたインクルーシブ教育を推進する。

◇高等部の教育目標

- ・卒業後の家庭生活・社会生活に向けた「生活力」を育てる。
- ・集団のルールやマナーを身につけ、豊かなコミュニケーション力を育てる。
- ・社会人として自立し、豊かな人生を育むことのできる意欲・態度を育てる。

◇施設の概要

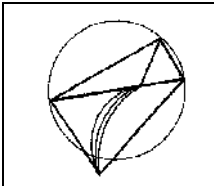
- ① 施設規模等：敷地面積 約 4,400 m² 延床面積 約 3,700 m² 鉄筋コンクリート 3 階建
- ② 教室等：普通教室、自立活動室、PC 室、プレイルーム、音楽室兼視聴覚室、木工室、環境整備室、調理実習室、縫製室、保健室兼ケアルーム、食堂、教育相談室、進路相談室
- ③ 体育施設等：体育館、室内温水プール、グラウンド

◇スクールバスの運行

児童・生徒の登下校のためにスクールバスを
3 コースで運行しています。

○城山コース ○藤野コース ○青野原コース





神奈川県立

さがみはらしえんがっこう
相模原支援学校

所在地：〒252-0336 相模原市南区当麻814番地

電 話：042-778-0331

F A X：042-778-4957

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamihara-sh

創 立：昭和50年

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

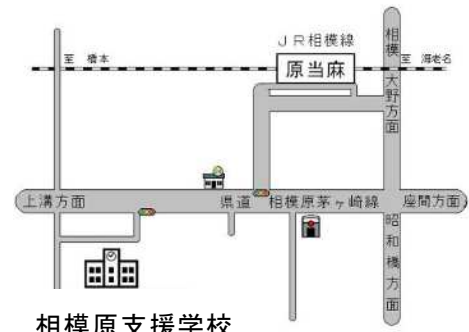
高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	38	36	34	108

（生徒数については令和5年5月1日現在）

〈学校案内図〉

J R 相模線 相模原駅下車、徒歩7分



相模原支援学校

本校高等部の教育活動

(2) 日常生活の指導

身辺の自立を含め、自主・自立の力を育てます。また、さまざまな集団活動を通して心身の調和の取れた発達を促します。

(2) 教科別指導（国数、音楽、美術、保健体育）

生活に必要な力や豊かな情操を養います。国数は課題別のグループで学習します。

(3) 社会生活・進路

将来、より自立した生活をするための力を育て、社会人としての意識を高めます。

(4) 家庭

日常生活に必要な実践的な力を育てます。必要に応じて課題別グループで学習します。

(5) 職業

働く意欲や態度、能力を高め、社会人として必要な力を育てます。学部全体を縦割りグループにして行います。

(6) 体験実習

1年では事業所や福祉施設で一日体験実習や校内実習を行い、2年・3年では校内や企業等産業現場での実習を行います。

(7) 宿泊学習（2年）、修学旅行（3年）

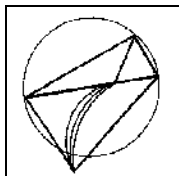
2年は1泊の宿泊学習を行います。3年は2泊の修学旅行を行います。

(8) 部活動「放課後運動部」

月2回程度2グループ4種目を交替で行います。分教室と一緒に活動する日もあります。

令和5年度 相模原支援学校 本校高等部 日課表

校時	月			火			水			木			金		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
8:55	日常生活の指導														
①	HR														
9:50	体力づくり												職業		
10:00	音	進	国	進	国	国	国	音	国	音	国				
②	楽	路	数	路	数	数	数	楽	数	楽	数	職業			
10:50															
10:55															
③	家	体	美	美	家	音	体	美	社会	社会	社会	家	職業		
④	庭	育	術	術	庭	楽	育	術	社会	社会	生活	生活			
															掃除
12:05															
12:20	給食準備														
	給 食														
	給食片付け														
	余暇指導														
13:15	学級・学年 ・学部活動				国 数	音 楽	体 育	LHR		音 楽	国 数	進 路	職業		
日常生活の指導															
14:05	14:00下校														
⑥	掃 除								掃 除						
	日常生活の指導 HR						日常生活の指導 HR								
15:00下校															



神奈川県立

さがみはらしえんがっこうはしもとぶんきょうしつ 相模原支援学校橋本分教室

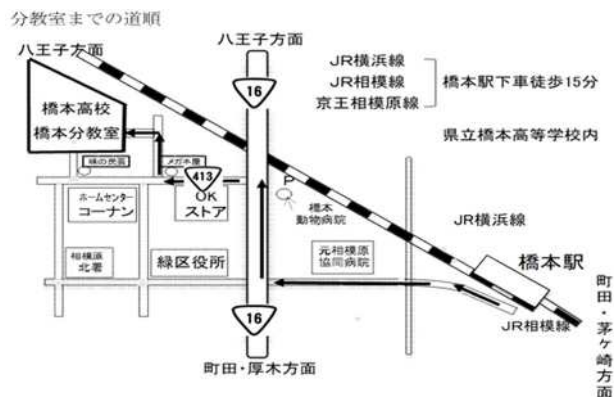
所在地：〒252-0143
相模原市緑区橋本8-8-1
(県立橋本高等学校内)
電話：042-700-1621
FAX：042-774-0870
URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamihara-sh>
設置：平成18年
学部：高等部(知的障害教育部門)

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

(生徒数については令和5年5月1日現在)

分教室までの道順



相模原支援学校橋本分教室の教育活動

- 相模原支援学校高等部の教育活動をもとに自立と社会参加を目指します。橋本駅から徒歩15分という立地を生かし、橋本高校をはじめ地域の事業所等との連携・協力を図りながら教育活動を行います。
- 基本的な生活習慣を身につけ、卒業後社会に出て必要となる基礎的な知識の獲得や体験を重視した教育課程を編成しています。
- 授業の形態は一斉授業が中心になりますが、個別教育計画に基づき、一人ひとりの指導目標や指導内容を明確にし、授業の工夫を行いながら取り組んでいます。
- 自立と社会参加に向けての体力づくりとして、15分間走・柔軟運動・敏捷性や瞬発力等を養う運動に重点的に取り組んでいます。
- 働くために必要なことについて、様々な授業や職業体験、校内・現場実習、進路面談、外部講師による講話等の機会を通して学びます。進路指導については、本校高等部と連携して進め、個々の生徒の実態に応じ、卒業後の生活にむけた進路指導を行います。
- 交流・共同学習として、本校高等部との合同部活動、橋本高等学校の樗牛祭(文化祭)などへの参加・見学、近隣の大学との美術・音楽を通じた交流等を行っています。
- 放課後活動部として、週に1回30分程度、分教室にてバスケットボール、美術の活動を行っています。

令和5年度 相模原支援学校 橋本分教室 日課表						
	月	火	水	木	金	
1	8:50	ホー ム ルー ム				
	9:10	体 力 づ く り				
	9:45	職 業				
2	9:50	総合	1年 健康	音楽	家庭生活	
	2年 実践国語		職業			
	3年 実践数学					
3	10:40	1年 実践国語		1年 実践国語	美術	家庭生活
	2年 実践数学	2年 実践数学	職業			
	3年 社会生活	3年 健康				
4	11:30	1年 社会生活		1年 実践数学	美術	総合
	2年 実践国語	2年 健康	職業			
	3年 実践数学	3年 実践国語				
	12:30	昼食				
	12:40					
		余暇指導				
5	13:00	音楽	総合	体育	選択	
	職業					
6	13:50	1年 実践数学 2年 社会生活 3年 実践国語	LHR	体育	清掃	職業
	14:20				ホームルーム	
	14:35	清掃				
	15:00	ホームルーム	ホームルーム	ホームルーム		ホームルーム



神奈川県立

さがみはらちゅうおうしえんがっこう
相模原中央支援学校

所在地：〒252-0221 相模原市中央区高根 1-5-36

電話：042-768-8510

F A X：042-768-8519

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/sagamiharachuo-sh/

創立：平成 23 年 4 月 1 日

学部：幼稚部、小学部、中学部（視覚障害教育部門）
幼稚部、小学部、中学部（聴覚障害教育部門）
小学部、中学部、高等部（知的障害教育部門）
小学部、中学部、高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	35	30	21	86
肢体不自由教育部門	7	7	8	22

※肢体不自由教育部門 1 年内 1 名は訪問
(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- JR横浜線「淵野辺」駅南口より徒歩14分
バス(淵53、淵34、淵35) 乗車時間2分
「淵野辺十字路口」バス停下車後、徒歩5分
- JR相模線「上溝」駅よりバス(淵53) 乗車時間10分
「淵野辺十字路口」バス停下車後、徒歩5分
- 小田急線「相模大野」駅北口よりバス(相02系統) 乗車時間20分「宇宙科学研究本部」バス停下車後、徒歩5分



本校の基本理念（コンセプト）：「子どもの未来をみんなで創る」

障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが地域で育ち、地域で生きる人であると考え、その子どもたちの未来を、子ども本人を含め、保護者はもちろんのこと、学校の教職員、地域の関係者や関係機関等、みんなで力を合わせて創る学校です。

本校の使命（ミッション）

- ・本校に在籍する子どもが地域で育ち、地域で生きるために、子どもたち個々の能力を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための支援を行います。
- ・地域の方と一緒に、障がいのある人もない人も共に暮らす社会づくりをすすめます。
- ・4学部4部門がある特別支援学校として、多様な支援が必要な幼児、児童、生徒および社会生活をする人々に対して、十分に機能できるように専門的な知識や支援技術を積み重ね、相模原地区における支援教育のランドマークとして機能します。

本校の基本方針（ポリシー）

- ・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由の各教育部門がそれぞれの専門性を高め、連携しながら、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の実現に取り組めます。特に高等部においては、作業や職業に関する教科等に関連した「コース制」を導入し、自立と社会参加を目指して一人ひとりの「自分らしく生きること」を支援します。
- ・すべての子どもたちが地域で生活する人であると考え、保護者（家庭）や地域の幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校等それぞれの場と連携しながら、地域で一貫したキャリア教育の実践をすすめます。
- ・子ども一人ひとりの学びや育ちを地域で支えるために、地域を支援するセンター的機能を高め、保護者や地域の関係機関に向け、ニーズに応じた支援の充実を図ります。
- ・本校の特徴である4学部4部門の学部部門をこえた「交流及び共同学習」を大切にし、校内のミニ共生社会づくりをすすめるとともに、地域の共生社会づくりに貢献できる子どもを育てます。
- ・施設開放や福祉避難所等の仕組みづくりや、本校幼児児童生徒が地域の方と一緒に教育活動を展開することを通じて、地域に開かれた学校、地域に貢献できる教育活動の展開を目指します。



神奈川県立

い わ と し え ん が っ こ う
岩 戸 支 援 学 校

所在地：〒239-0844 横須賀市岩戸5丁目6番5号

電 話：046-839-4500

F A X：046-849-3200

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/iwato-sh

創 立：平成22年4月1日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

高等部（肢体不自由教育部門）

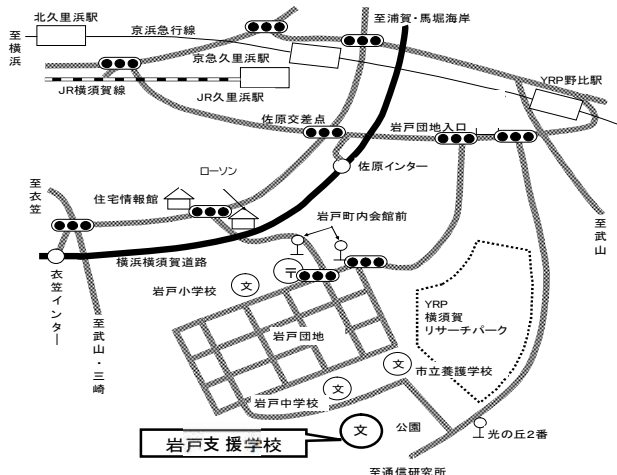
高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	38	39	50	127
肢体不自由教育部門	6	8	1	15

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内図> 利用交通機関

- 京浜急行 YRP 野比駅より YRP センター・光の丘2番方面バス10分
光の丘2番下車徒歩7分
- 京浜急行北久里浜駅よりバス乗り場2番 大矢部四丁目・岩戸団地循環、バス15分 岩戸町内会館バス停下車徒歩15分
（本数は少ないが大矢部・岩戸支援学校行きバスもあり）
- JR 衣笠駅より徒歩5分衣笠十字路バス停より岩戸団地経由
YRP 野比駅行きバス20分岩戸町内会館下車徒歩15分



【学校の理念】

- ・生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、自立と社会参加するための生きる力を育成します。
- ・学校から社会への移行を支援するための取り組みを充実させます。
- ・進路先拡充や地域生活を充実させるために様々な機関と連携します。
- ・社会参加をめざして体験を重視した学習を充実させます。

○知的障害教育部門の取り組み

社会生活への移行に向けて個々の教育的ニーズを見据え、生きる力の向上を図ります。

集団生活を基本とし、SSE（Social Skills Education）等の学習を大切にしています。また、生徒一人ひとりの実態に応じた日常生活の指導等の学習も行っています。

「職業」の授業は週1回、3学年縦割りで6つの班に分かれて実施し、実際に働く活動を通して、「働く喜び」「働くことの大変さ」「頑張る気持ち・体力」「報告・連絡・相談」等の卒業後に必要となる基本的な態度を学習しています。

○肢体不自由教育部門の取り組み

健康面・身体面・学習面などにおいて一人ひとりのニーズに沿った教育活動を行っています。校内支援だけでなく、地域資源との連携によって、それらの機関に所属する専門家の支援による指導の充実を図っています。

自立と社会参加に向けて、「誰もが社会の中で役割を持ち、適切な支援のもとに、自分らしく、豊かに生きる」ことを目指し、「職業」の授業では、知的障害教育部門と一緒に、又は、分業制で作業を行う等、学校生活のあらゆる場面で、生きる力の向上に取り組んでいます。

所在地：〒238-0313 横須賀市武3-35-1

電 話：046-856-5800（代表）

F A X：046-857-6367

U R L：
<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takeyama-sh>

創 立：昭和51年

学 部：小学部・中学部・高等部
（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部
（肢体不自由教育部門）

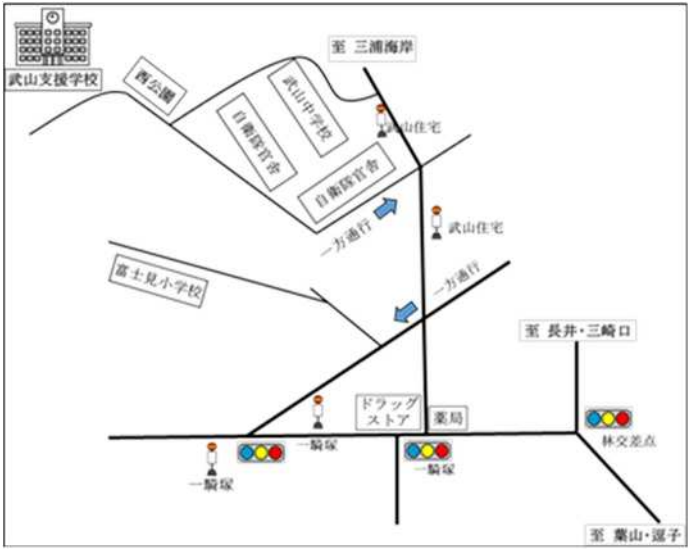
高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	21	16	52
肢体不自由教育部門	1	1	2	4
合計	20	18	21	59

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内>
利用交通機関

- 京急横須賀中央駅または衣笠十字路よりバス 一騎塚下車徒歩10分
- 京急三浦海岸駅よりバス 武山住宅下車徒歩5分



「明日に向かって羽ばたこう！」

校歌にあるこの歌詞が本校の子どもたちの大きな目標になっています。武山支援学校は、横須賀市の西にある標高200m程の小高い「武山」のふもとにあります。山頂からの眺望はすばらしく、遠くは富士山から相模湾、反対方向には東京湾が一望できます。30～40分あれば登れるので体力づくりにも活用されています。

昭和51年に開校し、昭和52年8月に現在の校舎が完成しました。平成17年度より全学部にて知的障害教育部門と肢体不自由教育部門を併置し、平成20年度から県立津久井浜高校内に高等部知的障害教育部門の分教室を設置しました。令和5年度は小学部68名（知的68名、肢体0名）、中学部57名（知的57名、肢体0名）、高等部82名（知的78名、肢体4名）の合計207名（内分教室26名）の児童・生徒が横須賀市、三浦市、逗子市、葉山町等から通学しています。通学支援として全学部を対象に登校時には、8台のスクールバスが運行されています。高等部知的障害教育部門のカリキュラムは、自立活動や日常生活の指導を中心に据え、生活に関連した内容の国語・数学および音楽・美術・保健体育（トレーニング含む）・作業学習・生活単元学習等の内容を学習しています。

「作業学習」では将来社会人として働くために必要な内容を学習します。令和5年度は工芸、事務、園芸・環境、リサイクル、受注の5つの作業学習班に分かれ学習を行っています。

なお、次の表は、令和4年度本校の卒業生進路状況です。

	就職	就労支援				生活 介護	地域 作業所	進学	地域活動 センター	家庭	その他	合計
		就労継続 A	就労継続 B	自立 訓練	就労 移行							
4 年度	0	0	1	0	1	15	0	0	1	0	2	23



神奈川県立

たけやま しえん がっこう つくいはま ぶんきょうしつ
武山支援学校津久井浜分教室

所在地：〒239-0843 横須賀市津久井4-4-1
(県立津久井浜高等学校内)

電話：046-848-2137

FAX：046-848-2147

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/takeyama-sh>

設置：平成20年

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

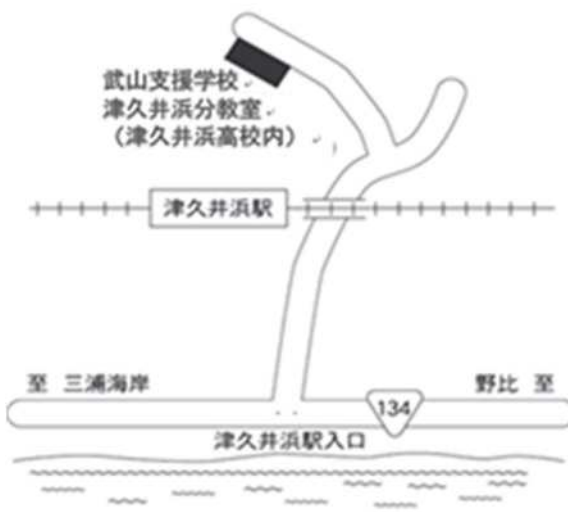
	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	10	4	12	26

(生徒数については、令和5年5月1日現在)

<学校案内>

利用交通機関

- 京急津久井浜駅より徒歩5分



(1) 分教室の教育

三浦半島地域における、急激な生徒増への対応として、平成20年度から県立津久井浜高等学校内に武山支援学校高等部の分教室を設置し、分教室による教育が始まりました。地域の暖かな風土と特性を活かし、高等学校の生徒とのふれあいと相互尊重の中から、新しい特別支援の教育を展開しています。

(2) 分教室の特徴

分教室では、地域に活動の場を求め、社会参加と自立の実現のため「共に尊重しあう豊かな心の育成」「社会で生きる力の育成」を教育課程の骨子に据え、柔軟性のあるしなやかな学習に取り組んでいます。また、本校の主要な学校行事等の活動にも参加しながら、津久井浜高校生との行事や授業、部活動の交流、地域の幼稚園や高齢者施設での音楽活動、観光農園や企業での職業学習、地域清掃や三浦国際マラソンでのボランティア活動と幅広く交流活動を行っています。

(3) 分教室の施設

分教室は、授業の内容に応じて各教室や特別教室を使用するなど、高校と連携しています。

(4) 分教室の進路

次の表は、令和4年度 分教室卒業生の進路状況です。

4年度	就職	就労支援				生活 介護	地域 作業所	進学	地域活動 センター	家庭	その他	合計
		就労継続 A	就労継続 B	自立 訓練	就労 移行							
	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	7



神奈川県立

ひらつかしえんがっこう
平塚支援学校

所在地：〒259-1215 平塚市寺田縄590番地

電話：0463(58)0456

FAX：0463(59)4248

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hiratsuka-sh/>

創立：昭和44年4月1日（開校）

学部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数：（令和5年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	7	8	10	25
知的障害教育部門	30	32	22	84

<学校案内図>

利用交通機関

- JR平塚駅より「秦野駅行き」
神奈川中央交通バス乗車
「平塚支援学校前」下車徒歩7分



学校のミッション

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労の取組を促進し、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のための、一貫した教育を行う。医療的ケアを必要とするなど、多様な教育的ニーズのある児童・生徒の登下校を含む教育活動全般において、安全に実施する校内体制の整備をすすめ、個々の障害および健康の状態に合わせた専門性の高い指導を実践する。加えて、児童自立支援拠点の整備に伴う教育・連携体制の整備に取り組む。

学校教育目標

- 自立と社会参加をめざした「授業の充実・深化」「共生社会の実現に向けた挑戦」
- 公的機関や青年会議所等と連携した就労の取組の推進
- 小中高の連携及び保護者との連携を重視した一貫した教育の推進とチーム力の向上
- 地域の支援教育に関する専門性の向上をめざしたセンター的機能の効果的な推進
- 児童・生徒が安全・安心に生活できる学校づくりの推進
- 地域と連携したよりよいコミュニティ・スクールの実現



創立50周年記念
マスコットキャラクター
ひらひらちゃん

子どもたちの自立と社会参加を全力で目指します

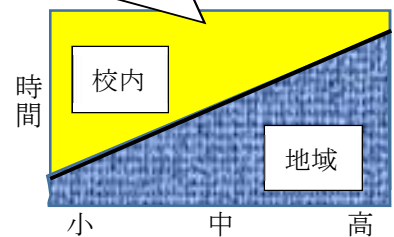
社会貢献をすること！

人との関わりを楽しむこと！

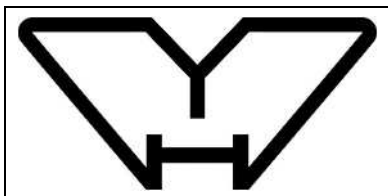
自分らしく生き生きと生活していくこと！



学年が上になるほど地域で学習する時間が増えるカリキュラムになっています



地域を「第2の教室」として、近隣施設や公園の清掃活動など「地域に出て、人と関わり、考え、学ぶ」ことを大切に考え、教育課程を編成しています。そして、共生社会の実現を目指しています。



神奈川県立

は だ の し え ん が っ こ う
秦 野 支 援 学 校

所在地：〒257-0025 秦野市落合 500

電 話：0463-81-0948 (代)

F A X：0463-83-4118

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/hadano-sh

創 立：昭和 33 年 10 月 1 日

学 部：＜病弱教育部門＞

【A課程】落合校舎:病弱教育(準ずる教育)

小学部・中学部

【B課程】落合校舎:病弱教育(重複障害教育)

小学部・中学部・高等部(高等部は施設訪問のみ)

【C課程】神奈川リハビリテーション病院かもめ学級:訪問教育

小学部・中学部

＜知的障害教育部門＞

【D】弘済学園:訪問教育

小学部・中学部

【E】落合校舎

高等部

【F】末広校舎

小学部・中学部

＜肢体不自由教育部門＞

【G】落合校舎

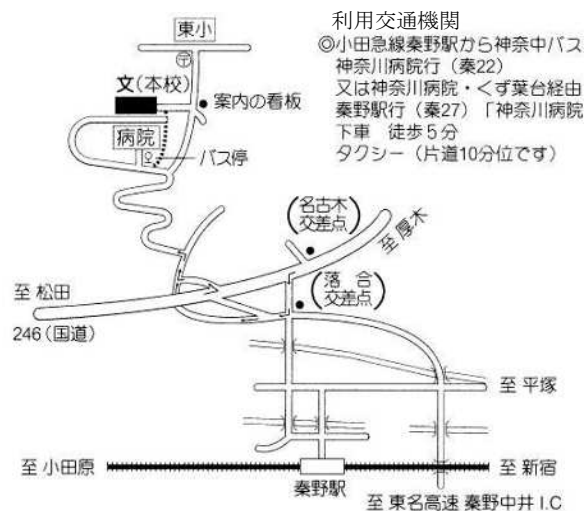
小学部・中学部・高等部

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	合計
病弱教育部門 (在施設訪問:重複障害教育)		3	2	5
知的障害教育部門	22	20	25	67
肢体不自由教育部門	2	0	2	4

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

＜学校案内図＞



本校の生い立ち

大山丹沢の山懐(やまふところ)にある本校は、桜の花、桃の花など季節に合わせて素敵な花が見られる山里にあり、ウグイスをはじめ様々な小鳥達のさえずりがいつも聞こえてきます。子どもたちはこのようにたいへん素晴らしい環境に囲まれ、伸び伸びと育っています。

さて、本校では以前より結核や気管支喘息、自律神経失調症等、その他慢性の病気のある児童生徒(A課程)や重度障害児(B課程)が、隣接する国立療養所神奈川病院(現独立行政法人国立病院機構神奈川病院)で療養生活を送りながら学習を行っていました。その後平成10年に神奈川リハビリテーション病院内かもめ学級(C課程)が、平成16年には訪問教育弘済学園(D)が神奈川県立伊勢原養護学校より移管され、平成22年4月には知的障害教育部門高等部(E)が開設されました。そして平成28年4月には知的障害教育部門小学部・中学部末広校舎(F)が秦野市立末広小学校の敷地内に開設されました。

平成31年4月には、知的障害教育部門 高等部の拡充と、肢体不自由教育部門(G)小学部・中学部・高等部を開設し、5年目を迎えました。落合校舎には給食設備ができ、給食の提供をしています。また、知的障害教育部門・肢体不自由教育部門 児童・生徒の通学のために、スクールバスの運行もしています。令和5年4月に校名が「秦野支援学校」に変わりました。

＜めざす学校像＞

～共生社会(Diversity & Inclusion)の実現に向けて～

ともにくらし ともにいきる ともにまなび ともにそだつ

多様な教育部門を持つ「ともに歩む総合的な特別支援学校」をめざします

- 児童生徒が「毎日行きたい」と感じる学校
- 保護者が子どもを「毎日登校させたい」と感じる学校
- 地域や関係機関が「利用したい、応援したい、手をつなぎたい」と感じる学校
- 教職員が学び合い、支え合い、働きがいを感じる学校

＜めざす児童生徒像＞

- めあてを持って、やりぬく子
- 「よさ・強み・持ち味」を十分に発揮できる子
- 自分を大切にし、ほかの人の幸せを願える子



秦野支援学校キャラクター いぶきちゃん



神奈川県立

か ま く ら し え ん が っ こ う
鎌倉支援学校

所在地：〒247-0075 鎌倉市関谷566番地

電話：0467-45-1482（代表）

0467-45-1952（職員室直通）

F A X：0467-43-4804

U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kamakura-sh

創立：昭和54年1月

学部：高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数（本校のみ）

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	29	26	25	80
肢体不自由教育部門	6 (0)	11 (1)	10 (0)	27 (1)

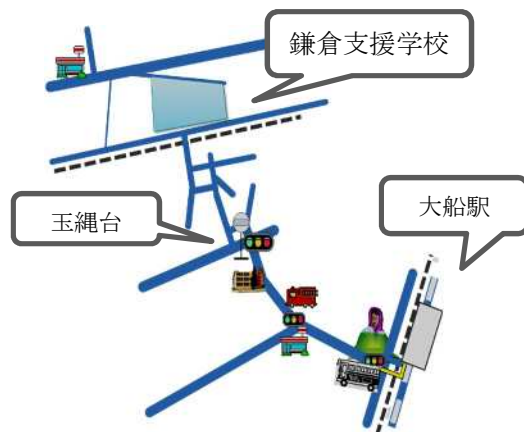
※（ ）の数は、訪問籍生徒数

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- 大船駅西口バスターミナルより 神奈川中央交通バス 栄光学園経由清泉女学院行き 玉縄台下車 徒歩7分
- 藤沢駅北口より 神奈川中央交通バス 関谷インター経由大船駅行き 関谷インター下車 徒歩7分

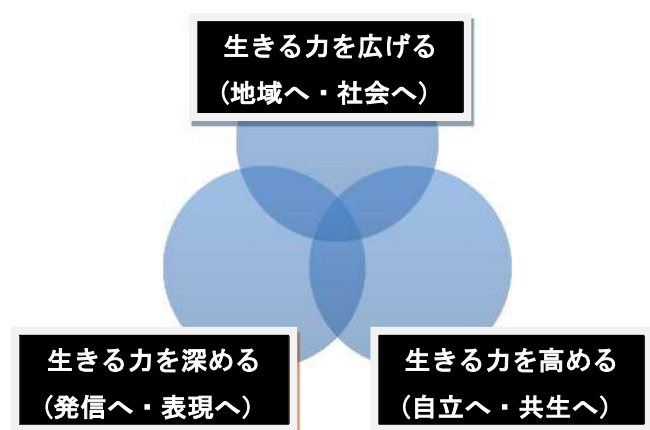


<学校紹介>

大船駅から北へ約2.5km、鎌倉市立関谷小学校に隣接。昭和54年に肢体不自由養護学校として開校しました。昭和60年には高等部に知的障害学級が設置され、昭和62年より知的障害教育部門高等部が併置となりました。平成20年度から県立金井高等学校内に分教室を開設しています。

本校の生徒は、鎌倉市、藤沢市、横浜市、逗子市等から通学しています。

<教育目標>



<教育方針>

<保護者の信頼と期待に応える学校>

○一人ひとりの「生きる力」を広げ、高め、深める教育を行います。

<専門性を持ち、豊かな教育実践を進める学校>

○自立と社会参加をめざし、児童・生徒の生きる力を着実に積み上げます。

<子どもの人権を大切にする学校>

○児童・生徒が自分らしく生きる力を広げます。

<地域と共に歩む学校>

○共生社会の実現を目指す地域のセンターとしての教育活動を進めます。

<安心して生活できる学校>

○多様な教育的ニーズに対応できる安全安心な指導体制を確立します。

<部活動・生徒会活動>

○どちらも生徒の自主的な活動です。教育部門・学部の枠を超えた交流の場になっています。

○部活動は、サッカー部・バスケットボール部・陸上競技部・文化部があり、活発に活動しています。

○生徒会は、役員会・委員会活動（放送、保健体育、図書）があります。



神奈川県立

かまくら しえん がっこう かない ぶんきょうしつ

鎌倉支援学校金井分教室

所在地：〒244-0845 横浜市栄区金井町 100 番地
(県立金井高等学校内)

電話：045-852-4722

FAX：045-852-4738

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kamakura-sh>

設置：平成 20 年 4 月 1 日

学部：高等部（知的障害教育部門）

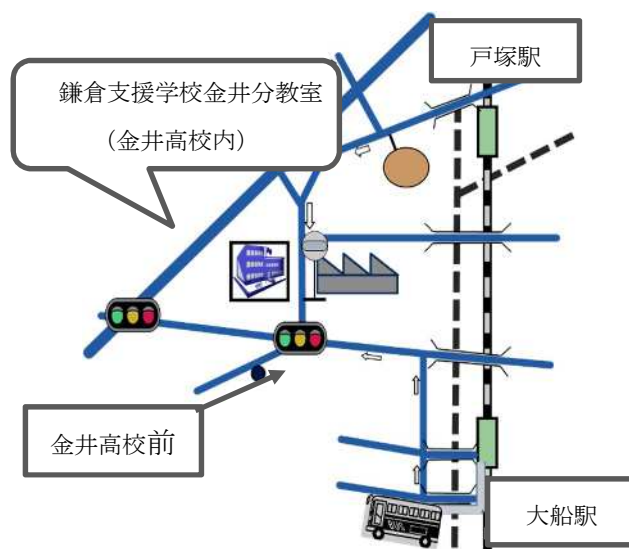
高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	15	9	15	39

(生徒数については、令和 5 年 5 月 1 日現在)

<学校案内図>

- 大船駅西口バスターミナル：神奈中バス「戸塚バスセンター行」乗車約 10 分、「金井高校前」下車
- 戸塚駅：戸塚バスセンターから
神奈中バス「大船駅西口行」又は「金井高校前行」乗車約 15 分、「金井高校前」下車



令和 5 年度 高等部分教室日課表

		月			火			水			木			金			
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
8:50～ 9:15	1 校 時	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	
		HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR	
9:15～ 9:50	2 校 時	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	9:10～ 職業				朝学習	朝学習	朝学習
10:00～ 10:50	3 校 時	体力づくり			体力づくり			体力づくり							進路	情報	家庭
11:00～ 11:50	4 校 時	情報	家庭	LHR	家庭	国語	数学/ 国語	美術	数学	国語		職業				数学	進路
12:00～ 12:50	5 校 時	総合	家庭	総合	家庭	数学/ 国語	進路	昼休み 11:50～12:00							国語	LHR	美術
								昼学習 12:00～12:50									
12:50～ 13:05		昼休み					12:50～ 13:40 (水のみ)	体育			昼休み						
13:05～ 13:35		昼学習								昼学習							
13:35～ 14:25	6 校 時	数学/ 国語	総合	情報	音楽			HR	HR	HR	職業			LHR	美術	数学	
14:25～ 14:35	7 校 時	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃	清掃	13:50～15:00 部活動 (本校・分教室等)									清掃
14:35～ 15:00	8 校 時	HR	HR	HR	HR	HR	HR				HR	HR	HR	HR	HR	HR	
		着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え				着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	着替え	

平成 20 年度から県立金井高等学校内に設置された分教室です。1 学年 15 名です。
鎌倉支援学校の教育目標『一人ひとりの「生きる力」を広げ、高め、深める教育』に基づき自立と社会参加に向けた取り組みをしています。

〈分教室の取り組みの重点〉

- ・安心できる居場所になる
- ・生活スキルの習得
- ・ソーシャルスキルの習得
- ・達成感のある取り組み
- ・体験と人とのつながりに重きを置いた取り組み
- ・自己決定・自己選択の重視
- ・約束・規範を守る取り組み

☆ 部活動は本校のサッカー部・バスケットボール部・陸上競技部と一緒に活動することもあります。



神奈川県立

ふじさわしえんがっこう
藤沢支援学校

所在地：〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-19

電話：0466-82-9418(高等部)

FAX：0466-83-3520

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/fujisawa-sh/>

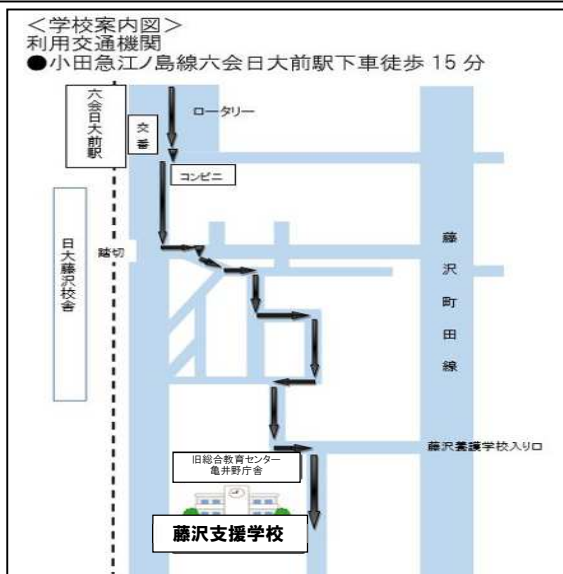
創立：昭和52年4月

学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	35	38	37	110

（生徒数については令和5年5月1日現在）



高等部の教育目標

自立と社会参加に向けて生きる力を身につけ、生徒一人ひとりがそれぞれの豊かな生き方を実現できるようにする。

高等部の指導方針

- 1 生徒一人ひとりの状況に合わせ、健康で安全な暮らしを送るための力の育成。
- 2 自分の意思で選ぶ力、心豊かな生活を送るための楽しむ力の育成。
- 3 自分自身を理解し、周りの人と正しく関わる力の育成。
- 4 「暮らす」「働く」「楽しむ」をバランスよく生活に取り入れる力の育成。
- 5 生徒一人ひとりの目標に合わせて、社会の中で「生きる」「働く」ための力の育成。



高等部の生活

【日課】通常の登校時刻は8時40分～8時50分です。下校時刻は月・火・木・金曜日は15時00分、水曜日は14時30分です。給食があります。短縮日課は11時40分に下校です。

【作業】6班（清掃受注、紙製本、陶芸、布工、農園芸、木工）の中から生徒の適性等を考慮し作業班を決めます。1・2年生は週に2回午前中、3年生は週に1回、1日通して行います。仕事への興味、関心、意欲を高め、働くために必要な態度や持久力を身につけることを目指しています。

【実習】1年生は「校内実習」、2年生は「校内実習」に加えて実際に校外へ出て働く「現場実習」を行います。3年生は進路決定に向けて「現場実習」を数回行います。

【総合の時間】3学年縦割りで、8グループ（サッカー、陸上、野球（ティースボール）、バドミントン、軽スポーツ、音楽、美術、ダンス）に分かれて活動します。生徒たちで話し合い、やりたいことを決めて運営していきます。

【生徒会活動】生徒会では、学校生活をより楽しくするために生徒総会・対面式・卒業生を送る会などの行事を生徒主体で運営しています。また、学習発表会実行委員を募集し、行事の準備・進行等を行います。生徒会役員は、選挙で選ばれます。



神奈川県立

ふじさわし えんがっこう かまくらぶんきょうしつ
藤沢支援学校 鎌倉分教室

所在地：〒248-0026

鎌倉市七里ガ浜 2-21-1

県立鎌倉高等学校内

電 話：0467-32-8721

F A X：0467-32-8722

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/fujisawa-sh/>

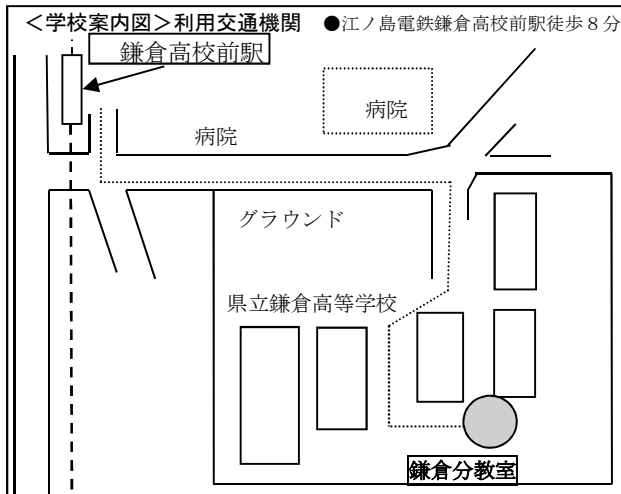
設 置：平成 24 年 4 月 1 日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

鎌倉分教室 生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	10	10	9	29

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）



【鎌倉分教室 教育目標】

**自立や社会参加に向けて、心身ともに豊かに過ごせる力と
働く力を育成する 「つたえる つながる たすけあう」**

鎌倉分教室では、「自立と社会参加に向けて」生徒一人ひとりに合わせた指導を行うと共に、様々な学習活動を通して、自己理解を深め、多世代の人たちとかかわり、お互いに助け合う気持ちの育成を目指しています。鎌倉高等学校および近隣の腰越、七里ガ浜地域と積極的に繋がり、共に学び、共に育つ学習の場を設けています。今年度も「つたえる つながる たすけあう」をスローガンとして、共生社会を広げる取り組みを行っていきます。



【鎌倉分教室 指導方針】

- ① 生徒一人ひとりの状況に合わせ、健康で安全な暮らしを送るための力の育成。
- ② 生徒一人ひとりの目標に合わせて、社会の中で「生きる」「働く」ための力の育成。
- ③ 自分自身を理解し、他者理解に努め、周りの人と正しくかかわる力の育成。
- ④ 自分で考え判断し、心豊かな生活を送るための力の育成。
- ⑤ 「暮らす」「働く」「楽しむ」をバランスよく生活に取り入れる力の育成。



「F K B」
藤沢鎌倉分教室



* 地域の老人ホーム、図書館、寺社、スーパー、保育園や幼稚園等の協力を得て、「身近な現場実習」を日々の職業の時間で実施しています。

* 鎌倉高等学校の対面式を始め、合唱コンクール、文化祭の行事参加、生徒会活動での交流があります。

* 地域で活躍されている方など外部講師の協力を得て、地域理解や社会の仕組みを学ぶ学習を行います。

* 鎌倉高等学校文化祭、藤沢支援学校本校の学習発表会やバザーを通して、地域への発信を行っています。



神奈川県立

お だ わ ら し え ん が っ こ う
小 田 原 支 援 学 校

所在地：〒250-0865 小田原市蓮正寺 1021 (小田原校舎)

電 話：0465-37-2755

F A X：0465-37-5356

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh>

創 立：昭和 53 年 4 月 1 日

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

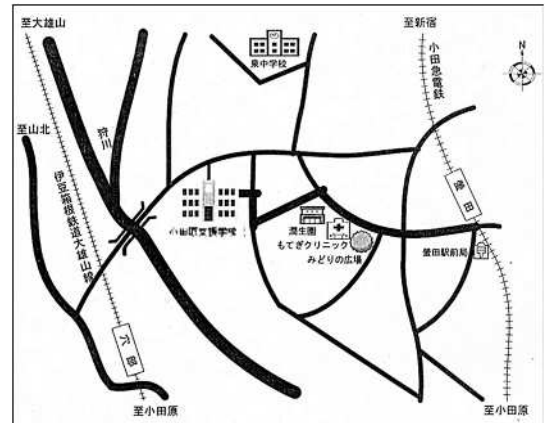
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	39	36	32	107
肢体不自由教育部門	5	0	3	8

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- 小田急線螢田駅から徒歩 8 分
- 大雄山線穴部駅から徒歩 15 分



一人ひとりが輝く学びの場 ～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

◇ めざす生徒像

○じょうぶで 仲良く たくましく 生きていこうとする人

○自分からすすんで 自分のことを行い 心豊かに働く意欲を持った人



◇ 高等部(小田原校舎)の紹介

●知的障害教育部門では卒業後の一人ひとりの自立に向け、ソーシャルスキル獲得を目指した指導に重点的に取り組んでいます。作業学習は受注、手工芸、やきもの、環境整備、木工、農園芸、紙工、ハンドメイドの 8 班で構成され、毎週金曜の終日、学部縦割りで活動しています。

また、水曜午後はサークル活動（アリーナレク、ダンス、イラスト、パソコンなど 9 サークル）を学部全体で行っています。さらに、放課後は特別支援学校体育連盟の大会に向けた練習も行われ、就労に向け体力づくりにも力を入れています。

●肢体不自由教育部門では卒業後の豊かな生活や、一人ひとりに応じた自立と社会参加をめざし、人とのふれあいや自らの気持ち・意思を表現できる学習に取り組んでいます。授業は生徒一人ひとりの課題に応じて学部全体・グループ・個別の指導形態で行っています。また近隣の中学校や高校との交流、生け花教室、音楽鑑賞会などを通して同世代や外部の人と触れ合い、自他尊重の態度を養う機会を設けています。



神奈川県立

おだわらしえん がっこう おおいぶんきょうしつ
小田原支援学校大井分教室

所在地：〒258-0017

足柄上郡大井町西大井 984-1（県立大井高等学校内）

電 話：0465-86-0040

F A X：0465-86-0041

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh>

設 置：平成 23 年 4 月 1 日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	12	15	10	37

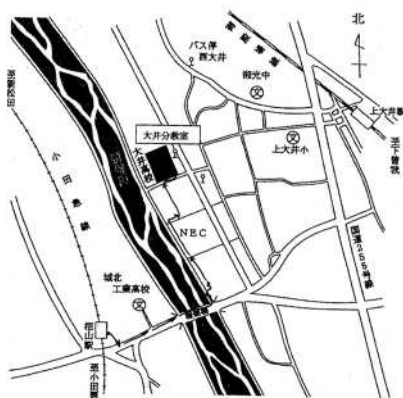
（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

● 小田急線栢山、開成駅から徒歩 25 分

● 御殿場線上大井駅から徒歩 25 分



分教室の設置

小田原支援学校大井分教室は、平成 23 年 4 月に県立大井高等学校内に小田原養護学校高等部の分教室として設置されました。

大井高等学校及び近隣施設等と連携を取りながら、より実践的な学習を展開し地域へ貢献することを目指しています。



一人ひとりが輝く学びの場

～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

1 分教室の目標

一人ひとりが『**社会的自立・職業的自立**』をするために社会で生きる力を育成します。

○コミュニケーション能力の向上 ○自らやり遂げる経験の積み重ね ○社会的なルールの遵守

2 指導内容

☆集団での活動場面に参加することで適応力を高め、人とのコミュニケーションを通して場に合った会話が
ができる力を育てます。

☆**近隣企業等での日常的な作業学習（製造業・清掃業・農業など）**を通して、働く意欲や作業能力
を高め、最後までやり遂げる力を育てます。

☆社会的通念から求められる高校生としての社会的常識や身だしなみを身につけます。

☆地域社会でのいろいろな活動に参加し、自分が生活する地域についての理解を深めます。

3 教育活動

☆**就労にむけた学習（現場体験）**では積極的な地域資源の活用をはじめ、地域や産業界と連携し、
職業教育やキャリア教育の充実を図ります。

☆卒業後の社会生活（豊かな生活）を見据えて、一人ひとりの特性を考慮した、教育内容の工夫や教育
活動の展開に努めます。



神奈川県立

お だ わ ら し え ん が っ こ う ゆ が わ ら こ う し ゃ

小田原支援学校湯河原校舎

所在地：〒259-0301

足柄下郡湯河原町中央2-21-3

電 話：0465-60-1800

F A X：0465-60-1805

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/odawara-sh>

(小田原校舎のアドレスとなります。)

設 置：令和3年9月1日

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年
知的障害教育部門	5	8	0
肢体不自由教育部門	0	0	0

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- 東海道線湯河原駅から徒歩17分
- 箱根登山バス3分「中央2丁目」下車
徒歩2分



一人ひとりが輝く学びの場

～豊かな学びと、地域に根ざした安心できる生活の実現～

・一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びが実現できるよう、**地域の特色を生かすこと**や、**地域の子どもたちと学びの時間の共有**、**本校の同学部の生徒との交流**など、小田原養護学校におけるこれまでの積み上げを大切にしながらも、新たなコンセプトの湯河原校舎ならではのおおらかで夢のある学びの実現をめざします。

<新しく開設された湯河原校舎について>

・令和3年9月に湯河原・真鶴地区に新たに小田原養護学校湯河原校舎が開設されました。これまでの高等学校内の分教室とは違い、小中高の知肢併置ということで6学部構成となり、給食の提供やスクールバスの運行も行っています。



ゆがわらこうしや ゆるキャラ
ユノッシー

自然豊かな湯河原校舎。
みんなから愛されるキャラクター、イノシシをイメージし、湯河原の頭文字を入れて、親しみやすい名前「ユノッシー」と名付けました。

人を「つなぐ」・地域で「つながる」・みんなが「つながりあう」が合言葉

・地域とのつながりを大切にすることで子どもたち自身が認められ、役に立つことの経験を通して将来の自立と社会参加につなげていきます。



神奈川県立

ち が さ き し え ん が っ こ う
茅ヶ崎支援学校

所在地：〒253-0083 茅ヶ崎市西久保 29-1
電話：0467-57-5379 F A X：0467-57-5371
U R L：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/chigasaki-sh
創立：平成 11 年 4 月 1 日
学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）
小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
施設訪問（小学部・中学部）（総合療育相談センター内）
在宅訪問（小学部・中学部・高等部）

〈学校案内図〉

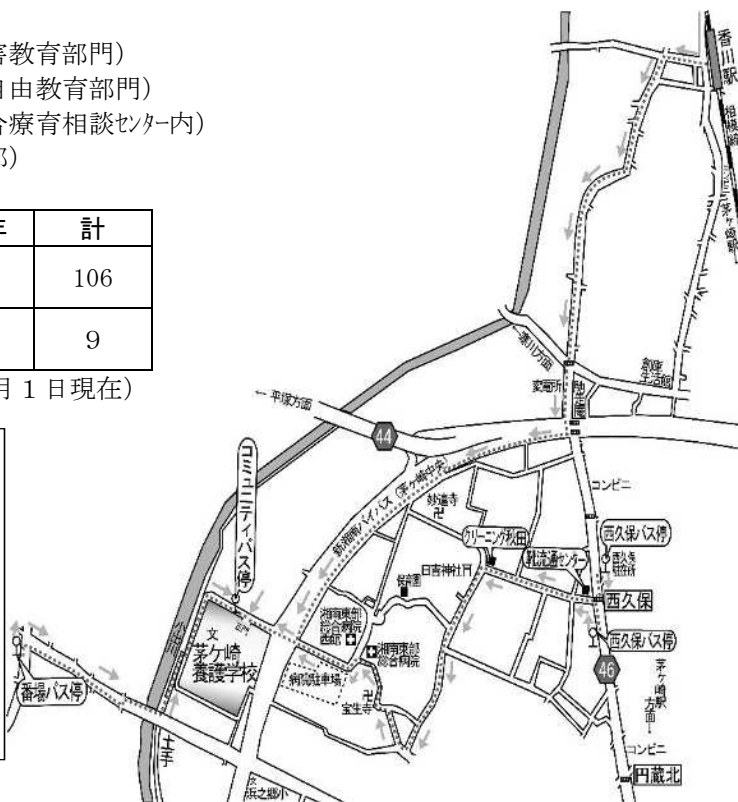
高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	42	30	34	106
肢体不自由教育部門	4	4	1	9

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

利用交通機関

- JR 相模線「香川駅」から徒歩 25 分
- JR 東海道線「茅ヶ崎駅」北口から神奈川中央交通バス、茅 25・26 系統「西久保」下車徒歩 16 分、茅 45 系統「番場」下車徒歩 7 分
- 茅ヶ崎市コミュニティバス鶴嶺北コース「茅ヶ崎駅北」乗車、「茅ヶ崎養護学校前」下車徒歩 0 分



本校の教育

（１）学校教育目標

平成 11 年に開校しました本校は、開校当初より「地域に根ざす開かれた学校」という理念を掲げ、共生社会の実現を目指して取組を進めています。本校の学校教育目標は、「一人ひとりが輝く教育」です。

（２）学校運営方針

学校教育目標の達成に向けて、この 3 つの柱を軸に教育活動を推進していきます。

- ☆質の高い学びを創ります。
- ☆児童生徒が安心できる学級を創ります。
- ☆地域に信頼され、地域とともにある学校を創ります。

＜イメージキャラクター＞

（３）高等部の目標

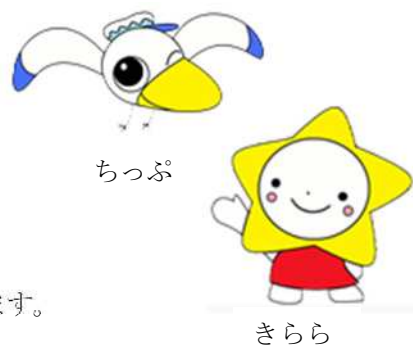
社会生活に向けた確実な力の獲得をめざします。

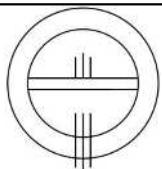
A 高等部（肢体不自由教育部門）

- ①生命や人格を尊重し「豊かな育ち」を確立します。
- ②自立に向けて「確かな生きる力」を獲得します。
- ③地域資源を積極的に活用し「豊かな生活」を確立します。

B 高等部（知的障害教育部門）

- ①生活を豊かにするために、健康な体と健全な心を育てます。
- ②日常の基礎的・基本的学習を充実させ、自立するための力を養います。
- ③集団生活を通して、共に助け合いながら成長する力を養います。





神奈川県立

い せ は ら し え ん が っ こ う
伊勢原支援学校

所在地：〒259-1116 伊勢原市石田 1390

電 話：0463-93-7916

F A X：0463-96-2457

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/isehara-sh>

創 立：昭和 53 年 4 月 10 日

学 部：小学部・中学部・高等部

(知的障害教育部門)

高等部生徒数

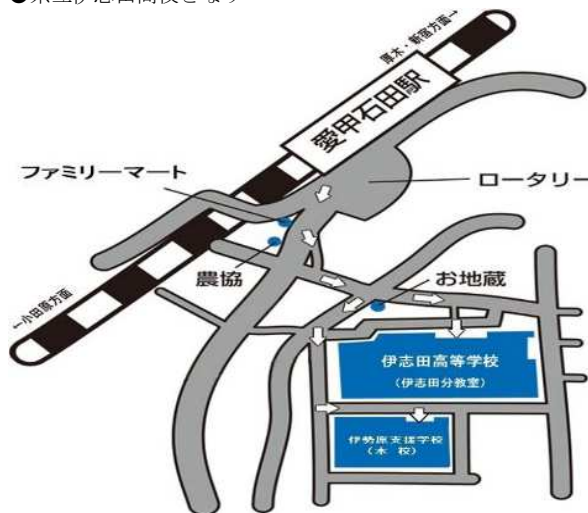
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	38	38	35	111

(生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

- 小田急線「愛甲石田」駅 徒歩 10 分
- 県立伊志田高校となり



本校は昭和 53 年 4 月 10 日に開校しました。

学校からは相模の名山大山を仰ぎ見ることができ、四季それぞれの美しさを感じることもできる恵まれた環境にあります。

本校には小学部から高等部までの児童・生徒が在籍し、明るく元気に学校生活を送っています。



木工班



やきもの班



クッキング班

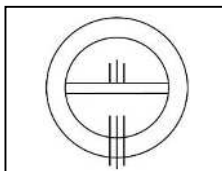
高等部では、青年期にある生徒の心身共に調和のとれた発達を目指し、地域社会の中で、自分らしくいきいきと暮らすことのできる生徒の育成をめざして教育活動に取り組んでいます。

これまで培ってきた力を基盤に、基本的な生活習慣を確立し、自分らしさを探求し、社会の中で自己の役割を発揮する力や態度の育成に努めています。

一人ひとりの生徒の特性や発達に応じて学習形態や学習内容を工夫すると共に、卒業後の社会生活への意識を持たせることや具体的な経験を積むことをねらいとして作業学習や現場実習等を行っています。

●校章の由来●

大山独楽をモチーフにしたデザインです。まっすぐで丈夫な材質の心棒が中心にある独楽は良く回ることから、健康で明るく心のまっすぐな人間の育成をめざす本校の象徴としました。



神奈川県立

いせはらしえんがっこういしだぶんきょうしつ
伊勢原支援学校伊志田分教室

所在地：〒259-1116 伊勢原市石田 1356-1

電話：0463-93-0082

F A X：0463-93-0083

U R L：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/isehara-sh>

設置：平成 24 年 4 月 1 日

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

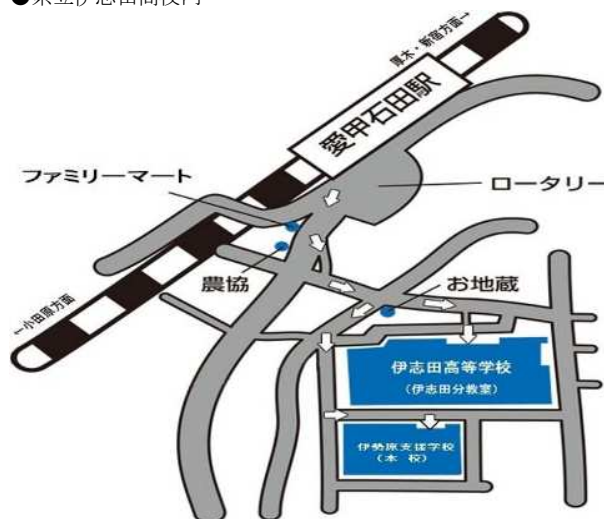
	1 年	2 年	3 年	計
知的障害教育部門	15	15	15	45

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- 小田急線「愛甲石田」駅 徒歩 10 分
- 県立伊志田高校内



伊志田分教室は、知的障害教育部門の特別支援学校である伊勢原養護学校の分教室として、平成 24 年 4 月 1 日に、県立伊志田高校内に設置されました。

伊志田分教室と伊勢原支援学校本校は、道路一つを隔てた場所に向かい合うように並んでいます。最寄り駅は、小田急線愛甲石田駅で、徒歩で 10 分ほどの場所にあり、現在、1～3 年の合計 45 名の生徒が在籍し、元気に学校生活を送っています。

伊志田分教室では、

- ・社会参加と自立に向けて、生徒一人ひとりのニーズに応じた教育を行い、青年期にある生徒の心身共に調和のとれた発達をめざす。
- ・地域社会の中で生き、活躍するために必要な基礎体力を養うとともに、知識・技能を高め、主体的に課題を解決する力及び解決しようとする態度を育てる。

を教育目標の大きな 2 つの柱とし、さらに 5 つの目標を設定しています。

- (1) 情緒の安定を図り、健全な心と健康な心身の発達を目指す。
- (2) 基本的な生活習慣を確立し、自立するための力を育てる。
- (3) 豊かな人間性を養い、社会に貢献できる力を育てる。
- (4) 他人を尊重し、助け合う力を育てる。
- (5) 職業自立するために必要な知識・技能・態度の習得をめざし、活用する力を育てる。

教育目標を実現するために、伊志田分教室では、職業自立に向けた計画的な進路指導・進路支援を充実させるとともに、生徒一人ひとりのニーズを把握し、そのニーズに応じた個別の支援計画、個別教育計画を作成して、一人ひとりの目標達成を目指し、継続した指導・支援を行います。そして、生徒の社会自立を目指すことを念頭に置いた教育課程を編成し、社会で生きるために必要なこと、余暇の楽しみ方等、生きがいのある生活をするための学習を学校生活の中で行います。



神奈川県立

し え ん が っ こ う
えびな支援学校

所在地:〒 243-0422 海老名市中新田 4-5-1

電 話:046-292-5612

F A X:046-292-5620

U R L:https://www.pen-kanagawa.ed.jp/ebina-sh

創 立:平成28年 4 月 1 日

学 部:小学部・中学部・高等部(知的障害教育部門)

小学部・中学部・高等部(肢体不自由教育部門)

高等部生徒数

	1年	2年	3年
知的障害教育部門	37	32	35
肢体不自由教育部門	9	0	5

(生徒数については、令和 5 年 5 月 1 日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

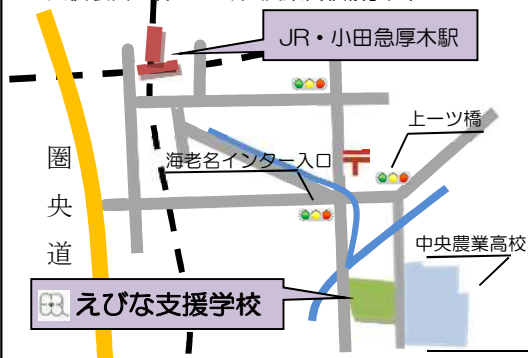
●小田急小田原線および JR 相模線

「厚木」駅より徒歩20分

●小田急小田原線

「海老名」駅東口より路線バス6番乗り場

長後駅西口行バス7分「農業高校前」下車



地域で豊かに暮らし、働く

- 中央農業高校等、近隣の学校と連携した教育活動(作業・交流)
- 地域との交流及び共同学習<ふれあいサロン・えびなタイム(クラブ活動)・作業>

知肢合同学習
(授業や行事)

- いのちを大切にする心を育む
「いのちの授業」
- 地域の皆さんの避難も想定した
実際の防災計画・防災教育



ひろ
げる

みらい
未来へつなぐ

まも
守る

はぐく
育む

地域の方と…

食品加工・喫茶班

「ふれあいサロン」

中央農業高校の生徒と…

「いのちの授業」

動物とのふれあい

- 将来を見据えた主体性、能動性をはぐくむキャリア教育
- タブレット・PC 等 ICT 機器の活用

- 新学習指導要領による小・中・高の系統性のある教育課程
- 個別教育計画に合理的配慮を明記
- 「考えて」「わかり」「できる」授業の実践





神奈川県立

ざ ま し え ん が つ こ う
座 間 支 援 学 校

所在地：〒252-0029 座間名市入谷西5丁目10番1号

電話：046-255-2253

FAX：046-252-5379

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh>

創立：昭和54年4月1日

学部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）
：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数（本校）

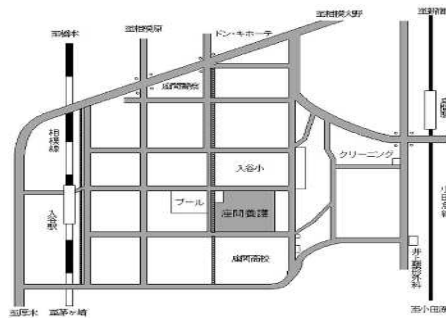
	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	4	4	2	10
知的障害教育部門	28	21	24	73

（生徒数については令和5年5月1日現在）

＜学校案内図＞

利用交通機関

- 小田急線 座間駅下車 徒歩6分
- JR相模線 入谷駅下車 徒歩7分



教育・サポート
システム

共に考える

個別教育計画

在学中から卒業後までの生活を見通して、どんなサービスが必要か、本人や保護者と共に考え、医療、福祉等、他機関とのコーディネートを行っています。

次につながる

個別教育計画

9月・2月の2回個別教育計画に基づいた指導について評価し、以降の指導方法を本人・保護者の方と共に考える資料にします。

地域と連携した

就労体験学習

1年生では、学校近隣の店舗や事務所に行って働く体験をします。働いた実体験から多くを学びます。

進路につながる

現場実習

3年生を中心に、実際に企業や事業所等に通い実習を行います。また、2年生もニーズに応じて実習を行います。

いきいきとした生活にむけて

力をのばす授業づくり

授業は本人や保護者の方と一緒に作成する個別教育計画に基づいて行います。そのために保護者の方との面接を大切に、今何が必要か共に考え、本当に必要な力をはぐくんでいきます。

1年生から進路を意識

1年生から本人の興味や特性に応じた進路について、夢や迷いも含めて相談していきます。

1年生から校内実習や就労体験学習に組み、2、3年生では実際に就労場面を想定した実習を積み重ねていきます。

豊かな体験 学校行事

学校生活はそれ自体が経験の場です。学校行事は自分の力に気づくよい機会となります。遠足や校外学習、校外宿泊学習、修学旅行、座間養ミュージアムは貴重な体験の場となります。

高等部
(肢体不自由教育部門)

高等部
(知的障害教育部門)

小学部
(肢体不自由教育部門)

中学部
(肢体不自由教育部門)

あなたの
サポーター

学級担任

「いっしょに頑張ろう」

進路支援担当

「夢の実現に
向けて走ります!!」

教育相談

コーディネーター

「地域とのネットワーク
作りをお手伝いしま
す」
「自立活動教諭(OT・PT)
と一緒に、より
学習しやすい
環境作りを
お手伝いします」
「困っていることを
相談してね」

自立活動教諭
(看護師)

「医療的ケアを教員と
ともに実施します」

担当医

「医療的ケアを
担当します」



神奈川県立

ざ ま し え ん が っ こ う あ り ま ぶ ん き ょ う し つ
座間支援学校有馬分教室

所在地：〒243-0424 海老名市社家5-27-1

(県立有馬高等学校内)

電話：046-238-1349

FAX：046-238-1359

URL：https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh

設置：平成20年4月1日

学部：高等部(知的障害教育部門)

生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	15	15	12	42

(生徒数については、令和5年5月1日現在)

<学校案内図>



本校のノウハウと分教室の特徴を生かした教育活動

こんなポイント！

◇就労準備性を高める指導を展開します◇

- 近隣企業や地域資源を活用したインターンシップ活動
毎週火曜日に近隣の企業、公共施設において職業体験学習をしています。
- 毎週火曜日または木曜日に、受注作業学習として企業からの受注品を扱った軽作業や校内の清掃作業に取り組んでいます。
- およそ2週間程度の校内・現場実習を年に2回実施しています。



◇相談活動を通し、一人ひとりを大切にします◇



- カウンセリング室を常備し、生徒の相談を受けています。また、専門職による相談日も設けています。
- 生徒、保護者との面談を年間計画の中に位置づけています。互いにじっくり話す機会を通し、自分に向き合う時間を大切にします。
- 福祉行政機関や福祉支援事業所などの各支援機関と連携、協働し、福祉サービスの利用や就業生活へのサポートを相談できます。

◇社会性・協調性を育て、自分を高めます◇

- 就業生活に欠かせない身体づくりに取り組んでいます。朝のトレーニングではランニングや各種運動に取り組んでいます。
- 基礎教科(国語・数学・理科・社会等)で実生活に役立つ授業を展開します。
- パソコン室を常設し、週1時間の情報教育に取り組んでいます。
- 県立有馬高校との交流活動として、対面式(4月)、体育祭(6月)、有輝祭(9月)、ロードレース大会(2月)、合同合唱コンクール(3月)等の行事に参加し、交流活動を図っています。



有馬高校



教室



カウンセリング室



PC室



神奈川県立

ざましえんがっこうさがみこうようかんぶんきょうしつ
座間支援学校相模向陽館分教室

所在地：〒252-0003 座間市ひばりが丘3-58-1
(県立相模向陽館高等学校内)

電話：046-298-0038

FAX：046-298-0039

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/zama-sh>

設置：平成22年4月1日

学部：高等部（知的障害教育部門）

生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障害教育部門	5	12	12	29

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図> 利用交通機関

- 相鉄線 さがみ野駅下車 徒歩20分
- 小田急江ノ島線 鶴間駅下車 徒歩30分



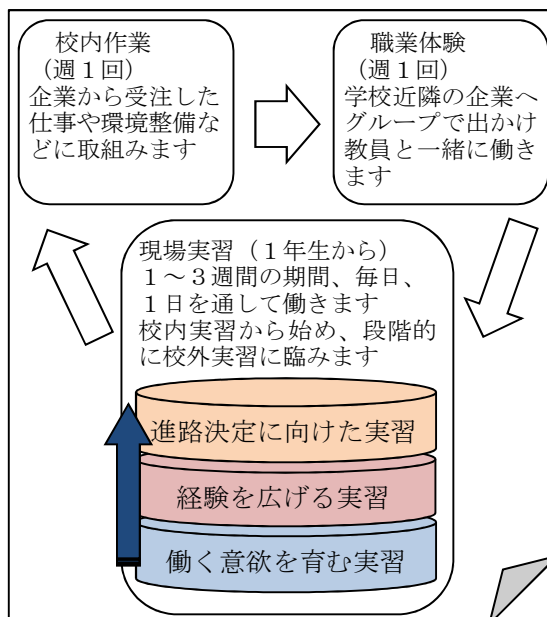
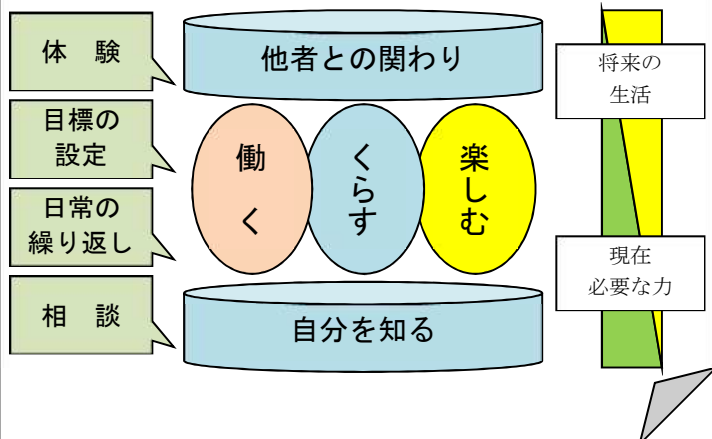
いきいきと自ら学ぶ意欲を大切に、自立と社会参加に向けて、
身体作りと体験学習を重視し働き続けることのできる力を育てます

自立と社会参加を進める力を育てる教育

(取組む方法)

(取組む内容)

(取組む視点)



1階部分が分教室です

そのほかにも

- 自分を知ることや、情報を活用し将来を考える力、周りの人と良い関係を結ぶ力などキャリア教育の視点を踏まえた取組みを進めます
- 一人1台のパソコンで情報の学習に取り組めます
- 個別のニーズに合わせて、地域の福祉や労働の各機関との連携を行います。



横浜市立

もう とく べつ し えん がっ こう
盲 特 別 支 援 学 校



所在地及び学校付近の略図



所在地：横浜市神奈川区松見町1丁目26番地 〒221-0005

電話：045-431-1629

FAX：045-423-0284

URL：<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/yokomou>

創立：明治21年2月1日（鍼灸柔按医術講習学校）

学部：幼稚部・小学部・中学部・高等部（視覚障害部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
本科普通科	4	11	5	20
専攻科保健科	5	0	1	6
専攻科理療科	7	4	2	13

（生徒数については令和5年5月1日現在）

利用交通機関

- 東急東横線「妙蓮寺駅」より徒歩12分
- JR横浜線「大口駅」より徒歩8分
- 京浜急行線「子安駅」より徒歩24分
- 市営バス59系統「盲学校入口」下車より徒歩6分

1 日本で三番目に創立された盲特別支援学校

「みなとみらい地区」を望む神奈川区大口の丘の上に本校はあります。

目が見えにくかったり・見えなかったり・見えなくなる可能性があるために、特別な支援を必要とする幼児児童生徒のための学校です。幼稚部、小学部、中学部、高等部本科普通科・高等部専攻科があり、81名の在校生が、将来の「社会参加・自立」を目指して、多くの教職員・スタッフとともに毎日学習しています。

2 本科普通科の教育

高等学校に準じた教科学習を行うとともに、「自立活動」の時間で、見えにくくても上手に生活・学習していく方法を学びます。また、視覚障害以外の障害を併せ有する生徒に対しても能力・特性に応じた指導をしています。

○生徒の実態と一人一人の進路を踏まえて、次のコース・グループ制をとっています。

- ・生活コース：自立活動を中心に日常生活に必要な力の向上を図り、社会の中で生きる力を身につけます。
- ・職業コース：義務教育段階の教科学習を基礎として、働く姿勢や働くための知識・技能を身につけます。
- ・総合コース：高等学校に準じた学習を中心として、それぞれの進路に向けた知識・技能を身につけます。

3 運動部での活発な活動

本校では運動部の活動が盛んです。バレーボール、卓球のルールを視覚障害者が行いやすいように変えたフロアバレーボール、サウンドテーブルテニス（STT）などに取り組んでいます。国体など全国大会や関東大会に出場し優勝するなど好成績をあげています。

4 卒業後の進路

面談や実習、作業学習などを通じて自らの長所や課題を見つけるとともに、一人一人の希望や障害の特性に応じた進路を選べるよう、個に応じた支援を行っています。また、社会人・職業人として自立していくために必要なルールやマナーを学んでいます。進路先は、大学・専門学校への進学や就職、福祉的就労などさまざまです。

5 専攻科保健理療科および理療科（大学の入学資格を有する方が対象です）

高等部専攻科は視覚障害者の職業的自立を目指し、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧（三療）の技術を身につけ、国家試験の受験資格が得られる学科です。

あん摩マッサージ指圧師の免許取得をめざす「保健理療科」と、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の免許取得をめざす「理療科」の2つのコースがあります。ともに修業年限は3年です。



横浜市立

とくべつしえんがっこう
ろう特別支援学校

所在地：〒240-0067 横浜市保土ヶ谷区常盤台 81-1

電話：045-335-0411 (代)

FAX：045-333-4807

メール：ysyokoro@edu.city.yokohama.jp

URL：https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/ro/

創立：大正15.3.15

学部：幼稚部・小学部・中学部・高等部

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
普通科	9	6	8	23
ビジネス科	0	0	3	3

(生徒数については令和5年5月1日現在)

＜学校案内図＞

利用交通機関

●横浜駅西口バスターミナルより

市営バス 201・202 系統、相鉄バス 浜5 系統、神奈中バス 1 系統 「岡沢町」下車徒歩 5 分

●相鉄線和田町駅より

徒歩 20 分または市営バス 202 系統「和田町」乗車「岡沢町」下車徒歩 5 分

●市営地下鉄線三ツ沢上町駅より

徒歩 20 分または市営バス 201 系統、神奈中バス 1 系統「三ツ沢上町駅前」乗車「岡沢町」下車徒歩 5 分



高等部の学習の目標

普通科	・義務教育で学習した基礎的内容についての定着と伸長を図り、進学や就職に必要な一般教養を身に付ける。 ・生徒の特性に応じ、卒業後を見据え、個々のニーズに合わせた教育を行う。
ビジネス科	・義務教育で学習した基礎的内容の定着と伸長を図りながら、簿記やビジネス実務の専門的な技術・技能の習得を目指す。

*教科学習に力を入れています。

聴覚の障害に応じた指導方法を工夫し、高等学校の教育課程に準じたカリキュラム(英語を含む)に対応しています。また、学習習熟度に合わせたグループ編成の上、見て分かる教科指導を行っています。

*資格取得に力を入れています。

学習の目標の一つとして資格取得を推奨しており、各種の検定に合格者を出しています。漢字検定や英語検定は本校を準会場として受験することもでき、特に英語検定のリスニングテストは、聴覚障害者対応の特別措置のもとで受験することができます。

《最近3年間における取得実績》

漢字検定2級、英語検定2級、全商ビジネス文書検定1級、全商情報処理検定2級、全商情報処理プログラミング2級、日商簿記検定3級、全経簿記検定2級、数学検定準2級 等

*部活動も盛んです。

部員数少数の良さを生かした指導をしますので、技量の上達のみならず、他学部他学年との交流を通じた精神的成長も期待できます。ろう学校の各大会(関東地区・全国)や、中高等学校の大会にも参加し、成果を収めています。(令和4年度:全国聾学校卓球大会男子団体戦3位、全国聾学校陸上大会男子総合2位)

*自立と社会参加をめざし、進路指導にも力を入れています。

近年、大学に進学する生徒も増えています。就職に関しては、生徒の希望や特性を考慮し、新しい分野での就労も視野に入れて支援活動をしています。卒業後のアフターフォローにも力を入れています。



横浜市立

こうなんだい

とくべつし えん がっこう

港南台ひの特別支援学校

所在地：〒 234-0054

横浜市港南区港南台五丁目 3 番 2 号

電 話：045-830-5826

FAX：045-830-5753

URL：

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/konandai-hino/>

創 立：昭和 46 年 4 月

学 部：小学部・中学部・高等部(知的障害教育部門)

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	合計
知的障害教育部門	23	26	17	66

(生徒数は令和 5 年 5 月 1 日現在)

〈学校案内図〉

利用交通機関

● JR 港南台駅徒歩 8 分

● 市営バス 45/64 系統

「港南台中央」下車、徒歩 1 分



●学校教育目標

「たくましく こころゆたかに 生きていく子」

- いろいろなことにとりくみ、できることをひろげよう。(知)
- じぶんをたいせつにし、ひとにやさしくしよう。(徳)
- じょうぶなからだをつくろう。(体)
- ともだちをつくり、たすけあおう。(公)
- あたらしいことにチャレンジしよう (開)

●教育内容

本校では、各教科・領域指導の充実を目指し、大きく 3 つの学習形態で指導を展開しています。具体的には、①教科・領域の指導、②教科・領域を合わせた指導（日常生活の指導・課題学習・作業学習・道徳）、③学習活動全般にかかわる指導（余暇の指導・社会性の学習・キャリア教育）です。学校教育目標の達成を目指し、これらの学習形態を効果的に活用しながら、学びの定着、発展に取り組んでいます。

●高等部教育目標

「地域・社会へ貢献し、自己の有用感を実感できる豊かな社会生活を送るために必要な力を身につけます」

●高等部の成長過程の目標

- 学びが社会へ繋がっていくことを目指し、自分で考え、行動する意欲・力を育てます。(知)
- 自他を認め、まわりの人に優しく接する気持ちを育みます。(徳)
- 運動やスポーツへの多様なかわり方を知り、健康的な毎日を過ごせる体を育てます。(体)
- 地域や社会の中で互いに認め合い、他者と協働して生きていく力を育てます。(公)
- 多様性を尊重し、地域・社会に貢献する力を育てます。(開)



横浜市立

ほんごうとくべつしえんがっこう

本郷特別支援学校

所在地：〒247-0007

横浜市栄区小菅ヶ谷三丁目37番12号

電話：045-894-2952

FAX：045-894-2954

URL：

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/hongo/>

創立：昭和54年4月

学部：小学部・中学部・高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
生徒数	19	18	19	56

（生徒数については令和5年5月1日現在）



1 高等部の教育

- ・学校教育目標「わかって動ける力を身につけます」
「適切なコミュニケーション力を身につけます」
「心身ともに健康・安全に生活する力を身につけます」



ほっくん

本郷特別支援学校

マスコットキャラクター

高等部の主な行事

【前期】

4月	5月	6月	7月	9月
入学式 新入生歓迎会 家庭訪問 (3年宿泊学習)	運動会 生徒会選挙 3年現場実習	個人面談 水泳指導	地域公共施設訪問	個人面談 (1年宿泊学習)

【後期】

10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年現場実習 授業参観・懇談会 (2年修学旅行)	ほんごう祭	個人面談 1・2年校内実習 高等部入学検査	2年体験実習	遠足 卒業生を送る会 個人面談	卒業式 修了式

2 卒業後の進路

日々の学校生活や作業学習、実習などを通じて自らの長所を伸ばし、課題に向き合うとともに、ひとり一人の希望や障害の特性に応じた進路を選ぶよう、個に応じた支援を行っています。また、社会人として必要なルールやマナーを学んでいます。進路先は、福祉的就労、生活介護事業所への通所などさまざまです。



横浜市立

ひのちゅうおうこうとくべつしえんがっこう 日野中央高等特別支援学校

所在地：〒234-0053

横浜市港南区日野中央 2-25-3

電話：045-844-3015

FAX：045-846-8448

URL：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/hinochuokoto/

創立：昭和 56 年 4 月 1 日

学部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
知的障害部門	66	61	64	191

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

< 学校案内図 >

利用交通機関

●京急・市営地下鉄上大岡駅より市バス 111 系統「洋光台北口」下車徒歩 1 分

●JR 根岸線洋光台駅より市バス 111(上大岡行き)・112 系統(上永谷行き)「洋光台北口」下車徒歩 1 分



< 学校教育目標 >

○自ら学び、人と共に、より良い明日をつくる生徒を育成します。

日野中央高等特別支援学校では、スクールミッション・スクールポリシーを基本として学校教育目標の具体的な取り組みを進めていきます。

学年目標を設定することで学びの道筋を示し、グランドデザインに基づき、全教科で教育活動を展開し本校に関わる全ての人にとって優しく、分かりやすい学校を目指します。

< 本校の特色 >

○専門学科○

専門実習：工業・クリエイティブ科（木工課、紙工課、縫工課、革工課）と流通・サービス科（メンテナンス課、グリーンサービス課、オフィスサービス課、ロジスティクス課）にある 8 課から選択し学習します。1・3 年と 2・3 年で縦割り（合同）学習をします。

1 年：各学科から 1 課を選択し、2 課での取り組みで基礎的基本的な態度や技能を身につけます。

2 年：1 年時に履修した 2 課から 1 課を選択し、自分の役割を理解し、仲間と協力して、主体的に働く意欲や態度を育てます。

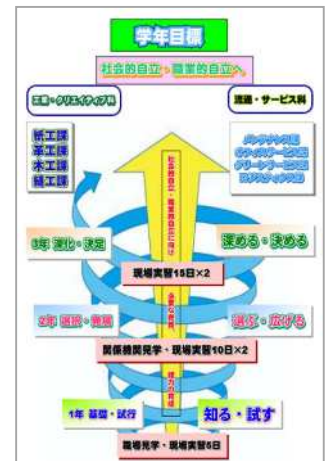
3 年：自己の力を確かなものとし、主体性や協調性の向上を目指します。

○職業に関する学習○

職業基礎：働くことの意義について理解を深め、実習に取り組むための意識を育て、職場に必要な態度を身につけます。

現場実習：1 年の後期から企業や関係機関の方々の協力の下、現場実習を実施します。学習の中で培ってきた力を現場で実践し、地域社会の中で、自立した生活をする力が備わっているかを確認する総仕上げと位置づけています。

卒後支援：関係機関等とも連携をとりながら、進路先への定着を図っています。





横浜市立

ふたつばしこうとうとくべつしえんがっこう
二つ橋高等特別支援学校

所在地：〒246-0021

横浜市瀬谷区二つ橋町470番地

電 話：045-391-2131

FAX：045-391-2193

URL：http://www.edu.city.yokohama.jp/
sch/ss/futatsubashikoto/

創 立：平成19年4月1日

学 部：高等部（知的障害教育部門）

高等部生徒数

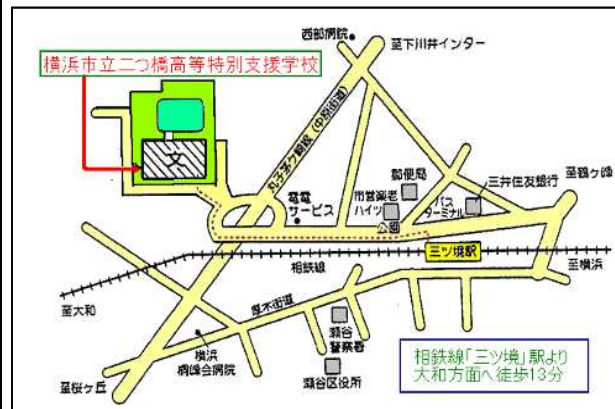
	1年	2年	3年	合計
知的障害部門	48	40	42	130

（生徒数については 令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

●相鉄線三ツ境駅より線路沿いに徒歩13分



●学校教育目標（上は生徒たちの目標、◎は教職員の目標です。）

（1）「働 く」：社会貢献できる職業人を目指します。

◎「働く」ことを目指した学習を進め、積極的に社会貢献しようとする人を育てます。

（2）「自 立」：自立できる社会人を目指します。

◎「社会に貢献できる人」としての育ちを通して、社会的・精神的・経済的に自立していく態度・姿勢を高め、健康的で文化的な生活を目指す人を育てます。

（3）「自己実現」：自分と他者を共に大切にし、社会生活の中での自己実現に向かって努力します。

◎「社会人」としての基礎的素養を育むとともに、自己や他者の特性や長所等を理解したうえで自他を尊重し、人や社会とのかかわりの中で「自分らしさ」を生かした生き方を実現していこうとする人を育てます。

●指導・支援の重点

（1）自己表現、自己決定、自己責任の力を育てる指導を行います。

自分の思いを適切に表現し、必要な情報を得ながら自ら考えて判断しながら生きていける力を育てます。

（2）生徒自身や社会のニーズに応じた進路支援、職業教育を行います。

社会状況等の変化をふまえつつ、一人ひとりの特性やキャリア発達に応じた進路支援、職業教育を進めます。

（3）企業や支援機関等との協働による就労支援を行います。

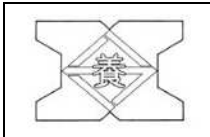
早期からの就業体験実習を重視し、生徒一人ひとりが「働く」「自立する」ことの意識や意欲を高めることができるように就労支援、職業教育を進めます。

（4）自立生活の実現を目指した指導を行います。

家庭生活や社会生活のより確実な自立を目指すため、基本的な生活習慣の確立や日常生活に必要な知識や技能の習得を図ります。

（5）自ら「学び」「創り」「参加」する機会を重視した文化やスポーツの教育を行います。

生徒一人ひとりが、文化やスポーツを楽しみながら学び、新たなものを創造し、主体的に参加していくための教育を進めます。



横浜市立

かみすげたとくべつしえんがっこう
上菅田特別支援学校

所在地：〒240-0051

横浜市保土ヶ谷区上菅田町 462

電 話：045-382-0420

F A X：045-382-0413

U R L：

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/kamisugeta/>

創 立：昭和 49 年 4 月 1 日

学 部：小学部、中学部、高等部（肢体不自由教育）

本校高等部生徒数

	1 年	2 年	3 年	計
肢体不自由教育部門	25	18	19	62

（生徒数については令和 5 年 5 月 1 日現在）

交通

◎横浜駅西口バスターミナルより

(1)市バス 92 系統 急行「笹山団地」行にて

寺下橋下車、徒歩 5 分。

(2)相鉄バス「上星川駅」行 七里堰下車、徒歩 6 分

(3)市バス 83 系統「上菅田東部公園（旧旭硝子前）」

行 終点下車、徒歩 1 分

◎相鉄線上星川駅下車 国道 16 号バス停より

(4)相鉄バス「横浜駅西口行（羽沢経由）」

七里堰下車、徒歩 6 分。

(5)上記(1)92 系統・1 系統にても可



学校教育目標

自分らしく豊かに学び 輝き 生きる力を育てます。

○自らの思いや考えを深め豊かに表現する力を育てます（知）

○自分を大切にし、人を思いやるやさしさを育てます（徳）

○健康で心豊かに安全に生活する力を育てます（体）

○地域・社会の一員として生きる力を育てます（公）

○様々な人と共に生き、未来をつくる力を育てます（開）

キャリア教育目標

いつまでも自分らしく、社会とともにいきいきと暮らしていけるよう、自己理解・自己選択・自己決定・自己表現の力を育てます。

一人ひとりの良さや強みを見つけ、増やし、伸ばし、社会に貢献できる人を育てます。

年間行事計画(予定)

4	前期始業式 入学式 新入生歓迎会 避難訓練 防災学習会
5	授業参観 個人面談・家庭訪問
6	高 1 遠足 高 3 修学旅行
7	高等部入学希望者説明会
8	
9	総合防災訓練 スポーツフェスティバル
10	前期終業式 後期始業式 高等部オープンスクール 個人面談
11	* 高等部入学願書受付 高 2 校外宿泊
12	* 高等部入学検査 * 高等部入学検査結果発表 学習発表会・かみすげたマーケット
1	
2	卒業を祝う会 個人面談
3	卒業証書授与式 修了式 * 新転入生保護者説明会



横浜市立

なか むら とく べつ し えん がっこう

中村特別支援学校

所在地：〒232-0033 横浜市内南区中村町4-269-1

電話：045-261-9863

FAX：045-261-9872

URL：<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/nakamura/>

創立：昭和57年4月

学部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由教育部門）

*平成28年に横浜医療センター港南内に港南分教室を開設

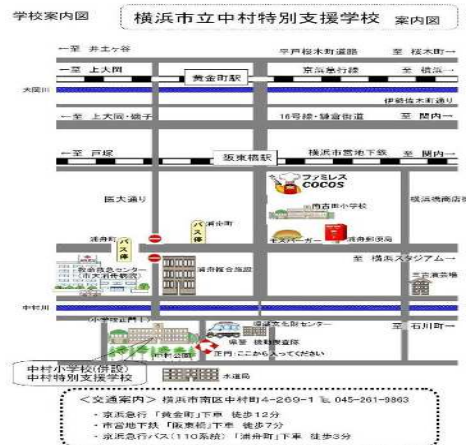
高等部生徒数

肢体不自由教育部門	1年	2年	3年	計
本校	3	8	3	14
港南分教室	4	8	8	20

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関



横浜市立中村特別支援学校のめざす教育



保護者



地域



教職員



関係機関

思い・願い

学校教育目標

一人ひとりが生き生きと楽しく生活できる力を高めます

- ・一人ひとりの能力や可能性を伸ばします。
- ・健康で安全に楽しさあふれる学校生活を送れるようにします。
- ・社会参加を推進し、充実した地域生活を送れるようにします。

「個別的教育支援計画」（個別教育計画を含む） 個別的教育支援計画を充実させ、一人ひとりに応じた教育を進めます。

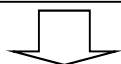
「連携」 保護者、福祉・医療等関係諸機関との連携を密にし、児童生徒の学習や社会参加と地域生活がより充実したものになるように支援します。

「交流教育」 同年代や同地域の子ども達との関わりを大切にし、交流教育を積極的に推進します。

「進路」 社会参加を推進し、卒業後の生活を見据えた教育をすすめていきます。

「医療的ケア」 健康状態に留意し、適切な配慮の下、養護教諭、看護師、教員が連携して実施し、学校生活を快適に過ごせるようにします。

「コミュニケーション」 ふれあいを通して気持ちや要求を伝えようとする意欲をはぐくみます。



高 等 部

（知） 小学部、中学部で培った力を発揮し、夢の実現に向けて、仲間や教員と一緒に充実した学校生活を送ることができるよう支援します。

（徳・体） 医療や福祉との連携の中で、安定した健康状態で過ごせるよう支援します。

（公・開） 社会参加をする中で、自分の感情や要求を積極的に表現する力を高められるように支援します。



横浜市立

わかばだいとくべつしえんがっこう
若葉台特別支援学校
 (横浜わかば学園)

所在地 : 〒241-0801 横浜市旭区若葉台2丁目1-1

電話 : 045-923-1300

FAX : 045-923-1305

URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/wakabadaiko/>

創立 : 平成25年1月1日 肢体不自由教育部門(A部門)

緑区新治町から移転・校名変更し開校

4月1日 知的障害教育部門(B部門) 高等部を開設

学 部 : A部門; 小学部、中学部、高等部

B部門; 高等部

高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体A部門	4	6	7	17
知的B部門	25	29	25	79

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<交通機関>

JR十日市場駅 バス「若葉台近隣公園前」

東急田園都市線 青葉台駅

バス「若葉台近隣公園前」

相鉄線「三ツ境駅」 バス「若葉台南」



学校教育目標

○一人ひとりを大切にした教育を行い、地域とともに歩み、自立と社会参加を目指す教育を充実させます。

教育方針【A部門】

- 個に応じた指導を行います。
- 集団づくりを目指した指導を行います。
- 子どもをとりまく人々との連携をはかります。
- 学校や地域の特色を生かした指導を行います。
- 全教職員の協力のもと充実した指導を行います。

教育方針【B部門】

- 3年間で就労を目指します。
- キャリア教育によりコミュニケーション力・マナー・折れない心を育てます。
- 特色; 横浜市立3校目の高等特別支援学校として設置され、現在8期生までが卒業し、社会で活躍しています。

- ① 地域に展開する校内実習(オフィスサポート・ビルメンテナンス・パン工房(カフェわかば))
- ② A部門との交流及び共同学習
- ③ 現場実習の積み重ねで育てる「進路選択できる力」
- ④ 現場実習と校内実習をつなげる「キャリアデザイン」
- ⑤ 教科学習の充実(社会自立に必要な基礎学力・基礎体力)

高等部の主な年間行事計画

4	入学式 始業式 対面式 ☆スポーツデー
5	運動会 ☆高2修学旅行
6	○高3進路校外実習 ☆職場見学・現場実習
7	土曜参観 ○夏季施設見学
8	○高2進路面談
9	○高1遠足 ☆期末テスト
10	ふれあい交流デー 前期終業式 後期始業式 ☆現場実習 ○高3修学旅行
11	オープンスクール週間
12	○学習発表展覧会 ☆スポーツデー
1	☆現場実習 ☆職場見学
2	卒業を祝う会 ☆期末テスト
3	卒業証書授与式 修了式 ☆学習発表会

○はA部門 ☆はB部門



横浜市立

きたつなしまとくべつし えんがっこう
北綱島特別支援学校

所在地：〒223-0053

横浜市港北区綱島西5-14-54

電話：045-545-0126

FAX：045-545-0146

URL：<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/kitatsunashima/>

創立：昭和60年横浜市立大綱養護学校として開設

学部：小学部・中学部・高等部（肢体不自由障害部門）

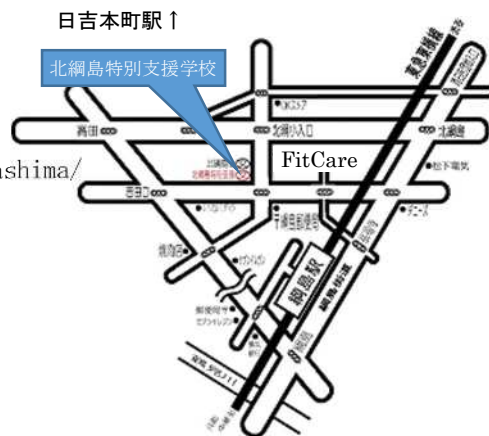
高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
肢体不自由教育部門	4	5	5	13

（生徒数については、令和5年5月1日現在）

学校へのアクセス

- 横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉本町駅」下車 徒歩10分
- 東急東横線「綱島駅」下車 徒歩20分



本校の特色

1 摂食機能に応じた学校給食

本校では、食形態を工夫して次の目標に向かい取り組んでいます。

- (1) 健康の保持、増進
- (2) 摂食機能の改善と向上
- (3) 食事動作の獲得
- (4) 食事に対する意欲的な態度の育成
- (5) 人間関係の育成

2 交流教育

本校では、次のような交流に取り組んでいます。

- (1) 併設校である北綱島小学校との交流
- (2) 近隣の小学校・中学校との交流
- (3) 地域交流（ふれあい教室、トマト狩り、買い物、地域の諸団体との交流）

3 地域関係機関との連携

本校では、ニーズに応じた5つの地域支援活動に取り組んでいます。

- (1) 子どもたちへの支援（地域資源を活用した学習、各区の生活支援事業への継続的な参画等）
- (2) 家庭への支援（学校資源の家庭や訓練会への提供）
- (3) 小中学校への支援（センター的機能の確立、相談機能の充実）
- (4) 地域関係機関との連携（地域への広報、公開授業、就学前機関や進路先との連携充実）
- (5) ボランティア（ボランティア組織の確立、ボランティアに関する啓発、障害理解の推進）



横浜市立

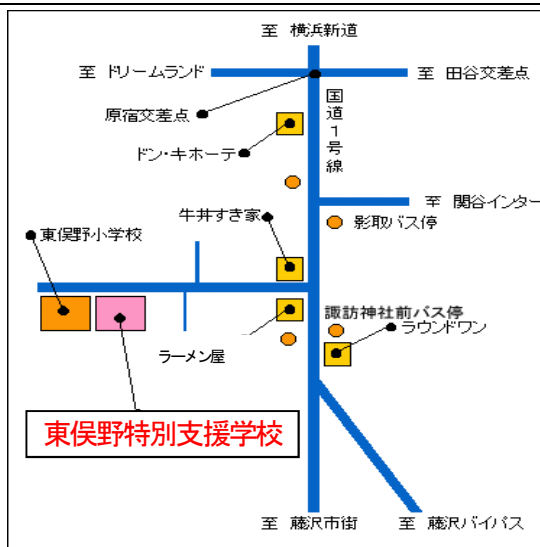
ひがしまたのとくべつしえんがっこう
東俣野特別支援学校

所在地：〒245-0065 横浜市戸塚区東俣野町 1103-1
電話：045-851-9631 (代)
FAX：045-851-9632
URL：http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/higashimatano
e-mail：yse-mata@edu.city.yokohama.jp
創立：昭和61年4月1日
学部：小学部、中学部、高等部

<主に肢体不自由教育>

(高等部は平成23年4月1日より自校化)

- ① JR戸塚駅西口 戸塚バスセンターより
神奈中バス藤沢行き 「影取」下車7分
- ② JR藤沢駅北口 さいか屋前より
神奈中バス戸塚バスセンター行き
「諏訪神社前」下車8分



高等部生徒数

学年	通 学			訪 問			計
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
人数	1	6	3	0	1	0	11

(生徒数は令和5年5月1日現在)

<学校教育目標について>

○学校教育目標

「えがおいっぱい」「ふれあいいっぱい」「あたたかさいっぱい」

- ・気持ちや思いを表現する力を育てます。(知)(徳)
- ・健康な体と豊かな心を育てます。(体)(徳)
- ・地域の一員として、自立する力を育てます。(公)(開)

○高等部教育方針

東俣野特別支援学校高等部は小・中学部の教育をふまえ、高等部までの一貫した教育を通して、教育目標の具現化をはかることを教育方針としています。

<高等部進路について>

- ・「個別的教育支援計画」をもとに、生徒一人ひとりにあった進路を支援します。
- ・社会参加と自立の観点から、自己の個性や興味、関心を生かした進路に関する見学や実習を行い、将来を自ら選択できるように支援します。
- ・特別支援教育コーディネーターと学級担任が中心となり、関係諸機関との連携を密に進めていきます。
- ・生徒と家族の生活全般を考える視点で、福祉サービスの利用、関係諸機関と家族の連携などを深めるよう働きかけます。

高1 高2	・進路説明会 (4月 学級懇談会、9月 高全体) ・見学・実習希望調査 ・進路個別面談 (随時)	・1日体験実習 適宜 ・高2進路面談 (2月)
高3	・事業所見学 (夏季、冬季、随時) ・進路懇談会 (12月 PTA主催)	・CW懇談会 ・進路面談 (9月、11月) ・現場実習 (6～11月)

<交流教育>

本校は、同時開校した東俣野小学校と同一敷地内にあります。校舎がつながっているため、子どもたちは自由に行き来できるようになっています。本校の交流は大きく4つに分けることができます。

1. 東俣野小学校 (隣接小学校) との交流

- ① ペアクラス交流 (本校の1クラスと小学校1～2年生の1クラスで1年間一緒に計画的・継続的に行う)
- ② 仲良し訪問交流 (小学校3年生) ③運動会交流 (小学校4・5年生) ④ふれあい交流
- ⑤ ありがとう交流 (小学校6年生)

2. 学校設置地域との交流 (買い物や散歩など、地域の方々との触れ合い)

3. 近隣学校との交流

4. 居住地域の学校との交流 (副学籍による交流教育)



横浜市立

さこんやま とくべつしえんがっこう
左近山特別支援学校

所在地：〒 241-0831

横浜市旭区左近山 1011

電 話：045-352-1580

F A X：045-352-1582

U R L：http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/

school/ss/sakonyama/

創 立：平成 31 年 4 月

学 部：小学部・中学部・高等部(肢体不自由教育部門)

高 等 部 生 徒 数

	1 年	2 年	3 年	合計
肢体不自由教育部門	6	4	3	13

(生徒数は令和 5 年 5 月 1 日現在)

〈学校案内図〉

利用交通機関

※相鉄線「二俣川駅」南口より

相鉄バス「旭 1 or 旭 6」に乗車

「左近山第 4」下車、徒歩 5 分



1 学校教育目標

「一人ひとりが持てる力を発揮し、みんなと一緒に育つ」

～一人ひとりの願いや思いを大切にし、生きる力を育む～

- (1) 主体的に学び活動することで、将来必要となる力を育む。・ (知)
- (2) 自分ができそうなことに挑戦する力を育む。…………… (徳)
- (3) 自分の体と向き合いながら、明るく活動する力を育む。… (体)
- (4) 友だちや様々な人と共に活動する力を育む。…………… (公)
- (5) 自分の考えや思いを伝え合う力を育む。…………… (開)

2 指導内容と指導形態

【指導内容】

- ・ 教科
- ・ 知的障害者である生徒に対する教育を行う
特別支援学校に設定されている教科
- ・ 自立活動
- ・ 特別活動
- ・ 総合的な探求の時間
- ・ 特別の教科 道徳

【指導形態】

- ・ 学部や学年・クラスで学ぶ
 - ➡ ホームルーム、特別活動、
総合的な探求の時間 など
- ・ グループ等で学ぶ
 - ➡ 各教科 など
- ・ 個々で学ぶ
 - ➡ 自立活動 など

3 訪問教育

障害の状態や家庭の事情等で通学が困難な児童生徒には、訪問教育を行っています。保護者と相談しながら、児童生徒の実態に応じて訪問の回数、時間、指導内容等を定めて指導を行います。



川崎市立

ろう がっ こう
聾 学 校

所在地：〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中3-10-5

電話：044-766-6500

FAX：044-766-5174

URL：http://kawasaki-edu.jp/4/20101rou/

創立：昭和28年4月1日

学部：幼稚部（乳幼児相談含）

小学部・中学部・高等部

高等部生徒数

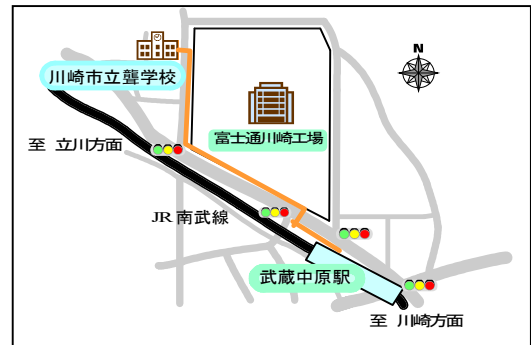
	1年	2年	3年	計
普通科	0	0	0	0
ライフカイト科	3	1	1	5

（生徒数については令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関：JR 南武線

●武蔵中原駅より徒歩8分



<学校教育目標>

- ◎豊かな言語力と確かな基礎学力
- ◎自他ともに大切にする心と自主的に行動する力
- ◎心身ともに健康で、社会を生きぬく力

<全校研究テーマ>

「生きる力
～学びの先を見据えて～」

<高等部重点目標>

- ◎基礎的な知識・技能を獲得し、応用する力を育む
- ◎互いを尊重し、協働する力を育む
- ◎健康な心身を維持し、自分らしい豊かな生活を送る力を育む

高等部の主な行事予定

* 学校説明会	6月 12日（月）
* 遠足	6月 30日（金）
* かしわ祭	10月 28日（土）
* 入学検査	1月 18日（木）
* 入学説明会	2月 9日（金）
* 卒業遠足	2月 27日（火）
* 卒業式	3月 12日（火）

部 活 動

<陸上部> <卓球部> <創作部> <パソコン部>

卒業後の進路状況

就職：ダンウェイ（株） 菱信データ（株）
ウイングビート（株） 住友ベークライト
はたらいふ 横浜建物管理協同組合 他

進学：国立筑波技術大学 亜細亜大学 明治大学 他



川崎市立

ちゅうおうしえん がっこう(ほんこう)
中央支援学校(本校)

所在地：〒213-0011 川崎市高津区久本3-7-1

電 話：044-844-1275

F A X：044-822-7072

U R L：http://kawasaki-edu.jp/4/30105tyuou/

創 立：昭和37年4月1日

学 部：中学部・高等部（知的障害教育部門）

生徒数

	1年	2年	3年	計
高等部	44	43	38	125

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

●JR南武線武蔵溝ノ口駅・

東急田園都市線溝ノ口駅下車

徒歩10分



【学校教育目標】

「自己理解」「自己選択」「自己決定」

<めざす児童生徒像>

- ・自分を大切に、友だちを大切にする児童生徒
- ・自分の好きな事、得意なことを大切にする児童生徒
- ・自分の未来を大切にする児童生徒

<自己理解>

<自己選択>

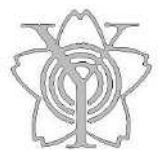
<自己決定>

<重点取組目標>

- (1) 「人権尊重教育」: 主体者である児童生徒一人ひとりの「願い」を実現させる教育活動に取り組みます。そのため、「自立活動」の目標を横断的に捉え、「育てたい力を学校教育活動全体を通して育む指導」に取り組みます。
- (2) 児童生徒が「楽しい」「できた」「わかった」と実感できる授業。学びの「必然性」を意識した取り組み。ICT 機器の有効活用に取り組みます。
- (3) 一人ひとりのライフステージに応じた進路指導・支援に取り組みます。
- (4) 「安全教育」: 児童・生徒の安全や健康に配慮し、生命を大切にした教育を行います。

< 高等部教育目標 >

- (1) 基本的な生活習慣を身につけ、自ら選び判断する力を育てる。
- (2) 一人一人の将来の目標に向けて、体験・学習を通して社会生活力を育てる。
- (3) 仲間を大切にし、集団の中で協力し合い、自らの思いを表現できる力を育てる。
- (4) 働くために必要な知識・技能・態度を養い、社会の中で自立できる力を育てる。



川崎市立

ちゅうおうしえん がっこう ぶんきょうしつ

中央支援学校分教室

所在地：〒213-0053 川崎市中原区上小田中3-10-5
(川崎市立豊学校内)

電話：044-755-5666

FAX：044-755-5666

URL：<http://kawasaki-edu.jp/4/20308tyou-koubun/>

設置：平成23年4月

学部：高等部（知的障害教育部門）

生徒数

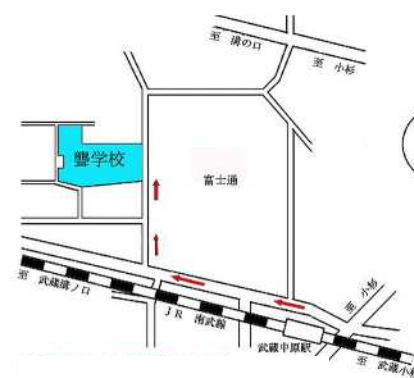
	1年	2年	3年	計
高等部	21	20	23	64

(生徒数については令和5年5月1日現在)

<学校案内図>

利用交通機関

●JR南武線武蔵中原駅 徒歩8分



<教育目標>

1. 企業就労に必要な知識・技能・態度を養い、職業自立ができる力を育てる。
2. 地域・社会で生きるための課題解決及び自己表現の力を育てる。
3. 健康安全の意識を高め、それぞれの生活習慣を確立し、自己管理できる力を育てる。
4. 自他ともに認め合い大切にできる、豊かな心を育てる。

<職業及び社会的な自立にむけての取り組み>

	校内授業	校外授業及び実習	職業1・総合的な探求の時間
1年次	ビルクリーン作業 ・清掃用具の基本操作 ・色々な場所の清掃 ・コミュニケーション	・働くことへの意識づけ ・社会マナーの学習 ・企業見学・校内実習 ・エポックなからは 大戸分教室で週1回の 体験的作業(2業種)	・自己理解 ・仲間作り ・生活習慣作り ・社会生活マナー ・ビジネスマナー ・問題解決力
2年次		・他企業で週1回の体験的 作業(2～3業種)	
3年次	・後輩への技能伝達 パソコン練習	・前期体験実習 ・後期体験実習 ・前期現場実習 ・後期現場実習	・自己表現 ・伝達 ・プレゼンテーション



川崎市立

た じ ま し え ん が っ こ う
田 島 支 援 学 校

所在地：〒210-0853 川崎市川崎区田島町20-5

電 話：044-355-1240

FAX：044-333-6103

URL：http://kawasaki-edu.jp/4/70102tazima/

創 立：昭和61年4月1日

学 部：高等部（知的教育部門・肢体教育部門を設置）

※田島支援学校桜校、さくら分教室に小・中学部があります。

— 高等部生徒数 —

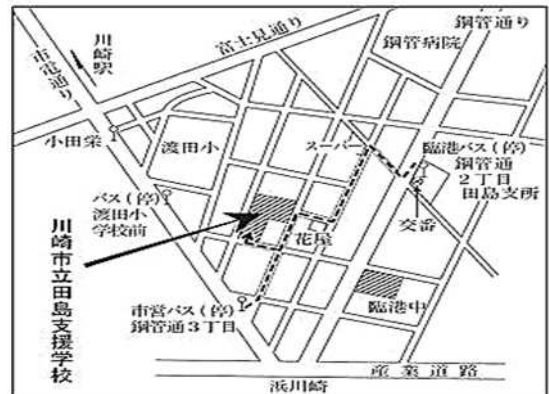
	1年	2年	3年	計
肢体教育部門	1	3	5	9
知的教育部門	53	44	45	142
計	54	47	50	151

（生徒数については令和5年5月1日現在）

<学校案内図>

利用交通機関

- JR川崎駅より【川崎市営バス】川40系統
＜JFE行＞＜水江町行＞＜塩浜営業所行＞
「鋼管通り3丁目」下車 徒歩3分
- JR川崎駅より【臨港バス】川24系統
＜鋼管循環＞
「鋼管通2丁目」下車 徒歩5分



川崎市立田島支援学校の教育理念と教育目標

豊かななかかわり合いを通して育ちあう ～ 相互輔生（互いに優しく、互いに育ちあう）の関係を構築します～

田島支援学校では、児童生徒を学習面・行動面・対人関係において、総合的に教育することが大切であると考えています。そのためには、児童生徒と教職員の豊かななかかわりが必要となります。学校においては、子どもたち同士やかかわる大人が、互いに優しく互いに育ちあう相互輔生の関係を構築することを教育の理念とします。この児童生徒と教師の関係を土台に、小学部・中学部・高等部といった連続性のある学習内容の指導、行動面、対人関係面での成長を促す指導を実施します。

高等部における“めざす子ども像”（育成する資質・能力）

- 自ら興味関心の幅を広げ、相手に伝わるように発信する生徒（知育）
- 人との関わりの中で、自他を認め、判断し行動する生徒（徳育）
- 自分の心と身体への理解を深め、主体的に活動する生徒（体育）

教育の視点（学校教育目標）

- 自分の気持ちが伝わり、分かり合える経験を通して自分を大切に育てる。
- 基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。
- 人やもの・自然や社会とのかかわりを通して、共に生きる力を育てる。
- 自ら考え決定する経験を通して、豊かに生きる力を育てる。
- 自らの「からだ」と「感じる心」を大切にし、健やかに生きる力を育てる。



令和4年度 卒業生進路状況

企 業		13名
就労支援	移行	4名
	継続	17名
生活介護		13名
地域活動		0名
職業訓練		1名
自立訓練		7名
その他		1名

※高等部では、肢体教育部門Ⅰ・Ⅱコース、知的教育部門は2年次よりⅢ・Ⅳ・Ⅴコースのコース制を導入しています。



よこすかしりつ
横須賀市立

がっこう
ろう学校

所在地 〒238-0023

横須賀市森崎 5 丁目 13 番地 1 号

電話 046-834-1172

FAX 046-834-0096

ことばやきこえの教室

電話 046-834-4469

E-mail admini@rou-sd.yknet.ed.jp

U R L hyyp://schoolnet.yknet.ed.jp/
schoolnet/special/251rou

創立 昭和4年5月28日

学部 幼稚部・小学部・中学部・高等部

ひよこ教室(乳幼児)・ことばやきこえの教室(通級)

高等部生徒数 (生徒数については令和5年5月1日現在)

	1年	2年	3年	計
高等部	3	1	1	5

- バスで
- ・衣笠十字路から井戸店下車 徒歩 5 分
 - ・衣笠十字路から森崎 5 丁目下車 徒歩 2 分
 - ・北久里浜駅から森崎リアンシティー前下車 徒歩 6 分
 - ・北久里浜駅から森崎 5 丁目下車 徒歩 2 分

- 車で 横横道路 衣笠インターから衣笠方面
井戸店交差点を右折



1. 聴覚障がいに対応した教育活動を実施しています。

①次の目標で自立活動を実施しています。

- ・日本語の力を伸ばす ・個々のニーズにあったコミュニケーション手段を活用する。
- ・障がいを認識し、社会に目をむける ・聴覚の活用、管理ができるようにする。

②聴覚障がいに対するさまざまな検査・指導を実施しています。

- ・裸耳聴力測定と補聴器装用時の聴力測定の実施 ・補聴器に関する相談と管理、フィッティングの実施
- ・発音調査と発音指導の実施

2. さまざまな障がいに対して個別対応を行っています。

・A コース (対象:就職、訓練校等)

(高等部1年から3年まで毎年職場実習を行い、就職指導に力を入れています)

過去の進路先: 日産自動車追分工場、筑波大学附属聾学校専攻科、東京都障害者能力開発校、神奈川県障害者能力開発校 他

・B・C コース (対象:大学進学文系、理科系)

過去の進学先: 戸板女子短大、淑徳短大等、筑波技術大学 横浜国立大学、関東学院大学

3. 検定試験を実施しています。

- ・ワープロ検定、情報処理技能検定、漢字検定、英語検定

4. 体験学習、部活動に力を入れています。

- ・体験学習: 修学旅行2泊3日 等
- ・部活動: 運動部、文化部



藤沢市立

しら はま よう ご がっ こう
白 浜 養 護 学 校

所在地：〒251-0046 藤沢市辻堂西海岸1-2-2

電 話：0466（33）1500

FAX：0466（37）1066

URL：http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/shshi/

創 立：1962年（昭和37年）4月

学 部：小学部・中学部・高等部（知的障がい教育部門）

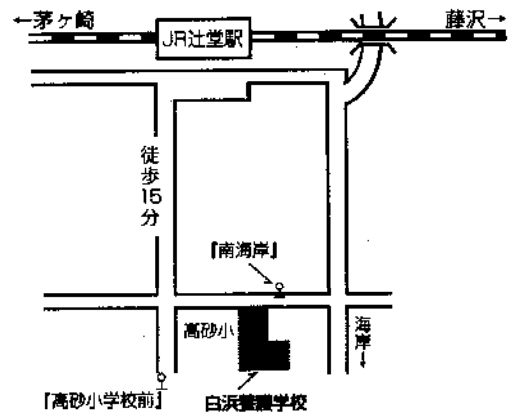
高等部生徒数

	1年	2年	3年	計
知的障がい教育部門	15	9	10	34

（生徒数については令和5年5月1日現在）

<学校案内図> 利用公共交通機関

- JR 東海道線辻堂駅より徒歩 15 分
- 藤沢駅北口から「辻堂団地」行きバス 15 分
バス停「南海岸」下車徒歩 1 分



学校教育目標 ～子ども一人ひとりが生き生きと活動する学校生活をめざして～

児童生徒一人ひとりの能力や特性、心身の状態に応じた指導を行い、生きる力をはぐむ。

高等部の教育目標 『主体的に生きる力と働く力を育む』

- （1）日々の学習や生活に意欲的に取り組み、自分の可能性を拓けようとする姿勢を育てる。
- （2）自分の意志を人に伝えると同時に、周りの人の気持ちや考えを受け止め、豊かな人間関係を築く力を育てる。
- （3）社会生活に必要な基本的知識や技能を身につけ、働くことを学びながら主体的に社会参加ができる力を育てる。
- （4）健康な身体と豊かな心を育み、生き生きとした楽しい生活を送ることができる力を育てる。

本校高等部の教育課程編成のポイント

一人ひとりの発達段階や特性に応じたグループ編成を行うことで、学習効果を高め、卒業後の社会生活への円滑な移行に取り組んでいきます。

- 学年、学級グループ（A課題、音楽、美術、体育、LHR、総合、特別活動、日常生活の指導）
 - ・基礎集団としての学年や学級で、互いに理解しあい、共感しあう喜びを知る。
- 学年を越えた課題別学習グループ（B課題、作業、選択）
 - ・個別の教育的ニーズに対応し、きめ細かな指導に重点をおく学習グループ。

高等部日課表

曜日	月			火			水			木			金		
学年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
9:00	日常生活の指導 (準備・朝の会等)														
9:35															
9:35	L・H・R			日常生活の指導(朝の運動)											
10:00															
10:10	A課題			作 業			B課題			作 業			A課題		
11:00															
11:10	A課題			作 業			B課題			作 業			A課題		
12:00															
12:00	日常生活の指導(給食・食育等)														
12:50															
12:50	昼 休 み														
13:20	13:10 選択教科														
	14:00			総 合											
14:10				体 育											
				音 楽											
				英 術											
				英 語											
				体 育											
				音 楽											
				音 楽											
				英 術											
				体 育											
	日常生活の指導 (下校準備・帰りの会)														
	下 校			日常生活の指導(清掃等)											
	14:30			日常生活の指導 (下校準備・帰りの会)											
15:00				下 校											

資 料

神奈川県内の特別支援学校一覧（県立）

凡例

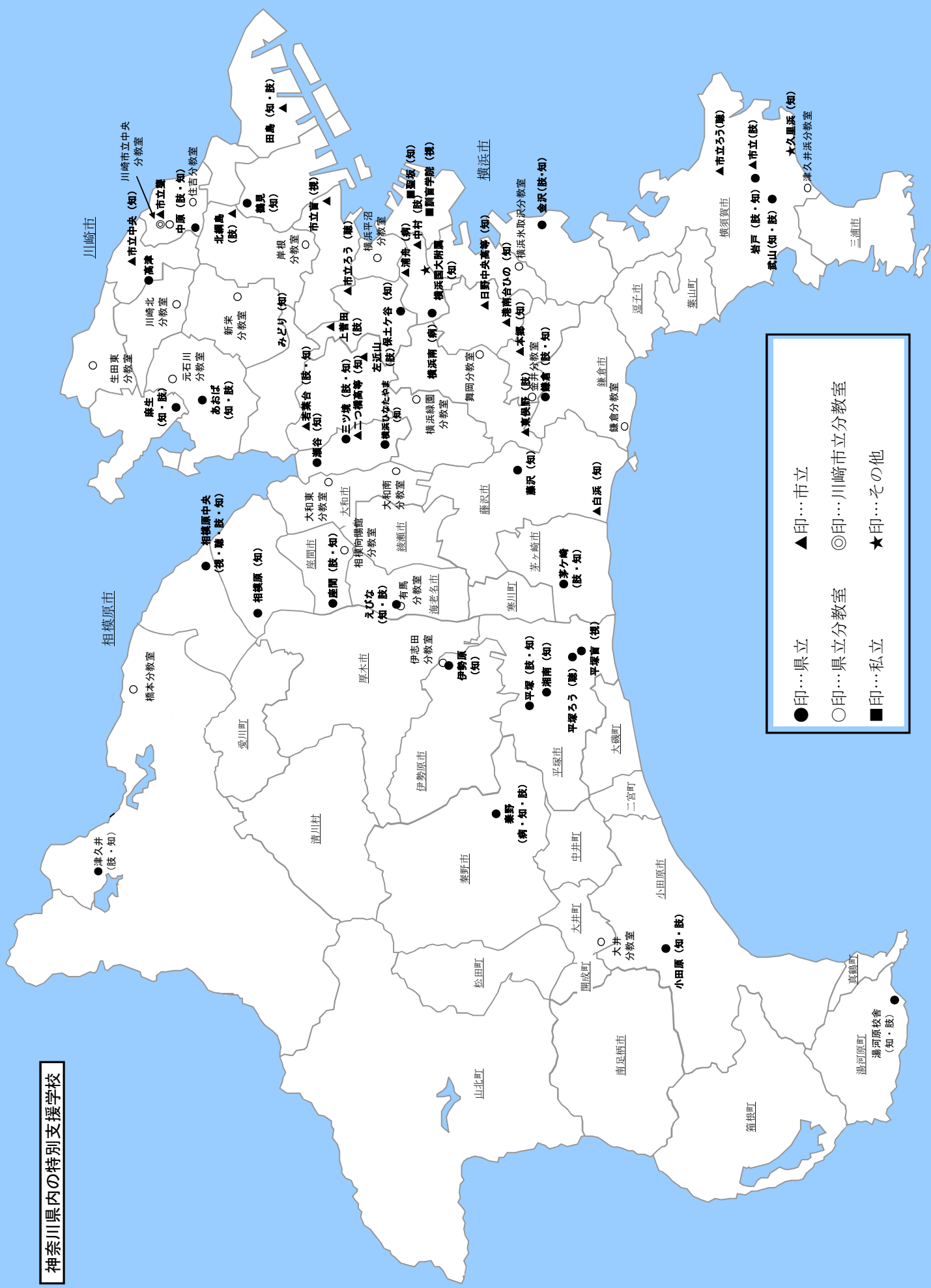
幼：幼稚部	視：視覚障害教育部門
小：小学部	聴：聴覚障害教育部門
中：中学部	知：知的障害教育部門
高：高等部本科	肢：肢体不自由教育部門
専：高等部専攻科	病：病弱教育部門

	学校名	郵便番号	所在地	電話	FAX	設置学部				
						幼	小	中	高	専
県立										
1	平塚盲学校	254-0047	平塚市追分10-1	0463(31)0948	0463(31)5996	視	視	視	視	視
2	平塚ろう学校	254-0074	平塚市大原2-1	0463(32)0129	0463(32)1646	聴	聴	聴	聴	聴
3	鶴見支援学校	230-0071	横浜市鶴見区駒岡4-40-1	045(573)4787	045(584)8502		知	知	知	
3b	〃分教室〔岸根高校内〕	222-0034	横浜市港北区岸根町370	045(439)3050	045(401)0138				知	
4	横浜南支援学校	232-0066	横浜市南区六ッ川2-138-4	045(712)4046	045(742)9710		病	病	病	
5	保土ヶ谷支援学校	240-0026	横浜市保土ヶ谷区権太坂1-8-1	045(714)0126	045(742)9716		知	知	知	
5b	〃分教室〔舞岡高校内〕	244-0814	横浜市戸塚区南舞岡3-36-1	045(823)9654	045(825)5412				知	
5c	〃分教室〔横浜平沼高校内〕	220-0073	横浜市西区岡野1-5-8	045(328)2010	045(328)2011				知	
6	金沢支援学校	236-0051	横浜市金沢区富岡東2-6-1	045(770)0456	045(775)4121		知肢	知肢	知肢	
6b	〃分教室〔横浜水取沢高校内〕	235-0043	横浜市磯子区水取沢町938-2	045(778)1065	045(778)1066				知	
7	みどり支援学校	226-0002	横浜市緑区東本郷5-18-1	045(471)7941	045(474)4707		知	知	知	
7b	〃分教室〔新栄高校内〕	224-0035	横浜市都筑区新栄町1-1	045(591)6443	045(591)6472				知	
8	あおば支援学校	227-0041	横浜市青葉区上谷本町109	045(978)1161	045(978)1160		知肢	知肢	知肢	
9	瀬谷支援学校	246-0005	横浜市瀬谷区竹村町28-1	045(302)1617	045(304)2950		知	知	知	
9b	〃分教室〔大和東高校内〕	242-0011	大和市深見1760	046(264)2061	046(264)2062				知	
9c	〃分教室〔大和南高校内〕	242-0014	大和市上和田2557	046(279)6577	046(279)6578				知	
10	三ツ境支援学校	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町468	045(365)3711	045(361)9695		肢	肢	知肢	
10b	〃分教室〔横浜緑園高校内〕	245-0003	横浜市泉区岡津町2667	045(811)5231	045(811)5232				知	
11	横浜ひなたやま支援学校	246-0034	横浜市瀬谷区南瀬谷2-20	045(300)5611	045(303)2330				知	
12	中原支援学校	211-0035	川崎市中原区井田3-13-1	044(755)1632	044(752)7786		肢	肢	知肢	
12b	〃分教室〔住吉高校内〕	211-0021	川崎市中原区木月住吉町34-1	044(430)1016	044(430)1017				知	
13	高津支援学校	213-0035	川崎市高津区向ヶ丘16	044(865)0477	044(877)2626		知	知	知	
13b	〃分教室〔生田東高校内〕	214-0038	川崎市多摩区生田4-32-1	044(931)1020	044(931)1020				知	
13c	〃分教室〔川崎北高校内〕	216-0003	川崎市宮前区有馬3-22-1	044(870)1040	044(870)1041				知	
14	麻生支援学校	215-0013	川崎市麻生区王禅寺303-1	044(980)4855	044(986)2517		知肢	知肢	知肢	
14b	〃分教室〔元石川高校内〕	225-0004	横浜市青葉区元石川町4116	045(905)0037	045(905)0038				知	
15	津久井支援学校	252-0175	相模原市緑区若柳44	042(684)4860	042(684)4861		知肢	知肢	知肢	
16	相模原支援学校	252-0336	相模原市南区当麻814	042(778)0331	042(778)4957		知	知	知	
16b	〃分教室〔橋本高校内〕	252-0143	相模原市緑区橋本8-8-1	042(700)1621	042(774)0870				知	
17	相模原中央支援学校	252-0221	相模原市中央区高根1-5-36	042(768)8510	042(768)8519	視聴	視聴 知肢	視聴 知肢	知肢	
18	岩戸支援学校	239-0844	横須賀市岩戸5-6-5	046(839)4500	046(849)3200				知肢	
19	武山支援学校	238-0313	横須賀市武3-35-1	046(856)5800	046(857)6367		知肢	知肢	知肢	
19b	〃分教室〔津久井浜高校内〕	239-0843	横須賀市津久井4-4-1	046(848)2137	046(848)2147				知	
20	平塚支援学校	259-1215	平塚市寺田縄590	0463(58)0456	0463(59)4248		知肢	知肢	知肢	
21	湘南支援学校	254-0061	平塚市御殿4-14-1	0463(34)7212	0463(34)8707		知	知	知	
22	秦野支援学校	257-0025	秦野市落合500	0463(81)0948	0463(83)4118		知 肢病	知 肢病	知 肢病	
23	鎌倉支援学校	247-0075	鎌倉市関谷566	0467(45)1482	0467(43)4804		肢	肢	知肢	
23b	〃分教室〔金井高校内〕	244-0845	横浜市栄区金井町100	045(852)4722	045(852)4738				知	
24	藤沢支援学校	252-0813	藤沢市亀井野2547-19	0466(82)9418	0466(83)3520		知	知	知	
24b	〃分教室〔鎌倉高校内〕	248-0026	鎌倉市七里ガ浜2-21-1	0467(32)8721	0467(32)8722				知	
25	小田原支援学校	250-0865	小田原市蓮正寺1021	0465(37)2755	0465(37)5356		知肢	知肢	知肢	
25b	〃分教室〔大井高校内〕	258-0017	足柄上郡大井町西大井984-1	0465(86)0040	0465(86)0041				知	
25c	〃湯河原校舎	259-0301	足柄下郡湯河原町中央2-21-3	0465(60)1800	0465(60)1805		知肢	知肢	知肢	
26	茅ヶ崎支援学校	253-0083	茅ヶ崎市西久保29-1	0467(57)5379	0467(57)5371		知肢	知肢	知肢	
27	伊勢原支援学校	259-1116	伊勢原市石田1390	0463(93)7916	0463(96)2457		知	知	知	
27b	〃分教室〔伊志田高校内〕	259-1116	伊勢原市石田1356-1	0463(93)0082	0463(93)0083				知	
28	えびな支援学校	243-0422	海老名市中新田4-5-1	046(292)5612	046(292)5620		知肢	知肢	知肢	
29	座間支援学校	252-0029	座間市入谷西5-10-1	046(255)2253	046(252)5379		肢	肢	知肢	
29b	〃分教室〔有馬高校内〕	243-0424	海老名市社家5-27-1	046(238)1349	046(238)1359				知	
29c	〃分教室〔相模向陽館高校内〕	252-0003	座間市ひばりが丘3-58-1	046(298)0038	046(298)0039				知	

神奈川県内の特別支援学校一覧（県立以外）

	学校名	郵便番号	所在地	電話	FAX	設置学部				
						幼	小	中	高	専
横浜市立										
30	盲特別支援学校	221-0005	横浜市神奈川区松見町1-26	045(431)1629	045(423)0284	視	視	視	視	視
31	ろう特別支援学校	240-0067	横浜市保土ヶ谷区常盤台81-1	045(335)0411	045(333)4807	聴	聴	聴	聴	
32	浦舟特別支援学校	232-0024	横浜市南区浦舟町3-46	045(243)2624	045(243)2625		病	病		
33	港南台ひの特別支援学校	234-0054	横浜市港南区港南台5-3-2	045(830)5826	045(830)5753		知	知	知	
34	上菅田特別支援学校	240-0051	横浜市保土ヶ谷区上菅田町462	045(382)0420	045(382)0413		肢	肢	肢	
35	本郷特別支援学校	247-0007	横浜市栄区小菅ヶ谷3-37-12	045(894)2952	045(894)2954		知	知	知	
36	日野中央高等特別支援学校	234-0053	横浜市港南区日野中央2-25-3	045(844)3015	045(846)8448				知	
37	中村特別支援学校	232-0033	横浜市南区中村町4-269-1	045(261)9863	045(261)9872		肢	肢	肢	
38	若葉台特別支援学校	241-0801	横浜市旭区若葉台2-1-1	045(923)1300	045(923)1305		肢	肢	知肢	
39	北綱島特別支援学校	223-0053	横浜市港北区綱島西5-14-54	045(545)0126	045(545)0146		肢	肢	肢	
40	東俣野特別支援学校	245-0065	横浜市戸塚区東俣野町1103-1	045(851)9631	045(851)9632		肢	肢	肢	
41	二つ橋高等特別支援学校	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町470	045(391)2131	045(391)2193				知	
42	左近山特別支援学校	241-0831	横浜市旭区左近山1011	045(352)1580	045(352)1582		肢	肢	肢	
川崎市立										
43	聾学校	211-0053	川崎市中原区上小田中3-10-5	044(766)6500	044(766)5174	聴	聴	聴	聴	
44	中央支援学校	213-0011	川崎市高津区久本3-7-1	044(844)1275	044(822)7072			知	知	
44b	〃 高等部分教室〔市立聾学校内〕	211-0053	川崎市中原区上小田中3-10-5	044(755)5666	044(755)5666				知	
44c	〃 小学部大戸分教室〔市立大戸小学校内〕	211-0041	川崎市中原区下小田中1-4-1	044(766)3868	044(766)3868		知肢			
44d	〃 小学部福田分教室〔市立福田小学校内〕	214-0021	川崎市多摩区宿河原3-18-1	044(922)5735	044(922)5735		知肢			
45	田島支援学校（高等部）	210-0853	川崎市川崎区田島町20-5	044(355)1240	044(333)6103				知肢	
45b	桜校（小学部・中学部）	210-0832	川崎市川崎区池上新町1-1-3	044(299)2861	044(299)2874		知肢	知肢		
横須賀市立										
46	ろう学校	238-0023	横須賀市森崎5-13-1	046(834)1172	046(834)0096	聴	聴	聴	聴	
47	養護学校	239-0844	横須賀市岩戸5-6-4	046(849)6465	046(849)6559		肢	肢		
藤沢市立										
48	白浜養護学校	251-0046	藤沢市辻堂西海岸1-2-2	0466(33)1500	0466(37)1066		知	知	知	
国立大学法人										
49	筑波大学附属久里浜特別支援学校	239-0841	横須賀市野比5-1-2	046(848)3441	046(848)3740	知	知			
50	横浜国立大学教育学部附属特別支援学校	232-0061	横浜市南区大岡2-31-3	045(742)2291	045(743)4746		知	知	知	
私立										
51	横浜訓盲学院	231-0847	横浜市中区竹之丸181	045(641)2626	045(641)2627	視	視	視	視	視
52	聖坂支援学校	231-0862	横浜市中区山手町140	045(622)2974	045(622)2923		知	知	知	知

神奈川県内の特別支援学校



輝 け き み の 明 日
－特別支援学校版－
令和6年度入学生にむけて

発 行 令和5年5月
編 集 神奈川県教育委員会教育局支援部特別支援教育課
横浜市中区日本大通1（〒231-8588）
電話 （045）210-8288（直通）